



地区館事業

平成 30 年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿革〕

青葉区中央市民センターは、昭和 40 年 4 月、市立東二番丁小学校に「仙台市市民教養センター」として開設され、昭和 61 年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館した。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピア一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高い。また、仙台市の日本語講座が継続的に行われていることから来館する外国人も多く、国際交流の場としても一翼を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★記憶、現在そして未来へ		
参加者	どなたでも	延参加者	122 人
開催日	全 3 回 8 月 24 日（金）、9 月 8 日（土）、10 月 13 日（土）		
協力者・協力団体	せんだい 3.11 メモリアル交流館		
ねらい	震災から 7 年が経過し、市民の中に温度差がみられることを受け、忘れてはならない震災の記憶や未来に向けてのメッセージを発信する。		
概要・成果	震災をテーマにしたミュージカルを鑑賞し、せんだい 3.11 メモリアル交流館や震災遺構仙台市荒浜小学校の見学、仙台市防犯・減災アドバイザーの「備え」についてのお話などを聞き受講生の方々は風化しかかった震災の記憶を呼び起こし風化させてはならないことを認識したようであった。それにより、それぞれが防災や減災に対する意識を再び高め、改めて震災の記憶をたどることで、市民の中の震災に対する温度差を埋めた。また、せんだい 3.11 メモリアル交流館の周知に貢献でき、市民に関心を持ってもらう一助となった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子人形劇鑑賞会	地域の幼稚園やその P T A と共催し、地域のだれもが鑑賞できる人形劇鑑賞会を開催した。未就園児や保護者が幼稚園の生活を見学体験できるような工夫が必要だった。	11 月 8 日	1	165
子育てサロンーパンダくらぶ	親子ボックスや食育講話、ハンドマッサージ体験、参加者同士の交流をもち、子育てに関する悩みを共有する機会とした。さらに、参加者の企画を講座に取り入れる工夫をした。	7 月 12 日～ 10 月 25 日	5	94
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童や世話人が危険予知トレーニングやレクリエーションゲームの進め方を体験した。	1 月 26 日	1	44
外国語活動「ハロウィン集会」	東二番丁小学校の授業である外国語活動「ハロウィン集会」で留学生と児童との交流の機会を提供した。	10 月 23 日	1	135

《青葉区》

あおばカレッジ	高齢者がいきいきと心豊かな生活が送れるような健康、歴史、環境、文化などの多岐にわたる内容の講座を実施した。講座終了後も受講生同士の交流が盛んに行われた。	5月18日～ 2月15日	9	342
市民企画講座 町と心を結ぶ「なかよし絵馬」	東二番丁小3年生や東二番丁幼稚園の有志を対象に三社祭に関する歴史などを学んだ。ダンボールの絵馬に願いを書き、祭や地域のイベントで展示した。	4月12日～ 12月14日	7	106
まちなか元気いっぱいプロジェクト	サンモール一番町を会場に、地域団体や住民、企業、商店と協力し、「七タTANZAKUフェスタ」「のび☆ハロ@一番町」を開催した。	8月6日 8月7日 8月8日 10月26日	4	3,036
第15回ふれあい祭「和気藹々☆一番町」	市民センターを利用している各種サークルや団体の活動発表。地域の小・中学校の作品展示やステージ発表などを開催した。	9月30日	1	1,240
一番町ミュージック ♪タイム	フルートとピアノ、声楽とピアノ、マリンバとピアノなど季節に合わせたロビーコンサートを開催した。	9月6日 12月13日 2月7日	3	154
青中懇話会	学校や地域団体、子育て機関、企業との情報交換の場を設け、地域課題について話し合った。また市民センター事業について紹介した。	6月28日 1月24日	2	47
まったりお茶の間文庫	ロビー図書の有効利用のために地域住民とともに、蔵書の整理や配架スペースの検討をした。公開講座としておはなし会を開催し、多くの方にご来場いただいた。	4月17日～ 3月19日	12	113

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ジュニアリーダーへの活動支援

青少年ボランティア活動の一環として、当市民センターを活動拠点としているジュニアリーダーサークル「Blue Leaf Spirits」は、地域の子ども会や商店街などからの様々な活動要請に取り組んでいる。

市民センターでは、サークル定例会、ジュニアリーダーの登録、ジュニアリーダー要請への対応、スキルアップに向けた研修・学習会の支援等を行い、また、近隣商店街で行われる多くの祭りやイベントで活躍できるようコーディネートする等、活動の後押しをしている。

柏木市民センター

〔沿革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台女子高等学校の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつ多目的ホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域をつなぐ「へくり沢散歩道」活用事業 ― へくり沢散歩道に親しむ ―		
参加者	成人	延参加者	99 人
開催日	全 4 回 6 月 2 日（土）、8 月 21 日（火）、11 月 10 日（土）、2 月 23 日（土）		
協力団体	八幡地区町内連合会・国見地区連合町内会・八幡小学校・八幡児童館		
ねらい	かつて、柏木八幡地区を流れていた「へくり沢」は、高低差がある特有な地形を有し、伊達政宗が青葉城を築城した時代に、交通の難所として名高い場所であった。しかし、震災復興や都市化を経て、こうした地域の特殊性は見えにくいものとなっている。そのため、当市民センターでは、地域の地理的・歴史的な特徴を次世代や地域の方々に伝えるため、地形模型やジオラマ、ウォーキングマップ、案内板などを製作し、地域住民とともに学習・調査等を行ってきた。平成 30 年度は、講座から育ったボランティアガイドが「へくり沢」散歩道を紹介・案内する事業に取り組み、ネットワークを強めるとともに地域づくりに参加する人材の育成を目指す。		
概要・成果	平成 29 年度に、国見地域～広瀬川にかけてのへくり沢経路に案内板（8 ヶ所）を設置した。また、このルートを散歩道としてウォーキングマップも作成した。平成 30 年度は、案内板とマップを活用し、地域に広報してウォーキング講座を行い、案内をボランティアガイドが行った。また、この「へくり沢」の歴史と地形を眼下に見ることができる宮城県知事公館を会場として講演会や「地域の魅力を再発見」をテーマに意見交換会も開催した。 「へくり沢」という地域資源を発信し、地域の魅力を伝える事業に複数年取り組むことで地域住民の力を感じ、さらにつながりを強めることができた。令和元年度は、これまでの成果を生かし、八幡町・柏木・通町の水路に視点を広げ地域のコミュニティづくりにつなげる。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
柏木ワンダーランド	親子で参加できる体験型の講座を開催した。普段、触れる機会の少ない雀踊りや茶道のワークショップを通して、親子のコミュニケーションを深めるきっかけとした。	7 月 1 日 2 月 9 日	2	40
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童と世話人を対象に、子ども会の運営についての知識やレクリエーション・ゲームなどの情報を提供した。	1 月 26 日	1	40
子どもたちと探る四ツ谷用水	通町小学校 4 年生の地域学習で四ツ谷用水をテーマにまち歩きを行い、地域への理解を促すと共にふれあいを通して愛着を深めた。また地域ボランティアのスキルアップも目指した。	11 月 21 日	1	67

《青葉区》

●まざらいん柏木	仙台ものづくり塾実行委員会との共催で、からくり屏風などのものづくりの講座と地域の方が気軽に参加できるコンサートを開催した。	6月16日 7月28日 12月8日 2月2日	4	188
柏梁学院	一般教養の講座の受講を通して、高齢者の心身の健康を保ち、参加同士が交流する機会を提供した。	4月18日～ 3月6日	11	694
地域防災講座	通町小学校、通町町内会連合会と連携し、小学生と地域住民が災害について共に学ぶことを通して、地域の災害課題に向き合うきっかけづくりを行った。町内会と連携して防災訓練と救命救急講習会を実施した。	6月30日 7月18日	2	211
柏木出前講座	町内会や社会福祉協議会、社会学級と連携して、市民センターに足を運びにくい高齢者等にも生涯学習の機会を提供しながら、地域との繋がりを強めた。	7月5日 10月26日 11月11日 11月30日	4	58
●てらまちフェスタ2018—あそびでつながるまちづくり—	地域団体が遊びのブースを出し、また、合奏、座禅、神楽舞鑑賞を通して地域住民に楽しく参加してもらいながら、住民同士の顔の見える関係づくりを目指して開催した。	10月9日	1	500
第15回柏木ふれあいまつり	町内会、利用団体などによる実行委員会で企画し実施した。ステージ発表や展示、出店ブース等を設けるほか、管轄内の学校とも連携を広げ、地域のつながりを深めた。	10月13日	1	800
柏木地域懇談会	市民センターの学区の小中学校（八幡小学校・通町小学校・三条中学校）や地域で活動している主な団体の方々から現況の把握を進めるとともに、市民センター業務についての理解を深める場として行った。	7月6日 11月22日	2	16
市民企画講座「柿渋クラフトをつくりませんか」	地域の柿から作った柿渋液を用いてクラフト作品を作成した。市民企画員が講師アシスタントを務め、受講生と交流を図りながら講座運営を行った。受講生からは今後の柿渋講座のボランティア希望もあった。	2月13日 2月20日	2	22
ボランティア「元気アップ柏木」養成講座	「元気アップ柏木」のメンバーを増やし、活動の幅を広げ、地域の要請に広く応えられるように、地域資源を活用したもののづくりを養成講座で実施した。	5月15日～ 10月19日	6	46
市民企画会「柿渋ミーツィング」	これまで作った柿渋液を活用した講座を実施するため、市民企画員が学習しながら講座の内容を企画した。	6月29日～ 2月20日	9	27

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

国見学区民体育振興会への活動支援・通町児童館への活動支援

平成30年度は、へくり沢マップをきっかけに国見学区民体育振興会ウォーキング部からの依頼を受け「へくり沢散歩道事業」に関わった参加者がボランティアガイドとして活躍した。他にも各団体等から依頼があれば、ボランティアガイドを派遣するコーディネートを行っている。また、通町児童館からは、地域内のお寺にある柿を使った行事を行うための「柿もぎ」の依頼があり、地域の方を講師として紹介し柿もぎの仕方を児童に指導した。

柏木地域は歴史資源が多く、市民センターではへくり沢や四ツ谷用水などの案内や伝承を行う人材の発掘と育成に取り組むとともに、懇談会を開催し地域の魅力発信、ボランティアガイドの養成について意見交換を行った。

北山市民センター

〔沿革〕

北山市民センターは、昭和49年7月に北山福祉会館として設置され(所管は仙台市社会福祉協議会)、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成2年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成23年1月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡神社、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	北山地区歴史ガイドボランティア次世代養成講座		
参加者	成人	延参加者	274人
開催日	全10回 6月16日(土)～3月13日(水)		
協力者・協力団体	北山ガイドボランティア		
ねらい	当センターの養成講座から立ち上がった「北山ガイドボランティア」は、歴史講話の開催や小学校のまち歩きガイドを通し、地域に貢献している。しかしながら、ガイドボランティアの高齢化等、これからの活動を担う人材育成が課題となっていることから、次世代に繋がる担い手づくりのための人材養成を目指す。		
概要・成果	外部講師による歴史講話と、先輩ガイドによる初級講座や史跡学習を実施した。受講生は、地域資源の歴史的価値を再認識するとともに学習意欲を更に高め、新たに9名のガイドボランティアが入会した。 また、先輩ガイドボランティア会員も教える側になったことにより、既知の知識を学び直す良い機会となり、会活動の活性化に繋がった。		

〔平成30年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ルンルン子育て講座 2018	国見地区民生委員児童委員協議会と連携し、月齢に合わせた季節感ある内容を企画・実施し、親子同士の交流の場を増やすとともに地域の子育てを支援した。	4月24日～2月26日	9	183
通町小学校連携講座「わたしのまちの歴史探検」	通町小学校5年生の総合学習の一環として、市民センターの講座から立ち上がり活動している北山ガイドボランティアと一緒に地域の寺院を見学し、その歴史的価値を学習した。	6月8日	1	76
インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を目的に、児童と世話人への学習機会を提供した。児童は実践的なゲーム研修、世話人は講話や情報交換等でより良い子ども会運営を学んだ。	1月26日	1	40
北山シルバースクール 2018	歴史講話、介護予防健康マージャン、文学あれこれ、NHK見学、楽器演奏鑑賞などを実施した。またクリニカルアートを作成し、市民センターまつりで展示発表する等、さまざまなテーマを意欲的に学習した。	5月25日～2月22日	9	398

●北山地区合同防災訓練	市民センターが担う補助避難所としての機能を果たすため、地域住民による運営委員会を立ち上げ国見地区連合町内会東部ブロックが実施する防災訓練で、補助避難所訓練を実施した。	8月29日～ 11月16日	6	83
第11回北山交流まつり	北山地域の特色ある「まつり」となるように、学生ボランティアや地域団体の協力を得て、参加団体及び地域住民が主体となって開催した。新たな団体の参加もあり、国際色豊かに地域交流が進んだ。	10月7日	1	600
地域懇談会	市民センター事業や施設管理の理解促進を図り、地域課題を把握するため懇談会を実施した。夜間講座を開催してほしいとの要望を踏まえ、次年度は医学講座を実施することとなった。	6月6日 11月10日	2	27
市民企画会議 「おばけ屋敷プロジェクト」	当初の目的であった学生の視点を生かしながら、ジュニアリーダーや地域団体との連携を深め、地域活性化に繋がる「おばけ屋敷」イベントを企画、実施した。	7月11日～ 9月9日	8	73
市民企画会議を経て 企画する講座	「おばけ屋敷」イベントを開催し、朗読サークルから地域に関わる内容で話をしてもらうことを通して地域への関心が高まった。また、学生やジュニアリーダーの活躍により、地域活性につながる行事を開催できた。	8月25日	1	100

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ジュニアリーダーサークル「朝実巣あかよばく」の活動支援

ジュニアリーダーサークル「朝実巣（あみす）あかよばく」の活動拠点館として、毎月、中学生11名・高校生7名と定例会を開催し、地域の子ども会や区のお祭り、市民センター事業等への参加を働きかけるなどの活動支援を行っている。平成30年度は、新たに中学生5名が加入し、学業やクラブ活動の中、18名で調整しながら、活発に活動することができた。また、バルーンアートなどの講師を手配し、ジュニアリーダーとしてのスキルアップ研修も行った。

福沢市民センター

〔沿革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設し、開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を中心として歴史を感じる雰囲気をもとに、下町情緒に溢れている。反面、仙台市中心部からも近く、マンションも建ち並び新旧住民が混在した地域でもあり、ここ数年地域の総人口は増加に転じている。また、地域内に復興公営住宅が 2 カ所建設され、地域コミュニティの形成がより重要となりつつある中で、地域の交流の場として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ご近所応援団 ～地域ボランティア養成講座		
参加者	どなたでも	延参加者	188 人
開催日	全 15 回 4 月 19 日(木)～2 月 22 日(金)		
協力者・協力団体	花京院地域包括支援センター、中江地区社会福祉協議会、北六日赤奉仕団、仙台市社会福祉協議会青葉区事務所、支えあいセンターあおば		
ねらい	高齢化が進む地域で、地域住民が社会を構成する一員として地域の支え合い体制づくりの担い手となれるよう花京院地域包括支援センターとの共催を軸とし、地域諸団体と連携しながら、様々な年代を対象に地域で活動するボランティアの育成を行う。		
概要・成果	関係諸団体（ボランティアや高齢者支援の専門機関）からのアドバイスを受けて各種講座を開催した結果、高齢化社会での支え合い体制づくりの担い手発掘・ボランティア活動のきっかけ作りに繋がった。地域の 70 代の参加が多かったが、お互いさまの助け合いの精神にボランティアの基礎知識が加わり、今後は地域内の活動の活性化が期待できる。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
エンジョイ！こどもひろば	管内の 2 児童館と連携し、体育館での運動遊びや折り紙など行った。また東北福祉大学ボランティアサークルふぁみりあと共催し、工作を中心としたイベントを行った。	8 月 1 日～ 12 月 2 日	6	367
仙台市子どもインリーダー研修会	児童向けでは具体的なゲームの進め方、世話人向けでは「子供会とは」の講話と情報交換を行った。第 2 部として児童たちによるゲームの実践を行った。	1 月 19 日	1	55
福沢シニア大学	歴史、食文化、科学、健康、音楽、館外学習など様々なテーマで実施し、参加者同士の交流の輪が広がった。	4 月 17 日～ 2 月 21 日	10	515
第 29 回福沢市民センターまつり 2018	福沢市民センターを拠点として活動しているサークル・団体、町内会、地域住民や小中学校、保育園、幼稚園などによる作品展示、舞台発表、出店販売、子ども向けお楽しみコーナー、本のリサイクルコーナーなどを開催した。	11 月 18 日	1	1,100

わが町再発見	児童館とのミニ七夕飾り作り、小田原市営住宅への出前講座（小物作り・折り紙体験）と交流会、地域探訪などに加え、梅田町町内会からの働きかけにより連携して、まち歩きミニ散歩を開催した。	6月8日～ 3月10日	11	221
防災は当たり前！どこでもサバイバル！～その時どうする？～	一般向け「目黒巻」「救急救命講習」、小学生向け「うち防災」、幼児向け「防災ダック」を行い、災害時における初動について考え、スキルを学んだ。地域防災訓練ではしおりを作り、好評を得た。	6月23日～ 3月9日	6	695
福沢懇談会	1回目は市民センターまつり参加団体と、2回目は4児童館の懇談会を開催し、それぞれテーマに即した情報交換を行った。事業の連携にも結び付いている。	6月2日 1月29日	2	22
社会学級共催事業企画「おいしい食事～キホンのキ」	講話だけでなく味覚チェックや簡単レシピを教わった。また、グループワークを取り入れ参加者同士の交流の場となった。	11月27日	1	34
市民企画講座「音楽交流会 in 福沢 Part II」	「蓄音機でのレコード鑑賞会&交流会」「フルーツ&ギターアンサンブル」「親子で楽しむコンサート&お茶っこタイム」を開催し、多くの地域住民が集い、音楽を楽しみながら交流した。	9月4日 12月21日 2月9日 3月5日	4	180
社会学級共催事業企画会議	管内の3小学校社会学級と共催し、講座実施に向けての話し合いを重ね、「食」に関する講座「おいしい食事～キホンのキ」を実施した。	6月20日～ 12月18日	7	41
市民企画会議「音楽交流会 in 福沢 Part II」	大人企画員とママ☆ボラ（ママさんボランティア）企画員の2本立てで会議を行い、音楽を通して地域住民が交流する催しを企画、開催した。	4月26日～ 3月5日	16	88

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「福沢ちえ袋の会」の活動支援

福沢ちえ袋の会は、平成19年度から福沢市民センターを中心に節句の飾り等を指導するボランティアとして活動を続けている。もともとは、地域内の小学校・幼稚園・保育園・児童館等で児童・園児・幼児に「むかし遊び体験（お手玉・割りばし鉄砲・紙とんぼ等の遊び用具の仕組みの学習・制作および実演）」の要請を受けて、その都度活動していた。会員の高齢化と会員数の減少により要請に応えられなくなるという課題を抱えていたが、市民センターの講座と連携して毎年定期的に活動を続けられるようにしたことで、徐々に新会員の加入と若返りが進んでいる。

福沢ちえ袋の会の派遣を福沢市民センターが仲介することも多く、地域になくてはならない大きな存在となっている。

旭ヶ丘市民センター

〔沿革〕

旭ヶ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、スリーエム仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、年間利用者が 10 万人近いことから市内全域を視野に入れ、現代社会における課題を踏まえ、地域資源・人材を活用した事業展開を推進し、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域コミュニティの基盤としての役割を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★災害につよいまちづくり		
参加者	旭丘小学校区町内会等	延参加者	186 人
開催日	全 9 回 4 月 26 日(木) ～ 3 月 14 日(木)		
協力者・協力団体	旭ヶ丘連合町内会、旭ヶ丘南部連合町内会、旭丘小学校、仙台市科学館		
ねらい	避難所運営マニュアルに基づき、旭丘小学校区町内会において避難所運営に特化した訓練を実施し、これらを基に防災に関する話し合いを地域で継続していく。またこの知見を基に地域の防災力向上を目指す。		
概要・成果	平成 30 年度の避難所運営訓練は、仮設トイレ組立、発電機始動、非常用照明、救急救命蘇生術、障害のある方への対応、高齢の方への対応等を行った。年度毎に異動する町内会役員（理事、区長、班長）にとって初めての経験となる方も多し。毎年度実施し、避難所運営を経験することにより地域の防災意識の向上や緊急時対応のスキルアップに寄与できた。なお、日程は地域の中学生の参加を得るため中総体の振替休日とし、12 名の参加を得た。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てママのティータイム	布おもちゃを使った遊びや読み聞かせ、ママ目線での防災・減災の講話、交流会を実施した。	7 月 12 日 7 月 26 日	2	16
あつまれ！旭ヶ丘キッズ	地域の小学生を対象として、ホテルに関連する工作と観察会、LED 七夕飾り作り、大ホール壁画アート作成とセンターまつりへの展示、書き初め学習を行った。	6 月 30 日～ 12 月 22 日	5	94
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動充実のために、児童は年間行事づくりと発表、世話人は役割と注意点、情報交換を行った。また、全員でジュニアリーダーから子ども会行事で使えるゲームを学んだ。	2 月 2 日	1	50
●旭ヶ丘老壮大学	歴史、食生活、人生、薬、旅、防犯をテーマにした講話、軽体操実技、ギターコンサート、市民センターまつりへの参加、館外学習を実施した。	4 月 20 日～ 3 月 8 日	14	1,205

市民センターがやってくる	町内会の担当者と打ち合わせを重ねて企画運営を行い、高齢者の健康づくりをテーマに、健康寿命を延ばし介護予防に繋がる脳トレ、筋トレ、マジック鑑賞、日本舞踊体操などを実施した。	6月21日 11月1日 11月8日 2月6日	4	91
旭ヶ丘の魅力	地域の歴史の学習と、地域資源の活用講座として台原森林公園の彫刻について学んだ。また、受講者が地域の魅力探しや発信のための企画会を行った。	6月27日～ 12月1日	14	91
旭ヶ丘市民センターまつり	2日間にわたり、市民センター利用団体・老壮大学受講生等の参加者が、ステージ・展示・体験・バザー・健康相談等多彩な内容で開催した。	10月20日 10月21日	2	3,600
旭ヶ丘地域懇話会	5月と11月に地域の町内会、教育施設、公共性のある団体等や有識者の参加を得て、市民センターの講座実施方針の説明や進捗状況を報告し、意見交換を行った。各団体の顔の見える関係づくりにもつながった。	5月24日 11月22日	2	26
旭ヶ丘の魅力を知らう！	主催講座「旭ヶ丘の魅力」で市民と共に企画した地域の歴史の学習と、参加型のファミリーコンサートを開催した。	11月14日 12月1日	2	108

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「旭ヶ丘ホタルを育む仲間会」の活動支援

「旭ヶ丘ホタルを育む仲間会」は、平成23年度から7年に渡り実施した事業「ホタルの里サポーター養成講座」の参加者により平成30年4月に結成された。普段「ホタルとメダカの里」でホタルの幼虫が捕食する貝「カワニナ」へのエサやりや、落ち葉掃除などの環境整備をしている。

市民センターでは、サークル結成初年度から市民センター主催の小学生向け講座の講師を依頼し、ホタルの生態や活動内容を次世代の子どもたちに伝えるなどのボランティア活動を支援している。

三本松市民センター

〔沿革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(36 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 10 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。平成 27 年度に大規模修繕を実施し、平成 28 年 4 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	堤町再発見		
参加者	成人	延参加者	147 人
開催日	全 12 回 5/31 (木) ～1/31 (木)		
ねらい	堤町は、良質の粘土が産出されたことから堤焼きや堤人形が生まれた地域であるが、それらを知る人々は年々少なくなっている。過去から現在に至るまでの「人々の暮らし」を軸として学ぶことで、自然や地形、生業など多角的に地域をとらえる。		
概要・成果	平成 30 年度は、江戸時代から近代までの地図から堤町の変遷をたどり、地域のまち歩きを行い、過去と現在の変化についてより理解を深めることができた。さらに、堤人形の絵付け体験では、伝統工芸の良さを体験し、地域に根付く文化への愛着を深めることができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て支援講座 「ママ☆ピヨひろば」	核家族で子育てをしている孤立しがちな親子に、託児付講座のヨガや調理講座、手遊びや育児相談等を行い、参加者同士の交流を深めた。	6 月 19 日 7 月 3 日 9 月 4 日 9 月 11 日	4	59
インリーダー研修会	次年度の子ども会リーダーである児童と世話人が、活動の心構えや行事計画の立て方、レクリエーションゲームの進め方、子供会運営などについて学び、子ども会活動活性化の一助となった。	2 月 2 日	1	50
三本松寺子屋	小学生を対象に学校とは違う体験学習の場を提供し、同世代の仲間と楽しみながら学習し交流を図った。台原小学校、台原児童館、荒巻マイスクール児童館と共催し、スポーツや工作等の講座を開催した。	7 月 24 日～ 3 月 16 日	6	139
★小学生が学ぶ防災	東日本大震災を知らない小学生に、当時の状況を知ってもらい、科学実験を通して災害の原因や対処方法をわかりやすく学ぶ機会を提供した。	7 月 25 日	1	60
市民企画講座「めぞそう、いつまでも健康！」	三本松市民センターの利用者拡大と新サークル立ち上げのため、健康をキーワードに「囲碁・将棋」「歌」「ダンス」の講座を企画実施した。	10 月 30 日～ 2 月 22 日	12	249

三本松老壮大学	健康、音楽、歴史等の学習機会を提供し、生きがい作り、受講生同士の交流、地域の活性化を図った。	5月9日～ 3月13日	10	373
バスケットは面白い	若者が小学生にバスケットボールを指導し、地域貢献の意欲を高め世代間交流を図った。また、個人使用日を利用する若者を対象に 3×3 バスケットボール大会を開催し、技術を向上させ交流の機会を提供した。	12月2日 12月8日 12月15日	3	111
三本松ロビーコンサート	親子向けコンサート、ヴィオラとフルート、アコーディオンの演奏を実施した。当市民センターの周知と、参加した方々の交流の機会となった。	7月5日 9月22日 10月20日	3	150
台原中学校 PTA 共催事業	台原中学校と台原中学校 P T A 研修・交流委員会と協力し、中学生が豊かな人間性や職業観を身につけ、思春期の悩みや不安解消の糸口となるような事業計画を話し合い、プロスポーツ選手による講演会を開催した。	6月1日～ 1月25日	5	680
図書まつり	あらゆる年齢層が図書に親しむために、図書に関連した人形劇講座、コーヒーの楽しみ方講座、ロビーコンサートなどを通して読書推進につなげた。また、川柳募集なども行い市民センター図書室の周知と利用者拡大を図った。	9月20日～ 10月14日	5	209
出前講座 三本松市民センター がやって来る！	三本松市民センターを周知し受講者同士の交流を図るために出前講座を開催した。ヨガ講座、ペーパークラフト講座、シニア向けヒップホップ講座、折り紙講座を行った。	7月6日 9月27日 11月27日 12月13日	4	41
三本松市民センター まつり	市民センターで活動するサークルや個人が、学習成果を発表することで、学習を継続する励みとし、同時に他サークルや地域団体との交流を図った。また来場者に市民センター運営や事業を理解してもらう機会となった。	10月14日	1	550
三本松地域懇話会	地域団体、市民センター利用者などと意見交換の場を設け、市民センター事業、運営について意見を収集し、より良い運営につなげ、得られた学習ニーズや地域課題を市民センター事業に反映させるために実施した。	6月23日 3月2日	2	17
地域元気クラブ	三本松緑地は自然が満喫できる場所であるが、住民の関心や認知度が低いため、多くの市民に周知し利用してもらうための活動を検討した。道標の再設置、初日の出を見る会の打合せ等を行った。	5月11日～ 2月22日	6	39
三本松緑地活性化講座	三本松緑地活性化委員会と連携し、三本松緑地が地域住民に親しまれる場として認知・活用されるように、自然探訪、野鳥観察講座などを開催した。また、落ち葉を活用した堆肥作り講座を行った。	4月20日～ 2月23日	7	94
市民企画会議「ティータイムサロン in 三本松」	三本松市民センターは立地条件から来館者が少なく、地域の高齢化も進んでいる。新たな利用者を拡大するため、住民が楽しみながら学び継続していける企画を立案し、「囲碁・将棋に挑戦！」「楽しく歌おう！」「やさしいヒップホップダンス」の運営にも携わった。	5月24日～ 3月12日	20	104

〔平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア「ぽけっと」の活動支援

当館の図書室を中心に活動している図書ボランティアグループ「ぽけっと」の活動支援の一環として、毎年「図書まつり」を開催している。平成 30 年度は会員の発案により「拡大写本」を作成した。市民センターとしては、著作権上の支障がないように、関連部署への相談や確認、著作権者への了承を得ることなどで活動を支援した。

図書まつりでは「拡大写本」の市民への提供などを行うことができ、好評を得た。

片平市民センター

〔沿革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なおことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★楽しく学ぼう地域防災 ペットの災害対策		
参加者	どなたでも	延参加者	344 人
開催日	全 8 回 6 月 23 日（土）～1 月 24 日（木）		
協力者・協力団体	片平地区災害に強いまちづくり委員会、仙台市動物管理センター（アニマル仙台）、NPO 法人エーキューブ		
ねらい	片平地区は仙台市の中心部にあり、マンションの建設が進む一方、古くからの住民も多く住んでいる。マンション居住者、広瀬川沿いに家のある住民、ペット飼育者、高齢者等要支援者など、様々な状況・住民の立場に応じた防災・減災講座を開催し、住民の知識を高めるとともに、一緒に防災・減災ゲームを作成することで、知識の啓発と立場の違う住民同士がお互いを受け入れるきっかけづくりを行う。		
概要・成果	「地域防災」と「ペットの災害対策」についての学習会を開催した。町内会や子ども会役員を中心に、参加者が話し合いやゲームを通して交流しながら防災について学ぶことができた。 また、仙台市動物管理センター（アニマル仙台）と NPO 法人エーキューブの協力のもと、地域住民や地域防災リーダーと共に「防災・減災ゲーム B O T A 片平丁小学校すぐろくバージョン」のペット版を作成し、片平丁小学校 5 年生を対象とした防災学習で活用した。企画会を通して幅広い立場の人が交流することができたほか、授業を通して地域の大人と子ども達が交流することができた。 10 月の片平地区合同防災訓練ではペット同行避難の実施とペット防災ブースの設置を行った。飼い主をはじめ多くの地域住民にペット防災について広報することができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会活動についてレクリエーション・ゲームを通して学び、子ども会と世話人の役割について理解を深めることが出来た。	1 月 26 日	1	20
かたひらきっずらんど	9 月は自然や天文を学び、2 月はものづくり体験、3 月はねりきりづくりを親子で行なった。親子間だけではなく、異年齢交流を図る機会となった。	9 月 22 日 9 月 28 日 2 月 2 日 3 月 9 日	4	134

《青葉区》

広瀬川界限ぶらり散歩	ボランティアガイドの案内で広瀬川周辺2コースを散策した。ガイドによる説明だけでなく地域住民や学生も加わり、充実した内容を参加者に提供できた。	5月19日 6月16日 8月15日 10月20日	4	117
片平シニア隣経大学	歴史や文学に関する講話を実施した。館外学習ではNHK仙台放送局を見学し、企画員協力のもと習字の講座を行なうなど、様々な分野について学びを深めることが出来た。	5月10日～ 2月14日	9	447
かたひら waiwai 広場	児童館と合同の市民センターまつりとしての利点を生かし演技や展示発表・バザーの他に今年は体験コーナーを大人と子供が一緒に楽しみ交流する姿が見られた。	10月13日	1	1,100
●◎地域の宝 みんなの片平公園	片平公園お花の会を中心にした公園の環境美化活動、片平丁小学校6年生と連携した缶バッジづくりや樹名板づくり、夏と秋のイベント、地域との情報交換会を実施した。	4月13日～ 3月15日	19	690
市民企画講座 みんなで創る片平コンサート	施設利用合唱サークルから企画員を募集し、コンサートを開催した。児童館のミュージックベルクラブや中学校の合唱部も参加し、地域に住む様々な年代が交流する場となった。	8月18日 9月15日 10月20日 11月17日	4	196
片平市民センター懇話会	当年度事業計画の周知と協力要請、関係団体の課題や市民センターに求めることの情報交換を実施した。2回目は五橋中学校の近隣館と連携し、防犯をテーマに開催した。	5月30日 1月24日	2	33
盛り上げよう地域のイベント	片平地区まちづくり会主催の夏祭りで盆踊りを、餅つき大会ではもち米を蒸かすボランティアを募り、伝統技術の継承と地域の祭りの活性化を図った。	8月24日～ 1月19日	5	179
片平ひだまりサロン	ボランティア養成を目的とした学習講座や市民センターでのサロン、地域イベントでのブース出展を実施した。タッピングタッチや介護・傾聴講座を通して新規ボランティア4名が加入した。	4月11日～ 3月14日	17	237

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「片平公園お花の会」の活動支援

「片平公園お花の会」は、平成28年度に実施した地域力創造支援事業「地域の宝みんなの片平公園」終了後、平成29年度に結成された。片平公園に花壇を設置し、公園の環境美化に取り組んでいる。市民センターと連携し、公園を会場にしたイベント（夏のコンサート、秋のピザづくり）を開催することで、会のPRをする機会を提供できた。

また、市民センターがコーディネートして実施した片平丁小学校6年生の総合的な学習「まちづくりに関わろう」では、児童と一緒に公園の清掃・缶バッジ「みんなの片平公園」づくり・樹名板づくりを行うなど、「片平公園お花の会」のボランティアの活動を後押ししている。

水の森市民センター

〔沿革〕

水の森市民センターは、広く市民の憩いの場として親しまれている自然豊かな水の森公園の水の森入口に立地している。管内は昭和 30 年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ヶ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成 2 年 9 月にオープンした。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2 階の広いロビーは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	荒巻地区、桜ヶ丘地区出前講座		
参加者	どなたでも	延参加者	189 人
開催日	全 2 回 2 月 5 日（火）、2 月 17 日（日）		
協力者・協力団体	荒巻地区町内会連合会、桜ヶ丘学区連合町内会		
ねらい	水の森市民センターの管轄地域内は高齢化が進んでいる。市民センターから距離のある荒巻、桜ヶ丘の 2 つの地区に出前講座を実施し、生涯学習に触れる機会を提供する。		
概要・成果	1 回目は、荒巻地区で「みんなで歌おううたごえ喫茶♪」を開催した。一人暮らしの方を対象にした昼食会の前に実施し、昼食会参加の方とチラシを見た地域の方など予想以上の参加があった。参加型の講座で、懐かしい歌と一緒に歌うことにより思い出がよみがえったり、心が軽やかになったり「歌を歌うことがもたらすプラスの効果」を実感できた。 2 回目は、桜ヶ丘地区で「歴史講話 仙台開府と桜ヶ丘界限」を開催した。事前に行ったお茶っこサロンで歴史講話をやって欲しいという声があり昨年度に引き続きの開催となった。仙台開府前の桜ヶ丘界限という内容のため、多くの参加があった。自分の住んでいる地域の板碑や遺跡を知り、自分でも訪ねてみたいという気持ちになったなどの感想が聞かれ、さらに地域に愛着を感じたようであった。 両地域への出前講座は 2 年目となるが、徐々に地域に浸透しつつあり地域の方からいろいろな要望も出てきている。来年度以降も継続実施することにより、地域の方々に認知していただける講座にしていきたい。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
集まれマザーズ～託児デビューを応援します！～	子どもを預けた経験のない親に市民センターの託児付き講座を体験してもらい、託児への理解を深めながら、母親が自分に向き合う時間を作った。好評につき、秋に番外編を行い、母親のニーズを探り次年度の講座企画に繋げた。	5 月 25 日 6 月 8 日 6 月 22 日 11 月 28 日	4	32
親子で学ぼう♪遊ぼう♪栄養セミナー＆運動あそび	市民センター、児童館、温水プールの複合施設の利点を生かし共催事業を行うことでより広く地域住民に 3 つの施設を PR し利用拡大と交流を深めた。普段は利用の少ない若い世代に市民センターの講座を知ってもらった。	6 月 9 日	1	12

スポッチー水の森	市民センターの利用が少ない中高生を対象に、月 1 回土曜日に体育館でスポーツ体験を行い、施設を知ってもらい今後の利用につなげた。主に中学生同士が学校や地区を超えて互いに交流する場を提供した。	4 月 21 日～ 3 月 16 日	11	53
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に研修会を開いた。子ども会運営についての講話と実技を行った。	1 月 19 日	1	47
●みんなのつながりがチカラになる防災講座～学ぶ・体験する	複数年事業の 1 年目。地域の中でつながりができるように、防災の切り口を多方面から考え、広く一般の方に向けた学習や体験を行った。受講者が実技から「備え」や「知識」を身に着ける一助となった。	7 月 28 日～ 12 月 8 日	5	34
水の森シニア学園	管轄地域の高齢者がいきいきと健やかに生活するために定期的に講座を開催した。今年度は特に受講者同士の交流や参加型の内容に重点を置き、うたごえコンサートや新春交流会などを実施した。	5 月 17 日～ 2 月 21 日	8	388
水の森懇話会	地域の各団体や利用者と広く意見を交換し、市民センターの事業運営に理解を深めてもらうとともに、地域課題や利用者ニーズ把握を図ったほか、地域行事等のすり合わせを行った。	6 月 1 日 6 月 5 日 1 月 25 日	3	24
水の森市民センター地域まつり	市民センターや地域で活動する団体や町内会、学校などが一堂に会し、地域住民や団体が楽しみながら交流できる場を提供した。実行委員会を組織し企画準備を行い、地域団体とのつながりを再確認できた。	10 月 27 日 10 月 28 日	2	1,850
図書ボランティア養成講座	市民センター図書室のさらなる充実を目指すため、図書室運営に必要な知識、実践力を身につけ地域で活動できるボランティアを養成できた。またボランティアのスキルアップや交流の場とした。	6 月 14 日 7 月 5 日 7 月 12 日 7 月 26 日	4	28
市民企画講座「水の森の四季を伝える」	市民センター周辺は自然豊かな水の森公園や歴史的背景のある地域である一方、地域で活動する団体の高齢化も問題になっている。この地域資源の良さを「伝える」をキーワードに講座を行い、地域の四季を写真撮影しながら回り、ロビーやセンターまつりに展示し来館者に地域の良さをアピールした。	4 月 12 日～ 2 月 28 日	9	50

【平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「水の森公園に親しむ会」の活動支援

「水の森公園に親しむ会」は、水の森公園で活動している他の団体と共に定期的に公園の整備保全や清掃、会報誌の発行等を行い、水の森市民センター地域まつりでも毎年展示発表を行っている。

平成 30 年度は、主催講座「水の森の四季を伝える」で「伝える」をキーワードに水の森公園の豊かな自然の魅力を「水の森公園に親しむ会」のメンバーが解説した。参加者は身近にある公園の豊かな自然と、そこで活動する地域団体を知る機会となった。

市民センターが水の森公園への散策コース入口となっているため、ロビーには野鳥や植物などの写真や、公園のわかりやすい地図など「水の森公園に親しむ会」が作成したものを掲示し、地域住民や公園を訪れる方に対して水の森公園の魅力を発信している。

貝ケ森市民センター

〔沿革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ケ森市民センターは、貝ケ森地区に平成 5 年 4 月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中にあつて、その瀟洒な建物は、隣接する貝ケ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ケ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「地域を知ろう」		
参加者	地域に在住の成人	延参加者	79 人
開催日	全 13 回 4 月 19 日（木）～2 月 14 日（木）		
ねらい	有名な史跡などがないと言われている貝ケ森地域ではあるが、ゆっくり歩いてみると、新しい開発の跡などがある一方で時の流れを感じさせる場所もある。 また、地域を楽しく散策することは、その隠れた魅力の発見や、参加者同士（地域住民）の交流を促す効果がある。平成 29 年度に開催した市民企画講座「楽しく歩こう！～雷神堂境界をたずねて」では、参加者同士が情報交換を楽しみながら、地域の魅力を改めて知る機会となった。 そこで、企画員が地域のさまざまな魅力を学び、地域の案内役としてその成果を発表することで、地域活性化の一助とする。		
概要・成果	月に 1 回程度の市民企画会議を開催し、地域について情報交換するとともに、必要に応じて実際に地域を歩きながら、地域の魅力を発信するための市民企画講座を企画した。また、実施にあたっては、企画員自らがガイド役となり、自分達で計画した散策コースを一般参加者とともに歩いた。さらに、年度末には講師を招いての学習会を開催し、1 年間の活動の振り返りを行った。 成果としては、地域在住の企画員達が、自分の住む場所の隠れた魅力を自分たちで探り、それをもとに自分達がガイド役となり、発見した地域の魅力を再び地域へ発信していくことが出来た。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●親子の課外活動	地域の親子に楽しく一緒に過ごしてもらうために、親子で共通の体験をする機会を提供した。家庭内で会話する機会を増やすことができ、よい子育て支援となった。	5 月～10 月	7	227
インリーダー研修会	国見小学校子ども会のリーダーと次年度世話人を対象に、子ども会活動の運営に役立つ講話や実技を実施して、子ども会の活性化を促した。	2 月 16 日	1	75
中学生のハローワーク	職場体験をする前の中学一年生に対して、様々な社会人から職業紹介をしてもらい、幅広い職種の中から自分に合った職業を選択できるように、職業観を育む機会を提供した。	9 月 28 日	2	436

●防災情報発信講座	仙台市立第一中学校及び仙台市立仙台高等学校の生徒を対象に、災害時の対応や、ハザードマップの見方、「北海道地震」の被害状況を学んだ。	11月7日 11月18日 12月12日	3	111
「おとなのいち芸」講座	なかなか手を出せないでいる「落語」にチャレンジする機会を提供した。社会人落語家の指導のもと「小咄」を習い、練習を重ね発表会で披露した。	6月16日～ 8月25日	6	60
貝ヶ森シニア学園	高齢化が進んでいる貝ヶ森地区で、高齢者に向けて様々な学習の機会を提供した。月に一度、市民センターを会場に集い、楽しく学ぶ機会として喜ばれている。	5月～3月	10	508
貝ヶ森交流サロン	一人暮らしや自宅にこもりがちな高齢者が増えている折り、軽運動、コンサート、クラフトなど気軽に楽しく参加できる内容を貝ヶ森地区社会福祉協議会と共催し、地域の方同士の交流を促した。	6月～1月	6	219
地域懇話会	市民センターの事業運営に役立てることを目的に開催し、連合町内会、各学校及び地域諸団体の持つ様々な課題を共有した。	9月28日 2月15日	2	29
豆まき会	高齢化と少子化が共に進んでいる当地域で、幼児から高齢者までの地域住民に交流してもらう目的で、太鼓演奏、昔遊び、豆まき等の伝統行事を開催した。	1月26日	1	140

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「貝ヶ森ガーデンサポーター」の支援

貝ヶ森市民センターでは、隣接する「貝ヶ森シンボル花壇」を、自主的に維持・管理している「貝ヶ森ガーデンサポーター」の活動支援を通年で行っているが、近年は会員数の減少と高齢化が課題であった。そうした中、近隣の事業所「トヨタカローラ中山店」から、会社の地域貢献活動として、花の活動をしている市民ボランティア団体を人的に支援したいが、そういった団体があれば教えて欲しいとの問い合わせがセンターに寄せられ、ガーデンサポーターの活動を紹介した。その結果、事業所の若い方々が活動に継続的に加わるようになり、交流が生まれボランティアの輪が広がるとともに、ガーデンサポーターの活動の活性化につながった。

中山市民センター

〔沿革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成7年4月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑豊かな自然にあふれている。地域では、街道市や七夕祭り、スノーマン祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	花と緑のエコタウンづくり事業		
参加者	地域住民	延参加者	62人
開催日	全8回 4月21日（土）～11月28日（水）		
協力者・協力団体	青葉区中央市民センター、中山小学校、中山中学校、明成高校、西勝山町内会、中山西第二町内会、中山西寿会、中山児童館		
ねらい	学校や町内会で行っている地域清掃で集められた雑草や落葉を捨てずに堆肥化し、公園や児童館、市民センター、家庭で再利用し、資源循環型の環境づくりを目指して事業を行っている。堆肥を利用した方たちからは「効果があった」との声があり、活動が地域に浸透しつつある。今後も活動を継続するために、地域の担い手を育てていく。また、子どもを含む若い世代が、自分の住む街に関心を持ち、環境保護の意識向上を目指す。		
概要・成果	平成30年度は、前年度に作った堆肥を利用し、野菜の苗植えや収穫体験を行った。堆肥は、ボランティアで活動しているバラ愛好会が、館内の花壇整備にも活用しているので、バラのオープンガーデンの講座を実施した。その際、館の事業から立ち上がった写真サークルの方が講師となり、バラの写真を撮影する講座を同時開催し、センターまつりで発表した。堆肥を作るときは参加者を募り、次年度の講座への参加も呼びかけ、事業の継続に繋げた。受講生は幼児から高齢者まで広がり世代間交流が図られた。		

〔平成30年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
かわだいらお楽しみビクス	川平地域に住む乳幼児親子を対象に出前講座で親子ビクスと交流会を開催した。川平の子育て支援団体とも顔を合わせる良い機会となった。	5月25日	1	20
託児付講座 ほっと一息がんびっている私	①きれいになるクリーム作り②ヨガでリフレッシュ③アイシングクッキー作りを実施。託児付にしたことで、保護者だけで育児の悩みなどゆっくり話し合えた。	6月21日 6月28日 7月5日	3	30
インリーダー研修会	中山小・川平小・国見小の5年生と保護者を対象に、次年度の子ども会活動の充実化を図るため実践的な研修を行った。	2月16日	1	75
昔遊びを楽しもう	中山小学校1年生がお手玉、おはじき、紙てっぽう、紙とんぼ、かるた、けん玉、コマ回し、羽根つき、福笑い、などの昔遊びの体験を通して地域住民と交流した。	11月28日	1	146

中山キッズ 君はチャレンジャー	小学生と保護者を対象に、美術館での館外学習、移動天文台ベガ号による星空観察、気象実験と空気の力を体験する当てゲーム、調理実習などの体験型の学習を行った。	7月28日～ 12月15日	4	131
ラララ 歌で元気に	講師の指導により歌を学び、練習の成果を発表した。姿勢や発声など毎回テーマを決め、心身の健康と受講生同士の交流を図った。	6月7日～ 9月21日	7	147
シニア世代のしっかり食べて健康づくり	1回目は高齢者の体の変化や必要な栄養についての講話。2・3回目は調理実習で、必要な栄養素を手軽に取れるレシピを学んだ。	11月22日 11月29日 12月6日	3	13
中山銀鈴倶楽部	高齢者向けに、歴史、音楽、国際理解、健康づくり、交流レクリエーション、復興支援工芸等、様々なジャンルの教養講座を講話、実技、館外学習により実施した。	5月11日～ 2月8日	9	365
★防災講座	東日本大震災後の反省から、住民の自助による災害対応の学びが必要であるという意見があり、地域の総合防災訓練に市民センターとしてブースを設けて参加し、地域住民の災害対応力の強化充実を図った。	10月13日	1	5
おかのまちコンサート	市民センターで活動している音楽サークル会員が企画員となりコンサートを実施した。各サークルの発表に加え中山出身のサクソフォン奏者をゲストに迎え、音楽を通じた地域住民の交流の場を作った。	8月17日～ 11月17日	5	139
中山市民センター・児童館まつり	地域の諸団体やサークルによるステージ発表、展示、出店コーナー、併設児童館によるイベント等を行い、全世代が楽しめる内容となった。平成30年度は、センターからの呼びかけにより展示協力の学校や個人参加が増えた。	9月14日 9月15日	2	800
懇話会	市民センターとしてコミュニティづくりを支援するため、より実効性のある事業を企画・実施し、地域課題の解決につなげることを目的に、地域関係団体・関係機関と意見交換を行った。	6月16日 2月2日	2	27
休日は親子でYES運動！	前半は保健師による講話と後半は運動指導士による親子で楽しめる運動を行った。開催日を日曜日にしたことで平日は仕事をしている受講生が集まり、健康に関する関心の高さがうかがえた。	11月18日	1	29
春のうきうきコンサート	常磐木学園の生徒によるコンサートを開催した。子どもから大人まで楽しめる選曲で好評を得た。	3月19日	1	96

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「バラ愛好会」の活動支援

バラ愛好会は、市民センター敷地内のバラの手入れを中心に、庭の環境整備を行っている。結成は平成28年4月で、以前は雑草だらけだった市民センターの庭がバラを中心に整備され、来館者のみならず地域住民の目を楽しませている。

市民センターでは、バラの季節には、庭の様子をホームページに掲載し、活動のPRに努めている。またバラ愛好会の方に講師になっていただき、市民向けにバラのオープンガーデンの講座を開催し好評を得た。バラの種類がわかるよう、バラ愛好会作成のパンフレットも常時窓口に設置している。

折立市民センター

〔沿革〕

折立市民センターは、平成 7 年 5 月 30 日に市内 50 番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約 5 km の地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた 49 畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	折立を歩こう		
参加者	19 人	延参加者	24 人
開催日	全 3 回 11 月 10 日（土）、12 月 1 日（土）、12 月 9 日（日）		
協力者・協力団体	里山を歩く会		
ねらい	折立界限は蕃山・権現森などの里山や広瀬川の自然と、郷六城跡や葛岡城跡などの史跡があるが、これまではその魅力をアピールする場が少なかった。地域住民が折立の魅力を再認識し、自らが地域の魅力を発信して、広く一般市民へ折立の魅力を伝えることにより地域活性化を図る。		
概要・成果	蕃山や四ツ谷堰に注目した蕃山編 1 回、四ツ谷用水編 2 回を実施した。蕃山編は地域団体の「里山を歩く会」とコースを検討し、緩やかな道が続き、初心者でも登りやすいコースを選んだ。道中は登山者を見守るお地蔵様やすっかり進んだ紅葉を見ながら進み、蕃山の魅力を感じることができた。四ツ谷用水編は「四ツ谷用水」の史実と役割について調査・研究をしている「仙台・水の文化史研究会」を講師に四ツ谷用水についての講話と四ツ谷堰の現地見学を行った。現地には「土木学会選奨土木遺産」の記念碑があり、研究会の皆さんが土木遺産登録に尽力した際の話や記念碑の製作秘話なども聞くことができ、あらためて地域の魅力を感じる機会となった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子たいけん隊	①科学実験「空気を使ったイリュージョン」②工作「親子で作ろう とけいのまち」③館外学習「化石の森探検」④調理実習「季節の和菓子作り」を実施し、普段家庭や学校ではできない経験を親子一緒にいきいき取り組む姿が見られた。	7 月 21 日 8 月 5 日 11 月 18 日 12 月 8 日	4	83
折立おやこ農園	畑の土づくりや水やり、草取りなど野菜作りに必要な作業を通して収穫の喜びを味わい、収穫したものを使って調理実習を行った。8 月「流しそうめんと野菜天ぷら」、12 月「里芋汁」を実施。地域のサポーターの協力を得ながら、年間を通して親子の楽しみの行事となった。	4 月 21 日～ 12 月 2 日	10	266
インリーダー研修会	児童はゲーム研修を中心に、世話人は子ども会と世話人の役割について学びながら懇談や交流を深めた。	2 月 9 日	1	22

小学生の防災教室	折立地区防災対策連絡会と共催し、折立小学校 5 年生を対象に、東北大学の先生から災害発生のメカニズムや対応について学んだ。	12 月 17 日	1	62
中学生の防災教室～僕たち私たちの力	少子高齢化が進む折立地区で地域防災の力となるよう、折立中学校 2 年生を対象に折立地区防災対策連絡会と一緒に炊出しや簡易トイレの組立、救命救急訓練を行った。	5 月 23 日	1	82
わらすこたいむ	昔遊びボランティア「わらすこ」による昔遊び研修会（行事の企画・準備）や、凧揚げや紙鉄砲、笹舟作りなどを地域の大人たちと一緒に楽しみ交流を深めた。また、折立小学校 1 年生への昔遊び出前講座を実施した。	5 月 10 日～ 3 月 7 日	15	470
折立を歩こう	①蕃山トレッキング②四ツ谷用水について③四ツ谷用水見学を実施した。折立地域の自然や史跡を再認識する機会となった。	11 月 10 日 12 月 1 日 12 月 9 日	3	24
折立老壮大学	仙台文学館出前講座、仙台博物館出前講座、NHK 館外学習、大梅寺住職の講話と坐禅体験、健康講話、健康体操、音楽、学生落語など受講生の意見や要望を取り入れた内容で地域の高齢者の学びや健康に役立てた。	5 月 17 日～ 2 月 21 日	10	329
災害に強いまちを目指して	折立地区防災対策連絡会と共催で「自然災害と災害保険について」をテーマに地域住民向け講座を実施した。（講師：日本損害保険協会東北支部）	2 月 11 日	1	20
第 10 回折立風のメロディーコンサート	市民センターを利用する地域の音楽サークルが実行委員となり企画・運営を行った。平成 30 年度で 10 回を迎え、地域の音楽行事として気軽に参加でき楽しめるコンサートとして定着している。	4 月 28 日～ 7 月 14 日	7	231
第 16 回折立ふれあいまつり	折立学区町内会連合会を中心に子ども会の若い世代から学校、地域諸団体などが参加し、ステージ発表・作品展示・出店・児童館による子ども遊び・フリーマーケットなどを行った。	10 月 27 日	1	1,428
折立市民センター懇談会	平成 30 年度の市民センター・児童館事業の紹介と、学校や地域諸団体が抱える課題などについて意見交換を行った。	4 月 25 日 11 月 30 日	2	41
折立地域交流会	西花苑老人クラブ・日本赤十字社折立奉仕団・折立児童館と共催し、クリスマスコンサート、豆まき会を実施した。地域の高齢者と若い世代が気軽に参加し交流を深めた。	12 月 22 日 2 月 2 日	2	195
◎折立素敵物語	実行委員が地域の名所史跡などをスライドにまとめ、地域住民を対象に学習の成果を発表した。また、平成 29 年度に作成した立体地形模型をよりわかりやすくするために、名所 20 か所にライトのつく折立地区模型を製作し、地域の歴史や魅力を伝える活動として折立小学校 6 年生への出前講座も行った。	5 月 9 日～ 3 月 15 日	18	222

【平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

折立昔遊びボランティア「わらすこ」の活動支援

折立昔遊びボランティア「わらすこ」は、平成 25 年度から 5 年に渡り実施した事業「昔遊び伝承事業」の参加者により、平成 26 年度に結成された。市民センターでは、年間 6 回の児童館との共催事業「わらすこたいむ」や「わらすこまつり」、児童館主催の「児童館まつり」や幼児クラブ登録親子を対象にした昔遊びなど、昔遊びの伝承や地域の子どもたちと交流を深める活動を支援している。

また、「折立ふれあいまつり」でボランティア活動の様子を紹介したり、折立小学校「昔遊び出前授業」の講師として紹介したりするなどの支援を行っている。

木町通市民センター

〔沿革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成 16 年 4 月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6 階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の庭園として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅はほとんど見られなくなった。この地域では若い単身世帯や乳幼児の子育て世代の 40 代が多く、20 代、30 代、50 代、60 代と続く人口構成となっている。

当市民センターはこうした環境の下、複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら学びの場を提供することを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「仙台のみつばちとはちみつの魅力」		
参加者	地域住民	延参加者	26 人
開催日	12 月 6 日(木)		
協力者・協力団体	木町通小学校社会学級		
ねらい	市民企画会議において顔の見える地域・声を掛け合うことのできる地域にしたいとの声が上がったこと、企画委員はそれぞれが子育て中であることから、食育や環境問題を中心に講座を企画検討することとなった。そこで、近年関心が高まっている環境指標生物であるミツバチの生態について学び、お互いに食育や環境問題への意識向上を図り交流することで、地域でのつながりを醸成する。		
概要・成果	ミツバチの生態についての講話や地元でとれた蜂蜜の試食、蜜蝋を使ったハンドクリーム作りなどをとおして参加者同士が学習と交流を行った。 30 代から 80 代といった幅広い年代の方々に参加いただいたことで、和気あいあいとした中で学習し交流を深める機会となった。また、社会学級の活動や市民センターについても紹介することができた。 今回の講座を通して社会学級ともよい関係が築かれ、引き続き連携して企画会を運営していくこととなった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て ENJOY 広場	1 回目は親子で一緒に楽しく行う運動、2 回目は子供を預けてお母さん達だけで簡単なおやつ作りを学んだ。子育て支援クラブとも連携し、その活動内容を紹介してもらった。講座での学びとともに、小さなこどもを連れて気軽に立ち寄ることができる場所が地域にあることを知っていただく良い機会となった。	11 月 22 日 11 月 29 日	2	18
WAKU ² キッズ	「ジュニアリーダーと遊ぼう」、「折り紙体験」、「牛乳パックを再利用した和紙はがきづくり」、「秋の星空ウォッチング」等を実施した。ジュニアリーダーや地域ボランティアが講師を務めた回もあり、それぞれの活動紹介ができた。「秋の星空ウォッチング」では児童、保護者、地域ボランティアが共に参加したことで、異世代間交流ができた。	6 月 30 日～ 2 月 19 日	7	289

仙台市子ども会イン リーダー研修会	児童向け研修では、グループに分かれ危険予知トレーニング、世話人向けは子ども会の意義と世話人の役割について学び、合同でゲームの体験などを行った。	1月26日	1	20
キマチノ健康学	健康美をテーマに体操やフェイスマッサージなどを開催した。受講者には市民センターを利用しているサークルメンバー、地域活動団体に所属している方もおり、茶話会等を取り入れたことで仲間づくりの一助となった。	6月1日～ 10月19日	8	79
木町通老壮大学	蓄音機での音楽鑑賞、天文台台長の講話、仙台味噌についてなど様々な分野で講座を実施し、受講生の知的好奇心を刺激することができた。また7月には講座後にサロンを開催したことで、受講生の間で交流が進んだ。	5月9日～ 2月13日	8	410
木町通学区の防災講座	合同防災訓練、救命救急法、防災減災のヒント講座等、防災に関するワークショップを地域の方々を対象に実施した。繰り返し行うことで、防災・減災に対する意識向上を図ることができた。	5月18日 6月23日 7月13日	3	84
木町通市民センター まつり	市民センターで活動しているサークルが日頃の活動の成果を発表した。地域で活動している団体や小中学校及び地域の商店に参加を呼びかけた結果、前年度より多くの団体がまつりに参加し、地域交流することができた。	10月13日	1	1,005
木町通市民センター 運営懇話会	地域住民や市民センターを利用している団体と地域課題、地域特性について情報交換し、市民センター事業及び運営について広く意見を聞き、事業企画に活かした。	5月22日 2月27日	2	35
TEAMきまち・くり えいた一ず	地域在住のジャム作家を講師に迎え、ジャムづくりを通して参加者同士の交流が行われた。講座に参加したことで、地域に目を向けてみようという感想があったことから、地域活動へつながる一歩となった。	5月24日～ 12月8日	6	104
市民企画会	地域の社会学級の方に参加いただいたことで社会学級との連携が進み、円滑に市民企画講座「仙台のみつばちとはちみつの魅力」を実施することができた。企画員は幅広い年代の方々が関心を示す講座を開催できたことに達成感を感じ、市民企画会への参加意欲が高い様子がうかがえた。	3月8日～ 12月15日	8	20

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

日頃から木町通市民センターでは市民センター利用サークルへの活動支援として、市民センターだよりへの会員募集記事の掲載、会員募集チラシの窓口配架、市民センターで作成しているサークル情報への掲載等を通年で行っている。

平成30年度には、木町通市民センターの講座から立ち上がって活動をしている健康体操サークルが、会員の高齢化に伴い会員数が減少しサークルの継続が難しくなったと相談が寄せられたため、会員募集のため市民センターだよりへの掲載、窓口へのチラシ設置などの支援を行ったところ、会員数が増加しサークルの活動継続につながった。

広瀬市民センター

〔沿革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域である。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	みんなで学ぼう！ひろせ塾		
参加者	講座ごとに設定	延参加者	142 人
開催日	全 6 回 4 月 28 日（土）～ 3 月 3 日（日）		
協力者・協力団体	愛子の田植踊保存会		
ねらい	当市民センター周辺は、人口の流入が多く、新旧住民が混在する地域になっている。中には地域とのつながりが希薄な住民や団塊世代の住民も多く、地域のコミュニティ作りが求められている。そこで、ともに学び合うことへの興味関心を高め、学びを通して参加者相互の仲間づくりや交流を深める機会とし、市民センターを知らない、または、市民センター講座に参加したことのない住民、子育て中の若い世代などに市民センター事業の周知を図ることをねらいとする。		
概要・成果	成人対象の地域の名所史跡を歩く講座、蕃山トレッキング、五郎八姫と長男黄河幽清和尚についての講話と紙芝居講座、小学生対象のステージ演出体験、親子でアイシングクッキー作り、子育て世代対象のパレトンでリフレッシュ講座を開催した。それぞれの世代に合ったテーマで講座を実施することにより、市民センター講座を受講したことがない人が多く参加し、市民センターを身近な施設として感じてもらえ、地域住民同士の交流を図ることができた。また、幅広い世代の市民センター講座へのニーズや、地域ごとの興味関心を知る機会ともなった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●宮城総合支所保健福祉課共催事業 平成 30 年度宮城地区子育て支援プロジェクト こみゅ〜んひろば	子育て世代が多い宮城地区において子育て環境の充実を図るため、事務局会と定例会を開催した。メンバーの学習のために 3 回の研修会を行い、お互いの活動に理解が深まり、より繋がりが強まった。	4 月 10 日～ 2 月 19 日	15	169
地域で伝える 「平和学習」	地域の 3 小学校に出向いて、6 年生の子どもたちに戦災復興記念館職員と戦争当時子ども時代を過ごした地域の方の講話により、平和の大切さを伝え、子ども達が平和について自発的に考える機会とした。また、広瀬文化センターのロビーにおいて戦災復興記念館所蔵の資料を展示するパネル展を開催した。	10 月 10 日～ 12 月 13 日	6	335
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、一泊二日で講話と演習、リクレーションゲームなどを行い、リーダーとしての心構えやスキルを身に付ける機会とした。	7 月 28 日 7 月 29 日	1	85

ジュニアリーダー「くまっこと遊ぼう！」	ジュニアリーダーの活動を地域の方々に知ってもらう機会として、活動紹介、おばけやしき、パルーンアート、もぐらたたき、工作などを行い、ジュニアリーダー「くまっこと」のメンバーが参加者と交流した。	7月16日	1	268
子ども参画型社会創造支援事業 カッパダ川プロジェクト 2018	公開講座の川たんけんでは、生き物観察などを行い、カッパダ川を通じた地域交流を図った。カッパダ川ダンス部は、主催事業の他に、町内会のまつりや敬老会などへ参加し、ダンス部員は、地域づくりに関わる意識を持つようになった。	4月22日～ 3月16日	18	161
市民企画講座 焚き木を拾ってカレーをつくろう！	管轄地域は、子どもが多く自然に恵まれているが、自然体験の機会は少なくなっていることから、自然の中で焚き木を拾い調理をし、子ども達同士の交流を図った。中学生がボランティアで参加し活躍した。	11月25日	1	28
●老壮大学 「若返り教室」	地域の高齢者が健康で豊かな生活を送るために、講話・軽体操・館外学習などの定期的な学習の場を提供した。アンケートの他、運営委員会を開催し講座テーマに反映させている。	5月24日～ 3月7日	10	627
ひろせ地域防災講座	管内町内会や事業所、一般の方を対象に広瀬文化センターホールで、コンサート中に地震が発生し火災が起きた想定で、避難訓練を実施した。	11月1日	1	174
三館共催事業 「音楽で奏でる本の世界」	地域の読書環境整備のため、広瀬図書館と広瀬文化センターと共催し、音楽をテーマに選んだ本の朗読とコンサートを開催した。朗読は、地域の小学生が図書館職員からワークショップ形式で指導を受けた。	6月24日 7月1日	2	110
ひろせサマーナイト コンサート 2018&民俗芸能フェスティバル	広瀬市民センター・文化センター利用サークルや団体の発表の場としてステージ発表や、町内会と連携し出店や子供向けブースなどのイベントを開催した。	8月4日	1	1,800
平成30年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	市民センター4館が共催し、宮城地区で活動しているサークル・団体が、日頃の学習成果を広瀬文化センターの大舞台で発表する機会を提供した。	2月17日	1	800
ひろせ懇談会	広瀬文化センターと共催し、町内会、学校、児童館、地域団体、利用者の方々に市民センターと文化センター事業を説明し、事業に関する意見交換を行った。また地域課題やニーズなどの情報を共有した。	6月29日 3月8日	2	35
第30回広瀬市民センターまつり	各サークル・団体による作品展示・成果発表・体験コーナー・ミニステージ発表等の場を提供した。活動内容の周知や意欲の向上につながり、団体間の交流を図ることができた。	10月28日	1	1,176
戦争の記憶の語り手 ボランティア養成講座	平和学習の語り手が高齢化しているため、記録映像をもとにして、他の語り手や歴史民俗資料館学芸員の取材を含め体験記として編集した。また、完成した体験記を朗読とコンサートという形で披露した。	10月20日～ 3月16日	10	52
市民企画会	広瀬りんどう・愛子・錦ヶ丘各小学校社会学級と共催し、地域課題やニーズに応える講座「市民企画講座 焚き木を拾ってカレーをつくろう！」を企画・運営した。	6月12日～ 12月18日	9	14

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

愛子の田植踊保存会・愛子の田植踊サポータークラブの活動支援

愛子の田植踊は、かつて関山街道の宿場町であった愛子に伝わる伝統芸能である。宮城県無形文化財に指定されている地域の財産であるが、高齢化によりメンバーが減っていることから、市民センターが提案し保存会とサポータークラブを合体させ活性化を図った。

また、PRのためのDVDを作成し、定期的な練習ができるように会場を確保した。さらに、「ひろせサマーナイトコンサート」、「みやぎ学習フェア」への出演や「ステージ演出体験」講座の開催により、発表やPRの機会を提供するなどの活動支援を行っている。

宮城西市民センター

〔沿革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議を経て企画する事業「みんなで鯉のぼりに絵を描こう」		
参加者	大倉・作並・上愛子の各小学校児童、市民企画会議「大倉ダムの魅力発信」の企画員	延参加者	262 人
開催日	全 4 回 12 月 4 日(火)、1 月 9 日(水)、1 月 10 日(木)、1 月 16 日(水)		
協力者・協力団体	町内会、PTA		
ねらい	宮城西部地区にある“宝”ともいうべき大倉ダムの魅力を広く発信し、人口減少の続くこの地域の交流人口を増やそうと平成 29 年に市民企画会議「大倉ダムの魅力発信」が発足。大倉ダムの堤体に鯉のぼりを吊るす計画を立てた。 その鯉のぼりを地域から集めるだけではなく、小学生に新たに作ってもらうことによって児童の郷土愛を育み、地域住民も含めて、大倉ダムへの関心を高めることを目的とした。		
概要・成果	口径 50cm、長さ 5m の巨大な白の鯉のぼりを用意し、専用の絵の具を使って子どもたちが自由にペイントした。およそ 10 人で 1 班を作り、各班がそれぞれ鯉のぼり 1 本を仕上げた。何れの小学校も小規模校であり、各班は縦割りで構成されているため、高学年が低学年に塗り方を教えたり手直しをしたりするなど、面倒を見ながらの作業となった。 この作業は、子どもたちの貴重な体験となり、良い思い出作りとなった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい教室	自然観察会、豆沢川探検、笹かまぼこ作り、小正月行事体験等を親子で体験学習することにより、コミュニケーションを深めながら、自然や歴史を守る大切さを学んだ。	6 月 9 日 7 月 14 日 12 月 8 日 1 月 12 日	4	97
インリーダー研修会	小学 5 年生と子ども会世話人を対象に、広瀬・落合・大沢の 3 市民センター合同で開催した。	7 月 28 日 7 月 29 日	1	85
中学生のハローワーク	中学生に対して、身近な社会人より職業紹介をしてもらい、その職業に至るまでの道のり、仕事のやりがいや苦労などを話していただき、中学生が将来の職業について考える機会となった。	8 月 22 日	1	42
自然体験教室	豊かな自然等の地域資源を活かし、自然をまるごと体験し、自然保護の大切さ、里山と生活の関わり方の大切さを学んだ。講話、里山散策等。	4 月 20 日 10 月 5 日 10 月 26 日	3	47

《青葉区》

女性教養講座	多岐にわたるジャンルを学び、様々な事に興味・関心を持つ機会を提供した。健康講座、料理、手芸等の体験を通じ、地域でいきいきと暮らすためのコミュニティ作りを目指した。	6月～2月	10	169
宮城西部地区今昔物語	地域の方から大正、昭和の頃の古き良き思い出を交えた地域の話の聞き、風習・歴史・文化等の魅力を再発見した。新川・作並・大倉周辺。	8月25日 9月15日 9月29日 10月5日	4	112
出前講座	地域町内会と連携を図り、市民センターが地域へ出向き出前講座を開催した。各町内会の要望に沿った内容で開催し料理・手芸・健康体操等の学習の機会となった。	6月17日～ 2月27日	9	156
老壮学級	心豊かにいきいきと暮らすために様々な内容を学習し、生きがいがづくりの一助とした。月に一度顔を合わせ、楽しみながら共に学ぶことでひきこもりを防ぎ交流を深めた。交通安全、健康づくり、文学・歴史等の講話や実技等。	6月21日～ 1月17日	7	426
宮城西部地区「防災・減災学び塾」	地域の関係する諸団体と協働で防災・減災の知識の習得や避難所運営訓練を体験した。	6月2日～ 7月14日	5	218
宮城西市民まつり	西部地区住民が一堂に会し、自らの運営で市民まつりを展開し交流を深めた。演芸発表、作品展示、食品バザー、ジュニアリーダーコーナー、伝承遊び、フリーマーケット等。	11月23日	1	2,656
宮城西地域懇談会	上愛子小学区町内会等、管内学校関係との懇談会を開催した。地域課題、地域ニーズを把握し、今後の市民センター事業や施設運営の参考となる情報を得ることができた。	7月17日 2月28日	2	55
ゆかいな森の広場	地域に住む音楽家のコンサートや地域の子供達への映画会を開催し、地域住民の憩いの場として市民センターの存在をアピールできた。	9月22日 8月3日 1月25日	3	119
平成30年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	宮城地区で活動しているサークル等が日頃の活動の成果を広瀬文化センターで発表した。宮城地区内の市民センターの連携により、地区の絆を強めると共に学習フェア全体を活性化することができた。	2月17日	1	800
◎地域力創造支援事業 “ゆうゆうの森プロジェクト”	上愛子小学校隣接の“ゆうゆうの森”を町内会とPTAが協力して整備しながら、森を活用した四季折々のイベントを開催し、双方の交流を促進した。植生観察・炭焼き&ピザ焼き・夏キャンプなど。	6月～2月	12	636
●市民企画会議「大倉ダムの魅力発信」	地域には県内有数の規模を誇る大倉ダムがあるが、この稀有な地域資源の魅力を広く発信するために、地域から集めた鯉のぼりを大倉ダム堤体に架けるイベントを企画した。	4月27日～ 3月17日	7	64

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

上愛子学区社会福祉協議会への活動支援

上愛子学区社会福祉協議会では、高齢者、特に自宅にこもりがちになる一人暮らしの高齢者を対象に、約半日の移動研修を平成17年から実施している。内容は、高齢者のための講話とお楽しみの演芸会、最後に昼食会で交流する企画となっている。

市民センターでは、その際の講師選定などを豊富なバックデータを基に提案し、チラシや案内文書の作成支援、当日の運営補助などを行なっている。

大沢市民センター

〔沿革〕

大沢市民センターは、平成2年5月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成30年度には大規模修繕を実施し、平成31年4月に再開した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	大沢地域出前講座		
参加者	地域住民	延参加者	194人
開催日	全7回 6月26日(火)～3月16日(土)		
協力者・協力団体	大沢地域内各町内会・川前地区社会福祉協議会・高野原子ども会		
ねらい	市民センターから離れている地域に出向き出前講座を開催する。 諸団体と連携し、地域ごとのニーズにあった形で地域担当者と講座を運営し、生涯学習の提供と市民センター事業への理解を促す。		
概要・成果	大沢市民センターが地域に出向くことで、普段市民センターを利用できない人や利用しない人にも生涯学習に触れる機会を提供し、生きがい作りに役立ててもらおう。 平成30年度は市民センターが大規模改修工事だったため、市民センターの施設が使えず、出前講座を中心に事業を行った。年々参加者が増え、次年度も期待しているとの声が聞かれた。地域の人たちに市民センター事業を理解していただく良い機会にもなっている。		

〔平成30年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこフェス	乳幼児親子が気軽に楽しめ、交流が出来るおまつり形式のイベント「おやこフェス」を開催。児童館3館と市民センター、地域の各団体と協働し、地域全体での子育て支援を目指している。	11月9日	1	90
子どもお楽しみ体験講座	「児童館まつり」、「大接近する火星を見よう」星を見る会、「大沢・川前ダンススタジオ」USAとハピネスを踊っちゃうぞ！を開催した。	6月23日 8月1日 12月15日	3	245
インリーダー研修会	子ども対応の「インリーダー研修会とは」から始まり、危険予知トレーニングやキャンドルファイヤー等。大人対象の研修も含め1泊2日で行った。	7月28日 7月29日	1	85
大沢朗々学園	認知症予防講座や文学館講座、ニュースポーツの他、平成30年度は市民センターが休館中のため、館外学習を主に行った。	5月17日～ 3月7日	8	383

大沢地域防災講座	災害非常食「ポリ袋を使った簡単クッキング」を、婦人防火クラブを対象に行った。その後、一般募集の方たちに講師として指導。教えることで学習成果が身についているか確認できた。	1月27日 2月23日	2	32
大沢地域出前講座	「ハーブ石けんやスキนครリーム作り」、「おもしろ紙飛行機を作って飛ばして遊んでみよう」、「認知症予防講座」、「たこ作り」、「合同サロン」等を行った。地域のニーズに応え、市民センターから遠い地域の方に生涯学習の場を提供した。	6月26日～ 3月16日	7	194
大沢・川前グラウンドゴルフ交流会	大沢小学区体育振興会が主担当で、川前小学校を会場にグラウンドゴルフ交流会を開催。大沢と川前地区で主担当及び会場を交互に行っており、地域住民の交流と親睦の役割を担っている。	9月2日	1	50
大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗	児童館対象の「たこ作り」、一般募集の「たこ作り」「たこあげ・交流会」を開催した。のべ200人以上の参加者があり、地域活性化のイベントとなった。	12月26日～ 1月20日	5	239
大沢地域懇談会	町内会長、地域団体、学校等と地域課題やニーズについて意見交換・情報交換を行った。	5月31日 2月22日	2	45
地域サロン出前講座	「オリエンテーション」、「ハンドマッサージとハーブティでリラックス」、「児童館まつり」「おやこフェス」でハンドマッサージコーナーを担当した。	4月19日～ 11月9日	6	71
平成30年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	宮城地区を活動拠点とするサークルや団体の成果発表の場。宮城地区内市民センター（広瀬・宮城西・落合）と共催で行った。	2月17日	1	800

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「サロンボランティア」の活動支援

サロンボランティアは、平成29年度市民企画講座「サロンボランティア養成講座」の参加者により結成された。ハンドマッサージやタッピングタッチの技術を学び、市民センターや児童館の講座で、ハンドマッサージコーナーを設け活動をしている。また、地域のおまつりや地域のサロンからハンドマッサージの要請があり、出前形式で参加することで、地域に貢献し、若いお母さんから高齢者まで、会話をしながらリラックスした時間を持てたことに、感謝の声が多く届いている。

市民センターでは、スキルアップ講座の開催や、活動場所の提供を行い、ボランティアの活動を後押ししている。

落合市民センター

〔沿革〕

平成 6 年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道 48 号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設、大型商業施設も整備され、さらに平成 27 年には復興公営住宅が完成し、人口が増加している地域でもある。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「わが青春の思い出～戦争の記憶を交えて」		
参加者	平成 29 年度の参加者と地域の学校	延参加者	408 人
開催日	全 15 回 5 月 11 日（金）～ 3 月 15 日（金）		
協力者・協力団体	栗生小学校、宮城広瀬高等学校		
ねらい	平成 27 年度から始めたこの企画会議では、冊子「追憶・戦争の時代」が平成 28 年度初めに完成。この冊子を基に、企画員の戦争体験を後世に伝えていきたいとの思いから、講座「追憶・戦争の時代～広瀬村を語る」を、平成 28 年度は宮城広瀬高校の生徒を対象に、平成 29 年度は地域住民対象と広瀬高校生対象の 2 回を開催し、成果を発表してきた。 平成 30 年度は、地域のみならず、より多くの市民に戦争の悲惨さと平和の大切さを知ってもらうために、企画員が講演し、企画員の思いと経験を後世に伝えていく。		
概要・成果	講演「戦争の時代～広瀬村の子ども」開催に向けて 15 回の企画会議を実施した。 栗生小学校 6 年生 120 名と宮城広瀬高校 1 年生 280 名を対象に、戦争の怖さや、今の平和な生活がいかに大切か、命の尊さを訴える語りを披露した。各児童・生徒・先生から感動したとの声が寄せられ、企画員の思いと体験を十分に伝えることができたとともに、令和元年度も依頼を受けた。 また、栗生小学校で開催した講演を機に、仙台市小学校教育研究会 視聴覚教育研究部会より教材制作の協力を依頼されて取材を受けた。それが小学校の教材となり、広く活用されるものとなった。回を重ねることで企画員の絆が深まり、元気の源となっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●わくわく子育てひろば	ふれあい遊びやおもちゃ作り、交流会等を実施した。各回とも、子育て相談タイムを実施し、講師や先輩ママからのアドバイスと、ママ同士が情報交換することで、子育てにゆとりと安心を持つことができた。	5 月 24 日～ 12 月 13 日	7	84
親子であ・そ・ぼ！	親子が一緒に参加してのスポーツ、工作、調理実習を行った。第 1 回目参加の親子はその後サークルを立ち上げ、本講座が親子間のふれあいを深めた。	6 月 16 日 8 月 4 日 2 月 2 日	3	79
インリーダー研修会	危険予知トレーニング、自然体験ゲームを行った。子ども会のリーダーとして主体的に関わろうとする意識が芽生え、子ども会活動の活性化につなげた。	7 月 28 日 7 月 29 日	1	85

宮城広瀬高等学校連携事業「いってみよう！やってみよう！広高タイム」	高校生が自分たちの特技を活かし、小学生と卓球や書道で交流を図り、文化祭案内、生徒作品ロビー展などで社会参加と地域住民との交流を図った。	8月1日～ 2月26日	7	2,328
●落合栗生実年学級	受講生の代表である運営委員が実施内容を企画し、地域の高齢者が歴史や音楽、健康などを学習した。受講生同士の交流と親睦を深めた。	5月17日～ 2月21日	10	357
落合・栗生地区の七夕かざり	仙台伝統の七夕づくりを通して社会福祉協議会サロンや、地域保育園児との交流を行った。出来上がった七夕をロビーに飾りつけ、来場者の目を楽しませた。	6月8日～ 8月24日	9	129
七夕コンサート	主催事業「落合栗生の七夕かざり」で作成した七夕かざりを観賞しながら音楽を聴いた。市民センターに足を運ぶことの少ない住民に気軽に参加できる機会を提供し、交流を促した。	7月22日	1	70
地域防災講座	消防業務体験や濃煙体験、補助避難所開設訓練、防災キャラクターぬり絵コーナーなどを行った。地域住民の防災意識が高まり、自助・共助の意識が養われた。	7月27日 11月11日	2	186
落合・栗生地区まつり	作品展示、演芸発表、出店、フリーマーケット等。地域住民の学習意欲を高めることにつながった。昨年度に続き抽選会を実施し、盛り上がりを見せた。	10月21日	1	1,780
平成30年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	宮城地区内を活動拠点とするサークルや団体の成果を発表した。市民センター4館共催により、普段接する機会のない団体・職員の交流や団体の積極的な活動の場となった。	2月17日	1	800
地域懇話会	地域の各種団体との情報交換、市民センター事業の報告・説明等を行った。地域のコミュニケーションを活性化し、把握できた地域ニーズを市民センター運営に役立てた。	12月7日 1月25日	2	35
●複数年事業「ふるさと落合栗生地元塾」	講話と実技で落合・栗生地区の歴史について学習した。	6月23日～ 10月27日	5	77
落合栗生ふれあい工房	物づくりを学習後、施設を訪問して入所・通所者と一緒に物づくりを通して交流した。平成30年度は訪問施設を増やし、より多くの施設入所・通所者と交流を深めることができ、受講生のボランティア意識も高まった。	9月1日～ 10月5日	5	70

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「チアダンスサークル」の活動支援

「チアダンスサークル」は、平成30年度実施事業「親子であ・そ・ぼ！」の第1回「チアダンス&ヒップホップに挑戦！」に参加した親子により結成され、月に1～2回程度活動している。市民センターでは、「落合・栗生地区まつり」や「みやぎ学習フェア」への出演を促し、学習成果の場を提供することで、活動を後押ししている。

また、このサークルの活動を児童館へ紹介したことにより、子どもたちの健全育成や地域の活性化に寄与することができた。

吉成市民センター

〔沿革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成 8 年 4 月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の 2 連合町内会を対象地域としている。現在、高齢化率の上昇に伴って、利用件数や利用者数も増加傾向にある。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	青陵の森ボランティア育成事業「国見ヶ丘・吉成の郷土学講座」		
参加者	地域住民	延参加者	108 人
開催日	全 8 回 5 月 25 日（金）～10 月 18 日（木）		
協力者・協力団体	東北文化学園大学 教授 八十川 淳 氏 くよみ郷土研究会		
ねらい	吉成市民センター周辺は宅地化、商業地化が進み、自分たちの住んでいる街に自然資源や歴史的な文化施設が存在していることを知っている人は多くない。自分たちの住んでいる街を知り、その魅力を発見し郷土愛を醸成していくことをねらいとする。		
概要・成果	複数年事業の 1 年目として、青陵の森を中心に散策や講話を重ね学習を継続してきた。その成果として、自主団体「くよみ郷土研究会」が立ち上がり、現在も対象エリアを広げ精力的に活動を展開している。また、定期的に学習した成果を紙面にまとめ、市民センターに掲示したり、インターネットで閲覧できる状態にしたりして、積極的に情報発信に努めている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
がんばるママのリフレッシュタイム	育児（乳幼児）中の母親を支援する託児付き講座。初回は、フィットネス、2 回目はレジンでアクセサリー製作、3 回目はリトミックを実施した。	6 月 21 日 7 月 12 日 7 月 19 日	3	61
共に考えよう、地域の子育て！	子育て環境の改善・充実化を目的として情報交換や研修を行った。3 度の話し合いの結果、4 回目には講話「発達障害ってな～に？」を実施し、参加者同士で話し合う機会を設けた。	4 月 26 日 5 月 24 日 10 月 26 日 2 月 7 日	4	64
吉成チャイルドスクール	小学生を対象に、「物理・科学」「プログラミング」「食育」をテーマに体験学習を実施した。1、2 回目は講師役に仙台青陵中等教育学校の生徒を迎え、世代間交流も促進した。	7 月 27 日 12 月 1 日 2 月 23 日	3	61
インリーダー研修会	子ども会の中心となる現 5 年生と世話人を対象に、子供会活動に必要な知識や行事プログラムの立案、危険予知ゲーム、レクリエーションなどの研修を行なった。	2 月 2 日	1	31
★災害に備えて	吉成婦人防火防災クラブと共催し、災害に対応する講座の企画運営をした。初回の企画会議を経て、館外学習「3.11 メモリアル交流館で考えよう！」や講話「安全安心を担う、消防官の一日」を実施した。	6 月 22 日 8 月 25 日 9 月 22 日	3	55

《青葉区》

老壮大学 「きらめきスクール」	地域の高齢者が健康で豊かな生活を送るために、講話・軽体操・館外学習などの定期的な学習の場を提供した。アンケートの他、運営委員会で意見を吸い上げ講座テーマに反映させている。	5月～3月	10	728
青陵の森を楽しもう	新緑のまぶしい季節に、青陵中等教育学校の合唱部および吹奏楽部による屋外コンサートを行った。コンサート終了後、会場となった「青陵の森」を散策し交流を図った。	5月12日	1	85
あなたの町の 出前サロン ～市民センターがおじゃ まします！～	老人クラブや町内会の要請を受け、6回に渡りコンサートや健康講座等様々なテーマで出前講座を実施した。	7月21日～ 2月16日	6	344
市民企画会議を経て 企画する事業「地域の 魅力再発見～わがま ち散歩道2」	吉成・国見ヶ丘地域を散策・観察し、魅力を再発見する講座。散策中に各々がお気に入りのスポットの写真を撮り、成果物としてオリジナルのマップを作成した。	9月29日 10月6日 10月27日	3	42
みんなのコンサート	吉成小・吉成中・南吉成中・仙台青陵中等教育学校・東北福祉大学による毎年恒例の合同演奏会。演奏終了後には出演者同士の交流会もあり親睦を図った。	1月19日 1月20日	2	705
地域スポーツ交流会	誰でも参加できるニュースポーツ体験を実施した。吉成中学校及び南吉成中学校のボランティアにも協力を仰ぎ、地域および世代間交流を図ることができた。	6月23日 11月17日	2	63
吉成市民センター まつり	市民センターを利用している各種サークルや地域で活動している団体の学習成果の発表の場として開催した。本事業を通して、学校や各団体との連携強化に繋がっている。	10月19日 10月20日	2	811
吉成・南吉成 地域懇談会	平成30年度から、対象を市民センター利用団体から地域諸団体に変え開催した。色々な意見を頂き、市民センターの意義や運営に関し情報共有を図ることができた。	11月7日 2月15日	2	31
よしなり企画会	地域の魅力再発見というテーマで話し合いを重ね、「地域の魅力再発見～わがまち散歩道2」という講座（3回）を企画、実施した。	4月～10月	8	56

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

くよみ郷土研究会への活動支援

くよみ郷土研究会は、平成30年度複数年事業企画「青陵の森ボランティア育成事業」（現国見ヶ丘・吉成・南吉成地域の魅力再発見）から立ち上がった団体である。講座の中だけでは満たされない学習意欲が団体結成に繋がった。現在では自分達で学習テーマを決めて自然散策・保全、文化施設調査等の活動を継続している。

市民センターでは青葉区中央市民センターや教育機関と連携し、学習テーマの策定や活動エリアの選定についての助言、現地活動や情報公開のサポートを行い団体の活動を後押ししている。

宮城野区中央市民センター

〔沿革〕

宮城野区中央市民センターは、平成 24 年 8 月、宮城野区役所や J R 陸前原ノ町駅に隣接する複合施設内に、市内 60 番目の市民センターとして開館した。同施設には、文化センター、図書館、児童館、情報センターが併設されており、交通の利便性も良く多くの市民に利用されている。

当センターの周辺は、古くから歌枕の地と知られる歴史をきざみ、近隣には原町商店街や陸上自衛隊仙台駐屯地などを擁しており、旧来の地元住民に加え転出入者も多い地域である。市民センターとしての歴史は浅いが充実した施設を活用して、様々な学びの機会を提供するとともに、地域情報の収集・提供に努め、地域の活動を担う人材の育成や交流拠点としての事業展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	市民センター四季コンサート		
参加者	どなたでも	延参加者	455 人
開催日	全 4 回 8 月 22 日(水)、10 月 10 日(水)、12 月 12 日(水)、3 月 6 日(水)		
協力者・協力団体	宮城野区文化センター		
ねらい	当市民センターの特色である 1 階の広いロビースペースを会場に、四季折々のコンサートを開催する事業。複合施設の中にある市民センターの存在を多くの方に知らせるとともに、地域人材を活用することで、地域密着型の市民センターを P R する機会とする。 また、地域住民が気軽に集い交流する場を提供することで、よりよい地域づくりにつなげる。		
概要・成果	夏は「ピアノ＆ソプラノ」、秋は「マリンバ」、冬は「トーンチャイム」、春は「クラシックギター」と、季節に応じ様々な音楽を提供することができた。 宮城野区役所や宮城野図書館の利用者が通りすがりに立ち寄って聞き入る姿も多く、市民センター事業を知ってもらうきっかけとして大きく役立った。 また、「四季コンサート・秋」では、近隣の宮城県障害者福祉センターを介してマリンバ奏者に出演してもらうことができ、地域団体とのつながりも深まった。		

〔平成 30 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ウェルカムひろば	原町・宮城野地区に転入してきた親子を対象に、交流会のほか、地域の子育て情報を提供し、新生活の不安解消に役立てた。地域の子育て支援団体と連携し、地域ぐるみで子育て支援を行った。	6 月 21 日 10 月 18 日	2	94
楽しく学ぼう！コードモと GO！	親子が楽しく学べる工作や調理など、子どもにとっての様々な体験学習を通して、親子のふれあいを深め、参加者同士の交流の場にもなった。	9 月 8 日 12 月 6 日 1 月 26 日	3	92
先生は高校生！	地域の高校の部活動で活躍する生徒を講師に、小学生対象の講座を開催。電気自動車乗車体験とチアリーディング体験を行った。高校生の学びを地域に還元する好機となり、高校との連携も深まった。	8 月 1 日 2 月 2 日	2	26
インリーダー研修会	子ども会についての知識や実技を学び、子ども会の活性化を図るとともに、ジュニアリーダー活動の理解と周知を図った。	2 月 9 日	1	30

《宮城野区》

すずむしの里 宮城野	管内3小学校対象の「すずむしの里宮城野」を学ぶ出前授業や、市民に向けたスズムシ配布会・交換会を通して、環境保全やスズムシについての啓蒙活動を行った。	7月13日～ 12月14日	5	623
ジュニアリーダーとあそぼう！	ジュニアリーダー「WithUs 宮城野」が地域行事や市民センターまつり、原町児童館との連携講座等を実施し、技術の向上と活動の活性化を図った。メンバーも着々と増え広がりを見せている。	8月18日 11月10日 12月26日	3	268
★市民参画講座 「原町キッズもりあげ隊」	地域の子どもたち自身が企画し、市民センターまつりや小学校まつりのイベント、震災復興交流事業では「段ボールでおうちをつくろう！」を実施し、積極的に講座運営に関わった。	6月17日～ 3月24日	17	497
原町本通りに七夕を飾ろう！	原町商工会が毎年原町本通りに飾っている仙台七夕まつりの飾りを作り、仙台の伝統文化を継承するとともに商店街活性化の一助とした。	6月28日～ 8月9日	7	105
みやぎの防災・減災ひろば	聴覚障害の知識とコミュニケーションの取り方について学ぶ講座を手話要約筆記付で開催した。震災復興交流事業では防災ゲーム・かるた体験、地域防災活動の展示、火を使わないサバ飯紹介と試食を行った。	9月29日 2月23日	2	235
みやぎの大学	多岐にわたるジャンルの講座と運営委員会による自主企画で運営。火曜と金曜の2コース合同公開講座をパトナシアターで開催するなど充実した内容で、高齢者の生涯学習の場を提供した。	4月17日～ 3月15日	18	1,401
●介護予防教室～元気で自分らしい生活を送り続けるために～	定期的に継続して介護予防運動を行った。講座初回と最終回での体力測定で、大多数の受講生が機能向上を数値で実感し、介護予防への意識が高まった。	8月21日～ 12月18日	3	175
原町小学校地元学	戦争体験談や原町地域の歴史や資源、地域施設などを学ぶことで、児童が地域を知り、地元への関心を高め、地域との結びつきを強めた。講師として地域人材を学校へ紹介し、コーディネート役を果たした。	10月31日～ 12月7日	5	339
日本語交流サロン	地域に居住する日本語を学ぶ留学生と地域住民が、かるたや書道など日本の伝統文化を通して交流し、言葉や先入観の垣根を越えて相互理解を深めた。	8月5日 10月20日	2	36
●宮城野区中央市民センターまつり Mフェス	利用団体や地域団体を核とした実行委員会を中心に、団体及び地域住民、管内学校の学習成果発表を行った。町内会、地域の方々や他の団体との交流・親睦を深め、地域のつながりを広げることができた。	11月10日	1	1,800
宮城野区中央市民センター地域懇談会	町内会や管内学校、地域で活動する主な団体と情報収集や意見交換を行い、地域課題や現況を共有して、今後のセンター事業の参考とした。	6月22日 2月20日	2	38

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「宮城野原案内人の会」の活動支援

ガイドボランティア「宮城野原案内人の会」は、市民センター地元学講座の養成講座を経て、平成29年4月に発足した。自主グループ活動は、平成30年度で2年目となった。毎月、地域の魅力を再発見するまち歩きの際は、センターだよりやホームページで紹介している。また、JR仙石線地下化と共に消えた踏切の記憶と記録の伝承に取り組み、公開講座「仙石線消えた踏切をおぼえていますか」を開催した。

市民センターでは、かつての踏切の名前を刻んだ銘板の案内パネル作成や広報に関する支援など、継続してグループ活動をサポートしている。

生涯学習支援センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたのが始まりで、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成 26 年 4 月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成 26 年度より近接する榴ケ岡市民センターの出前講座として実施している。

〔平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民交流の場の提供

7 月から 8 月にかけて併設の榴岡図書館との共催で開催した「たなばたさろん」では、短冊を用意して来館者に願い事を書いてもらったり、織姫と彦星の顔出しパネルを設置したりして、来館者に楽しんでもらった。

また、「たなばたさろん」期間中に「ワンデイイベント」と題して、ミニコンサートや「消しゴムはんこで七夕グッズ作り」を企画・実施した。

榴岡図書館と共催でイベントを実施することにより、多くの来館者の交流を図ることができ、図書館内で開催していた七夕フェアへの集客にもつなげることができた。

高砂市民センター

〔沿革〕

高砂市民センターは昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。

この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また、東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んできたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で甚大な被害を受け、中野地区は仙台市災害危険区域条例に基づき災害危険区域に指定され移転対象地区となった。地区内の 4 町内会は解散し、多くは田子、上岡田、南福室に移転した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★中野ふるさと学校		
参加者	中野地区に関心のある方どなたでも	延参加者	576 人
開催日	全 25 回 4 月 13 日(金)～3 月 20 日(水)		
協力者・協力団体	中野ふるさと YAMA 学校 宮城野区中央市民センター 高砂中学校 岡田小学校 せんだい 3.11 メモリアル交流館 広瀬川倶楽部		
ねらい	東日本大震災で甚大な被害を受けた中野地区 4 町内会（和田・西原・蒲生・港）は平成 27 年度に解散し、地域は再開発に進んでいる。旧中野地区住民も含め、多くの人々がこれまで築かれてきた地域の歴史や文化の喪失はあってはならないと考えている。 中野地区の歴史や文化といった財産、震災の記憶と経験を次世代に継承していくとともに、懐かしい人たちが再び会える場を提供し、心の復興を支えていくことを目的とする。		
概要・成果	「中野ふるさと学校」は、「蒲生日和山山開き登山」「ダーツ交流会」「公開中野ふるさと学校」を平成 30 年度事業の柱とし、活動を行ってきた。「中野ふるさと YAMA 学校」のメンバーと共に、月 1 回の定例会の他、県内の 4 つの日和山の調査も行い、「公開中野ふるさと学校」の中で、その成果として日如山ミニサミットを開催した。 これらの活動は、様々なメディアから取り上げられることが多く、年々認知度が高まっている。県内外から年間を通じて多くの方が訪れ、センター窓口では 600 枚を超える登頂証明書を配布した。 「中野ふるさと学校」の幅広い活動は、地域の人々の再会と交流の場としてだけでなく、地域の活性化と地域住民に活力を与える重要な活動となっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
高砂子育てサロン ～子育てママの元気塾～	親のリフレッシュを図り、子育てを楽しめるような内容を工夫し、7 講座を開催した。同じ立場の母親同士の交流は貴重な機会であり、また地域で活動するサークルを講師に起用するなど講座開催は様々な面で地域の活性化につながっている。	5 月 17 日～ 1 月 17 日	7	180
地域小学校連携講座 「子ども学びの講座」	小学生を対象に様々な分野の学びを通じ、新たな体験や世代間交流の機会に寄与した。親子クッキング、人形劇、書道アート、読み聞かせ等の講座の講師は、地域団体やサークルを活用し、地域の人材育成にも寄与した。	5 月 12 日～12 月 19 日	11	491

《宮城野区》

宮城野区インリーダー研修会	岡田小、鶴巻小を対象に実施した。子ども向けでは「ドッジビー大会のプログラム作り」を、世話人向けでは講話と意見交換会を行った。また、ジュニアリーダーからレクリエーションゲーム等を学び、活動の実践に繋がる知識を学習した。	2月16日	1	30
いまから健康人生	東北医科薬科大学と連携し、介助の基本、認知症の予防、健康体操や小児アレルギーなどについて幅広い年齢を対象に市民の健康生活向上の啓発に取り組んだ。	6月15日～ 2月22日	9	317
高砂老壮大学	6回の幹事会での協議の上、軽運動、健康講話、歴史講話等9回の講座を実施した。多種多様な分野の学びを通して心身ともに健康で豊かな生活を送ることと、生きがいづくりに寄与した。	4月11日～ 3月13日	15	714
はじめませんか？地域活動「ボランティア・サークル」	運動、調理、音楽、習字等、様々な分野のサークル体験会を行った。体験会のほか、市民センターまつりへの参加やロビーコンサートを行うなど、サークル活動の活性化に繋がった。	7月12日～ 11月27日	7	113
★ウェルカム！高砂サローネ～高砂地区地域交流会～	復興支援や地域交流を目的に広島のと太鼓、佐賀の文化等、若い世代のオーケストラや地元住民による芝居など市民が気軽に参加できるイベントを開催し地域住民の交流に取り組んだ。	4月29日～ 3月17日	9	1,550
高砂市民センターまつり	1日目は子どもイベント・展示・屋外での催事を、2日目はステージ・展示・屋外での催事、抽選会を行い、大勢の人が訪れた。地域のまつりとして定着し、新旧住民の交流の場として貴重な行事となっている。	10月27日 10月28日	1	4,788
高砂市民センター懇話会	参加者よりサークル活動支援や講座について、指定避難所としての施設の安全管理について等活発な意見交換が行われた。特に講座の内容については参加者からニーズを伺い、次年度事業に活かすことができた。	5月12日 11月10日	2	50
★ハマヒルガオプロジェクト～岡田新浜花咲く海辺づくり計画～	岡田小5、6年生を対象に、海浜植物の種蒔きから植栽までを行い、ふるさとの自然再生について学んだ。活動は地域住民だけではなく、諸団体や地域企業にまで広がり、地域の一員としての自覚も芽生えてきている。	5月31日 6月29日 10月12日 11月15日	4	283
考えませんか「指定避難所運営」	11月に実施した「指定避難所運営訓練」は町内会に加え、小中学校も参加し、地域一体となって取り組んだ。2月は婦人防火クラブのメンバーを対象に「持ち寄り食材でサバ飯づくり」「クロスロードゲーム」をテーマに講座を開催した。講座を通じ地域の防災意識の向上に寄与できた。	11月4日 2月5日	2	522
★新浜プロジェクト	新浜町内会と共催で、親子を対象としたサツマイモの育成に関わる農業体験、伝統の正月行事の体験、ジャイアントカボチャの育成を行い、新浜地区の活性化に取り組んだ。	4月6日～ 12月16日	10	256

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「宮城野親子で料理プロジェクト」の活動支援

「宮城野親子で料理プロジェクト」は、平成26年度に「食」を通しての復興と、親子の絆を深めることを目的に結成された。市民センター主催講座「新浜たんぼ学校」の協力団体として活動を共にし、現在では講座の内容を引継ぎ、新浜地区を拠点に親子農業体験などの活動を展開している。

市民センターでは、開催するイベントのサポートや各種団体、小学校などへ講師として紹介をするなど、活動の活性化を後押ししている。

岩切市民センター

〔沿革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。平成 18 年 6 月から 12 月まで大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩いの家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●すずむしリンリン講座		
参加者	出前授業：岩切小学校 4 年生 放虫：岩切たんぽぽ保育園児 配布会・コミュニティまつり：どなたでも	延参加者	557 人
開催日	全 4 回 6 月 21 日(木)、7 月 28 日(土)、8 月 23 日(木)、10 月 28 日(日)		
協力者・協力団体	すずむしの里づくり実行委員会、岩切小学校、宮城野区中央市民センター、岩切地区町内会連合会、岩切たんぽぽ保育園		
ねらい	都市化が進むことで失われつつある自然環境の中、仙台市の虫・スズムシを飼育し、自生させる活動を通して、多くの市民が自然に興味を持ち、人とスズムシが共存できる潤いのあるまちづくりを目指す。		
概要・成果	岩切小学校 4 年生を対象に毎年出前講座を行っているが、担当講師は、様々な反応を見せる児童にその場で工夫を凝らし、集中して聞いてもらえるように講義を行っている。初めはスズムシを怖がっていた児童も、授業の終わりには進んでスズムシに触れるようになった。 また、保育園児と予定していた放虫については、猛暑のため実行委員のみでの実施となった。配布会やまつりなどへの参加については、天候にも左右され一概に増減は計れないが、毎年継続して来場する人は増えている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
家庭教育地域交流会	岩切地域で小中学生の教育に関わっている 6 団体が定期的に会議を開き、その時々には起きている問題を話し合っ てそれに対応する講座を企画・実施した。平成 30 年度は、SNS に関するトラブルから子どもを守る講座を実施した。	6 月 6 日～ 12 月 12 日	5	54
●岩切子育てネット ワーク 「岩切子育て会議」	教育施設や子育てサークル等の諸団体が連携し、月に一度会議を行うことで地域の子育てに関する課題を交換・共有した。	4 月 26 日～ 1 月 29 日	21	642
インリーダー研修会	子供会の 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識や世話人の役割、行事プログラムの作成やゲームの進め方を学ぶ機会を提供した。	2 月 23 日	1	44
岩切小学校地元学連携講座	岩切小学校 4 年生を対象に、地域に古代から自生する苧麻についてその歴史や素材の活用方法を学習する機会を提供した。	8 月 28 日～ 10 月 3 日	7	633

《宮城野区》

ジュニアリーダーと遊ぼう！	岩切市民センターまつりにおいてジュニアリーダーのコーナーを設けた。また、体育館を使ってジュニアリーダーが小学生を対象にゲームを実施した。	10月14日 12月9日	2	69
岩切老壮大学	60歳以上の方を対象に、脳トレ、医学、文学、音楽、健康等、さまざまなジャンルの学習を月1回提供した。	4月20日～ 3月8日	12	304
岩切老壮大学院	老壮大学を卒業した方を対象に、健康講話や認知症予防体操、歴史講話、コンサート等定期的に学習の場を提供し、高齢者の交流や生きがいづくりにつとめた。	4月18日～ 3月6日	10	459
考えよう！岩切の防災	各種気象災害から命を守る講座、親子で防災食をつくる講座、AED講座を行った。	7月7日 11月17日 2月2日	3	45
子どもの広場（居場所）づくりボランティアの養成	毎月最終土曜日の午後、体育館を子どもの広場として開放し、子ども達に様々な遊びを体験させ、それを見守るボランティアの養成に繋げる講座を行った。	6月～1月	8	147
岩切地域懇談会	市民センター利用サークルとの懇談会、岩切地区公所団体等との意見交換会を行った。	6月22日 11月22日 2月21日	3	31
●岩切市民センターまつり	岩切で活動するサークルの学習発表会及びコンサート、ジュニアリーダーコーナー、出店、動物ふれあいコーナー、図書コーナー、健康づくりコーナー等を設け、気軽に楽しく集い交流できる場を提供した。	10月13日 10月14日	2	1,650
市民企画会議	地域住民の抱える地域課題やニーズに応える講座の企画・運営を行った。	10月3日 12月10日 1月21日 2月14日	4	28
家庭教育地域交流会「子どものいのち・子どものころ～地域で守ろう～」	子どものSNSトラブルが起きている現状に鑑み、保護者向けに子供を取り巻く情報環境についての講演会を、児童向けにはコミュニケーションマナーを学ぶワークショップを開催した。	9月8日 12月1日	2	51
●岩切子育てネットワーク 岩切子育て講座	乳幼児と親子を対象に「親子でわいわい広場」、岩切子育て情報のPRとして「岩切コミュニティまつり」に参加した。また今年度新たに子育てネットワークの各団体の施設見学（12団体）を実施した。	6月13日～ 1月29日	14	538
市民企画講座 子育てママのための 出前講座	市民センターから遠く離れた集会所とコミュニティセンターを会場に、人形劇鑑賞会とコンサートを実施した。	1月21日 2月14日	2	115

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「I O C（岩切おもしろ倶楽部）」への活動支援

「I O C（岩切おもしろ倶楽部）」は、平成27年度の市民企画会から立ち上がったサークルであり、あらゆる世代が交流できるイベントを通じて、活気ある地域づくりに貢献することを目的として活動している。平成30年度は、岩切城の謎を解きながらのまち歩き、教育映画「てんびんの詩」の上映会、落語や漫才などの「岩切おもしろ寄席」に取組み、のべ300人の参加を得た。各イベントの参加者アンケート結果は、高評価であり、I O Cの活動は地域に大変期待されている。

岩切市民センターは、I O Cがイベントを自主運営できるように、活動への助言や関係機関との調整を行ってI O C活動の後押しを行っている。

鶴ケ谷市民センター

〔沿革〕

鶴ケ谷地区は、仙台市が大型モデル団地として開発し、昭和 43 年から入居を開始した住宅団地である。

鶴ケ谷市民センターは昭和 47 年 5 月 22 日、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として開館した。その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を得て、各種の講座を開始したが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年に市民センター・公民館として発足してからのことである。平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により鶴ケ谷市民センターが被災し使用不能となったことから、平成 24 年 3 月から近傍に仮事務所を設け生涯学習事業を行ってきたが、平成 28 年 4 月 2 日から第一市営住宅団地再整備地内に市民センター(単独館)を移転・新築して開館し、地域の生涯学習・交流・コミュニティづくりの拠点として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	鶴ケ谷キッズステーション		
参加者	小学生（保護者参加の会もあり）	延参加者	小学生 130 人 保護者 21 人
開催日	全 6 回 8 月 2 日(木)～3 月 23 日(土)		
協力者・協力団体	共催:鶴ケ谷西児童館 協力団体:仙台第三高等学校グローバルサイエンス、鶴ケ谷ひょうたん沼楽校、鶴ケ谷メンズクッキング		
ねらい	子どもたちが、自立した社会人の基礎となる力を養うためには、学校や家庭以外にも地域の教育力が求められている。とりわけ体験学習は、実地に触れて感じる機会として大切である。 そこで、高校生や大人たちに教わりながら、異なる学校・学年の子どもたちがともに交流する場を提供し、自己有用感を育み協調性や社会性を身につけるための一助とする。また、児童館と連携することで、情報交換やニーズの把握、子ども達への声がけなど、適切な事業となるための協力関係が期待できる。		
概要・成果	◇第1回科学不思議体験「科学のふしぎ体験」工夫しながら成果を出す事を体感し、科学のおもしろさに触れ興味を深めていた。◇第2回自然フィールド体験「ひょうたん沼をたんけんしよう」地域の自然から教わるおもしろさを体感、地元への愛着を育んだ。◇第3回科学不思議体験「ラクロスを体験しよう」未体験のスポーツを学び挑戦する面白さを体験できた。◇第4回科学不思議体験「カルメ焼きを科学しよう」化学変化が生活の場で生かされていることを知り、化学が生活を便利にしていることを知る機会になった。◇第5回科学不思議体験「植物の科学飛ぶ種の秘密」種を様々な角度から観察し飛ばしてみることで、植物の次世代への様々な戦略を教わり興味を深めた。◇第6回自然フィールド体験「ひょうたん沼の春の観察会」春の芽吹く植物や、北へ帰る渡り鳥を観察。ひょうたん沼の豊かな自然を知り、愛着心を育んだ。 保護者・学校から得る学びとは違う角度からの体験学習を通じて、学びのおもしろさや、挑戦する面白さを体感し、共に学ぶ異学年との交流から、協調性や社会性が育まれていた。また、講師や体験サポーターとのふれあいやアドバイスを通じて学びが深められ、自己有用感を得る機会となっていた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
つるがや子育て応援ひろば	地域ボランティアによる「おはなし玉手箱（絵本の読み聞かせ、手遊び等）」、鶴ケ谷東民児協との共催で「親子でリトミック」、食育講座としてお弁当作りの調理実習（託児付）を開催した。	6 月 15 日 8 月 1 日 12 月 13 日	3	62

●鶴・燕・西子育て支援ネットワーク事業	地域の児童館 4 館と子育てネットワークを構築して、地域課題を探り、情報交換を行って、子育て支援のため乳幼児親子向けフェスタを開催した。	5 月 18 日～ 12 月 14 日	8	235
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の活性化のため、次期リーダーの児童は行事計画の作成やレクリエーションの進め方を体験し、世話人は子ども会のあり方や世話人の役割について学び、情報交換を行った。	2 月 16 日	1	69
君もプチレスキュー	鶴谷中の 1 年生は災害初動対応・応急手当、2 年生は救命講習、3 年生は避難所運営を学び仮設トイレの組立てを行い。西山中 1 年生は地域の方と一緒に防災クロスロードゲームを行った。	6 月 21 日 9 月 28 日 10 月 2 日 12 月 12 日	4	429
市民企画講座「女性のいきいきライフ in 鶴ケ谷」	市民企画会議で企画した連続講座「健康のお話と茶話会」、「シニアのいきいき美容」、「カラダづくり」、「ランチで交流会」を開催した。4 回中 3 回は企画員自らが講師を務め地域リーダーとしての意識向上を図った。	9 月 6 日 10 月 5 日 11 月 8 日 12 月 6 日	4	71
市民企画会議「女性のいきいきライフ in 鶴ケ谷」	前年度に続き女性企画員により地域課題を検討して、地域の女性が楽しく交流し学べる健康・美容・調理実習等の講座を企画した。	5 月 24 日～ 12 月 13 日	10	28
鶴ケ谷ことぶき大学	軽運動、医療、住職による説法、臨床美術体験、歴史、コンサートなど 10 回の講座を開催した。運営委員企画として館内・館外学習を行った。	5 月 16 日～ 2 月 20 日	10	578
すずむしの自然学校	鶴谷小学校及び鶴谷東小学校にスズムシの飼育や生態についての出前授業を行った。また、当館において、地域住民へのスズムシの無料配布と交換会を行った。	6 月 29 日 8 月 3 日 8 月 30 日	3	194
●みんなで支え育もう！鶴ケ谷の心を！	地域ニーズを把握し学習会として「救命・救急法講習」、「長町-利府断層帯の現状等」、「鶴ケ谷の魅力（小学校出前授業）」を開催した。また中学生による子ども参画型事業の検討会を開催し、次年度の活動の基盤を築いた。	4 月 12 日～ 2 月 27 日	16	297
鶴ケ谷市民センターまつり	地域諸団体、センター利用サークルで実行委員会を組織し、ステージ発表、作品展示発表及び体験、模擬店を開催した。	10 月 27 日	1	1,700
鶴ケ谷地域懇談会	町内会連合会や地域諸団体、センター利用団体などと地域課題の意見交換を行うとともに、センター運営等についての意見交換を行った。	5 月 30 日 11 月 17 日	2	45

〔平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

鶴ケ谷市民センター 「図書ボランティア もくれんの会」 の活動支援

「図書ボランティア もくれんの会」は、平成 28 年度事業にて実施された「図書ボランティア養成講座」を経て、『本が好きで、読書を愛し、本を通じての交流をたのしんでいる』10 名のメンバーで結成された。本の貸出しや返却の対応だけでなく、蔵書点検、本のブッカー掛けなどのメンテナンスにも積極的に携わっている。また、市民センターまつりや子育てイベントに参加し、本の紹介や栗などの配布を通じて、読書の楽しさを伝えている。さらに蔵書がまだまだ足りないことから、地域の皆さんに呼び掛けて「本の寄贈」受け入れ活動にも携わっている。

市民センターでは、メンバー一人ひとりが蔵書点検・整理、本のブッカー掛け等の専門技術を習得できるよう、専門講師を招いての研修会を行うなど、スキルアップ支援を行っている。

榴ケ岡市民センター

〔沿革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、楽天生命パーク宮城などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●まごまごしない孫育て		
参加者	孫を持つ祖父母	延参加者	77 人
開催日	全 5 回 5 月 30 日（水）～9 月 14 日（金）		
協力者・協力団体	宮城野区家庭健康課		
ねらい	女性の社会進出が進むなか、家族の育児協力は不可欠なものとなっており、なかでも、子育て経験のある祖父母の力が注目されている。未来ある子どもを健やかに育むため、時代に合った育児の方法や考え方についての学習の場とし、また、祖父母同士のつながりの場とすることで、悩みの共有を図り、希望を持ちながら孫を育てられるような家庭環境へ向上していくことを目的とする。		
概要・成果	仙台市が発行している「祖父母手帳」を活用し、現在の子育て方法を学ぶことなどにより、孫育てを行っている祖父母の抱えていた問題を解決に導くことが出来た。 また、実践的な内容の講義を主とし、ワークショップを採り入れたことで、孫を育てるうえでの悩みや疑問を共有し、祖父母同士の交流を図ることができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

インリーダー研修会	榴岡小学校の児童が所属する子ども会の充実と活性化を図ることを目的とする。そのため、核となるリーダーと世話人を対象に子ども会の知識を習得したり、レクリエーションやゲームの運営・技術を学んだ。	2 月 3 日	1	53
東口ゆうえんち	社会人や学生スタッフの企画により学校や家庭では体験できない場として、炊飯器ケーキ作り、アートプロジェクト、段ボール迷路、お化け屋敷を開催した。	5 月 19 日～ 2 月 16 日	14	367
未来につなぐ朗読講座	朗読の基礎と、震災・震災体験などの題材を通して朗読表現を学び、まつりで発表することにより震災・戦争や平和について考える機会となった。	6 月 19 日～ 10 月 6 日	6	73
榴ケ岡老壮大学	変化する社会に対応しながら心身ともに豊かな生活を送るため、年間を通して健康・歴史・社会学等の様々な分野を学んだ。また、講座開催や運営委員会を通して、受講生同士の交流が行われていた。	4 月 19 日～ 3 月 7 日	11	735

《宮城野区》

介護予防講座 東口ますます元気教室	高齢化社会の中で高齢者が心身ともに健康でいられるよう、運動や学習の機会を設けた。また、定期的に開催することで、参加者同士が顔見知りになり、同世代の交流が生まれていた。	5月16日～ 2月20日	11	419
介護なさっている方 たちへ とおきの時間	介護に関心のある方が集い、介護に関する制度や知識の情報交換をしながら、交流し支え合えるきっかけになった。また、地域施設への出前講座も開催し、事業を広く知っていただく機会となり新たな参加者増となった。	5月23日～ 2月13日	12	181
地域活動を応援！ 簡単パソコン活用塾	町内会活動ですぐに活用できるパソコン技術を学ぶ機会を設けることができたほか、受講者全員で復習を行うことで、講師や受講者同士が気軽に知識を補い合うなどの関係性を構築することができた。	5月22日～ 7月6日	6	40
◎榴岡地区エキサイ ティング事業	地域力創造支援事業として3回の寺子屋と、新規居住者との交流を図る花見・まちあるきを実施した。前記事業としては最終年度であるが、次年度以降講座として実施することとなった。	4月14日～ 3月15日	14	359
地域盛り上げバルー ン隊	気軽に地域活動に参加するきっかけとして開催した。前半3回でバルーンアートの技術を学び、楽しみながら上達した。その後市民センターまつりで講師と共にブースを設け、学んだ成果を発揮し地域内外の方々に喜んでいただいた。	9月2日～ 10月6日	5	25
榴ケ岡市民センター まつり	主に榴ケ岡市民センターを拠点に活動しているサークルや地域団体が、ステージ、展示、体験コーナーなどで発表をしサークル・地域住民の交流の機会になった。	10月6日	1	350
榴ケ岡市民センター 地域懇談会	町内会や地域の団体やサークル、センター利用者と意見交換、情報交換をし、センター事業について理解を深めてもらった。また、地域の情報を収集し、地域ニーズや課題について共有した。	10月19日 11月30日	2	20
キラキラ社会人企画 会	地域に住む20～30代が集まり、「榴岡社寺スタンプラリー」の企画・運営、また、市民センターまつりへの参加、そして次年度に向けての話し合いを行い、一年を通して大変充実した企画会となった。	4月28日～ 3月10日	12	52
榴岡社寺スタンプラ リープロジェクト	「キラキラ社会人企画会」で企画した講座である。スタッフが自ら地域の歴史を楽しみながら学び、スタンプラリーという形で学びを地域に還元することができた。当日は小学生から60代の方まで幅広い年代の方に楽しんでいただけた。	4月21日～ 9月9日	11	70

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援

平成25年度市民センターの養成講座から立ち上がった、東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」は、毎月28日に開催しているまち歩きや小学校の総合学習、専門学校や主催講座の講師など、楽しみながら地域の歴史的資産や文化を伝える活動を行っている。

市民センターは小学校やまち歩きをしたいという団体との調整、また、主催事業とも連携するなど、地域活性化の一助につながる活動を支援している。

東部市民センター

〔沿革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。また、この地域は、ＪＲ陸前原ノ町駅・苦竹駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、東北本線、仙石線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄。さらに立地状況としては、宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊苦竹駐屯地などそれぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「東部スマートエイジングサロン」		
参加者	50 歳以上の地域の方	延参加者	43 人
開催日	全 4 回 7 月 7 日(土)、11 月 17 日(土)、1 月 26 日(土)、3 月 9 日(土)		
協力者・協力団体			
ねらい	比較的小さいシニア世代にスポットをあて、地域で活動することの楽しさや地域のつながりの大切さなどを体得しながら、活動するためのスキルを習得し、最終的には地域リーダーとして活躍することを目指す。また、地域で魅力ある生き方をするための一助とする。 一年目となる平成 30 年度は、まだ地域デビューしていないシニアを対象に、まず交流を進めることを目的とする。		
概要・成果	講座参加が初めての方にも参加しやすい内容から始めて、徐々に交流を深めていくのが良いという意見が企画員から出され、その方向で講座を企画した。 「地域の検定問題」、「軽運動」、「音楽鑑賞」等を実施することで参加者の交流が進んだ。地域の方々は交流を求める声が多いことから、スマートエイジングサロンへの期待が高いことがわかった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子で育てるおいしい野菜 2018	親子で、土づくりから種まき・収穫、調理しおいしく食べるまでの野菜づくりを学ぶ機会と、収穫の喜びを味わう機会を提供した。また、地域ボランティアとの異世代交流も深めながら、共に成長し、親子の絆を育むことができた。	4 月 28 日～ 8 月 18 日	5	63
子育てサロン 「まったりルーム」	託児室を設け安心できる環境の中、子育て中の親が、子どもとの接し方を学び、日頃の悩みを相談し、同じ子育て中の親や地域の子育て先輩との交流を図る機会を提供した。	11 月 2 日 11 月 9 日 11 月 16 日 11 月 30 日	4	65
東部子どもの育ちを支えるプロジェクト	子どもたちが地域の他世代や異年齢の子どもとの交流や体験を通じ、社会性を育む機会とした。併せて地域全体で子どもの健やかな育ちを支える環境作りを図った。新田小昔遊び、ジュニアと遊ぼう、東仙台小出前教室、テーブルゲームカフェ、お手紙ワークショップ、小正月ごっこ等を実施した。	4 月～3 月	12	679

《宮城野区》

T O S E N（東仙台 中）COMMUNIT Y～中学生と交流し よう～	学校生活や部活動に忙しく地域と接点を持つ機会が少 ない中学生と、住民や小学生との交流の場を設け、顔の 見える関係づくりを図った。「地域卓球交流会」、「キ ーマカレーと手作りナンを作ろう」を実施した。	12月15日 12月26日	2	64
仙台市子ども会イン リーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、次年度の子ども会のリ ーダーとして活動する児童及び世話人を対象に、活動に 必要なスキルを学習する機会を提供した。	2月9日	1	50
老壮大学 「東部いきいきスク ール」	受講生による運営委員会の企画で、高齢者に生涯学習の 場を提供した。開講式、自主企画講座、館外学習、クリ スマス交流会、閉講式等を実施した。	4月18日～ 3月6日	11	353
市民企画会議「WA！ 食でつながろう」企画 「おもち」を知ろう～ おもちのアラカルト	日本の伝統食「もち」。地域でもちをついてもてなし、 親睦を図ったというもち文化を学び、暮らしとの関わり や伝統食材の調理方法などを、若い世代に伝えた。	12月1日	1	12
楽しいシニアライフ 「笑顔で毎日をおく るために」	地域の高齢者が楽しく健康な毎日を過ごせるように、気 軽に参加できる体操教室を開催した。参加者同士、イス ヨガや脳トレゲームなどで交流しながら楽しく体を動 かした。	1月29日 2月5日 2月13日	3	97
地域で支える防災ル ール	平成30年度は東仙台小学校への避難町内会を対象とし た防災訓練を行った。	5月12日～ 6月24日	5	1,146
第24回東部ふれあい まつり	町内会や地域団体、市民センター利用サークル、地域の 小中学校の学習成果の発表の場を設け、参加者が協力し あって地域のまつりを開催した。また、地域住民や地域 団体の交流・親睦を深め、つながりを広げることができ た。	9月30日	1	1,050
東部ふれあいコンサ ート	新たに転入してきた人やふだん市民センターに足を運 ぶことのない住民のため、気軽に集えるコンサートを開 催した。「ヨーデルチロリアン」の歌声と「若吹サック ス5」の合奏を楽しんだ。親子室を設け、多様な家庭に も配慮した。	12月8日	1	70
東部市民センター懇 話会	地域住民によるコミュニティづくりや地域課題の共有 を図るため、情報交換や意見交換を行った。地域づくり や生涯学習への参加や利用促進について理解を深めて 頂き、市民センターがこれまで培ってきた地域の応援団 として顔の見える関係や立ち位置をより深めて理解し てもらう手立てとなった。	6月19日 2月2日	2	26
市民企画会議 「WA！食でつなが ろう」	古くから伝わる郷土食や食文化を、若い世代に伝えてい くために、「おもちを知ろう～おもちのアラカルト」を 企画運営した。企画員は講師としても活躍し、人材育成 につながった。	5月12日～ 12月1日	8	76

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域をつなぐボランティア「東仙台よろこびの会」と「新田よろこびの会」への活動支援

東部市民センターを拠点に、2つのボランティア団体が、配食サービスなどの活動をしている。

「東仙台よろこびの会」は、人と人とのふれあいの中に奉仕する喜びを見出したことからその名が付けられた。単身高齢者だけでなく、地域の方々がいつまでも住み慣れたまちで自分らしい生活が続けられるようにと始めた活動は、平成30年で34年目を迎えた。

平成5年、新田地区にも住宅が増えたことで「新田よろこびの会」が、「東仙台」から分離し誕生した。地域の皆さんの笑顔とコミュニケーションを励みに活動を続けている。

市民センターでは、新田小学校や児童館と連携し、お弁当に添えるカードを地元の小学生に書いてもらったり、昔遊びの講師を依頼したりする等、団体が地域において活躍する後押しをしている。

幸町市民センター

〔沿革〕

幸町市民センターは、平成 5 年 4 月 20 日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大槻地区と、与兵衛沼、柝江の森などの緑豊かな自然に恵まれた柝江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設とともに、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成 26 年度には復興公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	柝江の森魅力発信プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	59 人
開催日	全 8 回 5 月 19 日(土) ～ 3 月 9 日(土)		
協力者・協力団体	柝江学区町内会連合会、宮城野区中央市民センター、柝江小学校、百年の杜推進課		
ねらい	市民参画型事業「柝江の森魅力発信プロジェクト」は、柝江小学校に隣接する「柝江の森」を「地域の力」で見直し、利用や活用を考え、実行していきたいという思いから始まった。複数年事業の 1 年目であり、市民企画員を中心に協力団体とともに「柝江の森の活性化」を目指し、話し合い、森を楽しむ企画を計画・実行、発信する。		
概要・成果	1 年目は、3 つの主な取組を行った。1 つ目は、柝江の森を知るために、「森の達人と森へ行こう」と題し、森林インストラクターの指導で初夏の森を散策し、森の現状を学んだ。2 つ目は、他の先進的な取組から学ぶため、「真美沢公園を美しくする会」のメンバーを講師に迎え、活動についての学習会を行った。3 つ目は、柝江の森を楽しむアイディアを考えるため、地元の歴史家から地元学を学んだ。3 つの取組とも順調に行うことができ、2 年目につながる成果を収めることができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てママのリフレッシュ応援講座	「手作りおもちゃで遊ぼう」「ハーバリウムを作ろう 託児付」「覗いてみよう！地域の保育所」「子育てサロン」など様々な内容を行うことで選択肢があったことや母親同士の情報交換の場となった。	6 月 15 日 6 月 29 日 7 月 13 日 7 月 26 日	4	28
●さいわいどんぐりクラブ	親子対象の自転車教室、縄文時代の勾玉制作体験、プログラミング実践講座、お菓子作り教室など、子どもたちの知的好奇心を満たし、自主性や創造性を育むことを目的に、様々な体験の場を提供した。	5 月 12 日 8 月 1 日 8 月 24 日 9 月 22 日	4	57
仙台市子ども会インリーダー研修会	地域の子ども会活動を充実させるため、対象児童や世話人の実践的学習を行った。児童はレクリエーションゲームの企画・実施、世話人は講話・情報交換などを行った。	2 月 23 日	1	48

ジュニアリーダーとあそぼう	第1回「幸町児童館まつり」ではJL4名がもぐらたたきで子供達と楽しく交流した。第2回「市民センターふれあいまつり」では、的当てゲームで子供たちに配る賞状にも工夫を凝らし298名の子供達を楽しませ、まつりを盛り上げた。	10月13日 11月18日	2	350
●幸町生涯大学	高齢者が社会とつながりを持てるよう、学習と交流の場を提供した。健康・音楽・生活・歴史・運営委員自主企画等を実施した。	4月19日～ 2月21日	10	500
幸せ奏でるコンサート	ギターやコーラス等市民センターで活動するサークルが出演するコンサートで音楽活動の活発化が図られた。終演後には茶道サークルの協力によるお茶っこサロンを開催し地域住民相互の親睦を深めた。	7月14日 12月15日 1月26日 1月30日	4	193
災害への備え ー安心して暮らせる町へー	災害時の協力体制を構築し、安全なまちづくりを目指すために、地震だけではなく地域の環境を踏まえた災害に対する防災訓練を行った。また、防災講話では自助・共助について学んだ。	9月8日 2月16日	2	101
夏だ！行こう！盆踊り	3町内会連合会から「夏まつりを盛り上げてほしい」との要望で柞江、幸町、幸町南児童館の児童と地域の方との交流を図りながら練習を重ね地域行事の活性化に貢献した。	7月20日～ 7月29日	6	179
●第22回幸町市民センター ふれあいまつり	幸町地域の連合町内会と健全育成連絡協議会が市民センターとともに、地域をあげてのまつりを開催した。地域団体によるステージ・展示発表、福祉団体による出店・販売、防災・交通安全コーナーなど。	11月18日	1	2,900
幸町市民センター地域懇談会	市民センター事業・運営への理解・協力を頂くための話し合いの場とし、地域住民や利用団体、さらに小中学校、各種団体の声を反映させていくための情報交換ができた。	6月27日 2月27日	2	32
学校へ行こう隊 ー子どもを育てる大人の力	幸町・幸町南小学校2年生対象に「昔話を聞く会」、幸町南・柞江小学校5年生対象に「しめ縄づくり」を開催した。地域住民やサークルを活用し民間習俗の伝承を通して世代間交流を図った。	11月28日 12月4日 12月7日 12月13日	4	5

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

サークル活動「幸南復興太鼓」の活動支援

幸南復興太鼓は、東日本大震災以降、幸町地区の地域活性化を目指し、活動を開始して8年目を迎えた。幸町市民センターの講座から立ち上がり、当初は地域のイベント（各地区の夏祭り等）出演での成果発表が主だったが、現在では地域活動はもちろん、仙台市内の様々なイベント参加へと幅広く活動の場を広げ、地域活性化に貢献している。

市民センターでは、情報提供や、講座での活動の場を提供するなどの支援を通して、地域住民やサークル同士の交流の場を提供し、活動を後押ししている。

田子市民センター

〔沿革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線（最寄駅：福田町駅）や国道 45 号線等に近い交通の利便性のよさから開発が進み、人口が増加している。半面、平成 27 年頃から 65 歳以上の高齢化率が緩やかに上昇してきている。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、地域防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地条件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度には田子西復興公営住宅に 160 世帯余りが入居し、田子西町内会が設立された。平成 27 年度は、田子西第二復興公営住宅への入居と集団移転用地への移住が開始され、平成 28 年 4 月、田子西こだま町内会、田子西中央町内会、田子西三丁目町内会が設立された。田子市民センターの管轄エリアは田子小学区 10 町内会、高砂小学区 4 町内会となった。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★ようこそ！田子市民センターへ		
参加者	どなたでも	延参加者	671 人
開催日	全 17 回 4 月 1 日（日）～3 月 3 日（日）		
協力者・協力団体	高砂第 1 地区民生委員児童委員協議会 宮城教育大学吹奏楽部		
ねらい	復興公営住宅町内会が 4 つ増えた田子地域では、センター事業を通して広範囲の地域住民の交流が芽生えつつある。年代、性別が異なるさまざまな住民を対象とする講座を開催し、より一層の交流を推進し、地域に対する愛着を深める。また、若者を対象とする夜間講座を開催することにより、その年代の住民が気軽に来館できるきっかけづくりとする。引っ越してきたばかりの住民が多い田子西各町内会の集会所では出前講座を開催し、町内会住民の交流の一助とする。		
概要・成果	ステップアップ卓球 4 回、夏休み親子工作など田子西出前講座 3 回、たごこん 5 回、コンサート 5 回（そのうち田子西出前 2 回）を開催した。卓球は講師となったサークルが、自分たちが市民センター事業で学んだことを新しく参加した住民に伝えることができ、学びの成果が還元され継承された。田子西出前講座は、今まで参加がなかった年代の住民も気軽に集えるものとなり、次年度も継続を求める声が上がった。地域住民からの要望で開催した「たごこん」は異業種交流の場となり、触発されて児童館で働くようになった参加者や、地域のまつり「たごっ子まつり」でボランティアとして活動するなど、地域で活躍する若い人材を発掘できた。コンサートは地域住民の各年代毎に音楽に親しみながら交流を深めることができ、特に子育てをしながらブラスバンド活動をしている団体のコンサートは子育てに奮闘している母親を励ますものとなった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
市民企画講座「子育て PARC（パルク）」～みんなニコニコ・ママにこにこ♪～	子育て中の親がリラックスできるヨガや子育てに役立つ講話、郷土の料理など企画会を経て託児付き講座を開催した。講座毎に受講生同士の交流会を持ちこれからの子育てを励まし、自信を持たせた。	9 月 13 日 10 月 11 日 11 月 22 日	3	53

たごっ子体験教室	仙台市環境共生課や天文台と共催し、身近な公園や小学校の校庭などで地元の自然に触れた。また地域の講師や企業から日本の伝統文化や食文化を学んだ。	7月27日～ 2月16日	11	232
インリーダー研修会	前半の講話では児童はゲーム考案、世話人は子ども会の現状と悩みの共有及び課題について話し合った。後半の実技では児童考案のゲームを参加者全員で体験した。	2月24日	1	28
複数年事業「田子今昔物語」	まち歩きをしながら、田子の地域資源である自然や歴史の魅力を探し出し、パンフレットにまとめた。田子地区の住民へ全戸配布した。今後は、地域の小学校授業などで、作成した成果物を活用する。	4月25日～ 2月16日	15	93
田子老壮大学	高齢期を健やかに過ごせるよう様々な学びを提供し、受講生同士の交流を深めた。講話（地震、震災体験を語る、ストレス、川柳、宮城野カルタ、コンサート）や実技（調理実習、健康麻雀、軽体操）を実施した。	5月9日～ 2月13日	10	424
みんなで学ぶ地域防災	講師に静岡市危機管理室職員を迎え、田子中学校と共催した防災講演会を開催した。また、高砂小学校児童も授業として参加した田子中学校区14町内会合同防災訓練を実施した。	9月7日 11月4日	2	3,338
たごっ子まつり	市民センターの利用団体や地域活動団体の活動成果を発表する機会を提供し、地域住民の交流と親睦を深め地域の活性化を図った。	2月16日	1	2,300
田子市民センター懇話会	地域団体や利用者等との懇談を通して、地域課題の把握や地域情報の収集、共有化を図り課題解決に向けた事業企画等に生かした。また運営への理解と市民参画の促進へつなげた。	5月25日 7月14日 3月2日	3	50
市民企画講座「子育てPARC（パルク）」	田子児童館・子育て支援クラブと共催した結果、企画員が子育ての実情を幅広く意見交換できたので、子育て中の親がリラックスできる講座「みんなニコニコ・ママにこにこ♪」を企画開催できた。	4月24日～ 2月7日	8	25

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

絵手紙サークル「たご」への活動支援

絵手紙サークル「たご」は、平成29年度に実施した複数年事業「田子のきずなステーション」の参加者により平成29年12月に結成された。市民センターは学習成果発表の場として、地域のまつり「たごっ子まつり」で体験もできるブースを用意し、地域住民に活動を広報した。その結果、田子西復興公営住宅4町内会からの会員も増えている。

また、近隣小学校の夏休みの講座でも小学生と絵手紙を楽しむ機会を設けて、サークルのボランティア活動を後押ししている。

福室市民センター

〔沿革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「福室 100 景いいトコみつ隊」		
参加者	成人	延参加者	164 人
開催日	全 15 回 7 月 11 日(水)～3 月 6 日(水)		
協力団体	高砂おたから探訪の会		
ねらい	福室地区の「いいところ」を、名所、四季の風景、自然、お店、七北田川、鳥や花などを取材して見つけ出し冊子を作成する。地域の様々なことを調べ冊子にして紹介することによって、地域を知り、より深く理解する機会とし、地域の人へ伝えていく。		
概要・成果	「福室の魅力の見つけ方」や「地域をもっと知るためのコツ」について学び、話し合いをし、グループに分かれての取材、写真撮影をして地域のいいところを紹介する冊子を作成した。 写真や地域の自然に詳しい人材が見つかり、また老人クラブの写真部のメンバー、地域のことをもっと知りたいという人なども参加してフレッシュな目で地域のことを紹介する冊子ができた。 「100 景」にどの場所、どの写真を選ぶかを受講生同士で何回も話し合うことによって、地域についての情報交換と交流が図れた。作成した冊子は、近隣の小中学校、銀行、商店、希望者等に配布して活用してもらっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	児童向けの研修として、リーダー養成ゲーム、世話人向け研修として、講話「子ども会活動における世話人の役割」、児童・世話人合同でジュニアリーダーによるゲーム体験を行った。	2 月 2 日	1	60
地域で育む学びの芽	福室小 3 年生を対象に「ふくむろ歴史ウォーク」、福室小児童・世話人と地域住民を対象に「ベガ号による天体観測&ミニコンサート」、福室小・中野栄小 1 年生を対象に「昔あそび」、昔あそびスタッフによる反省会を開催した。	11 月 13 日～ 12 月 19 日	5	352
福室老壮大学	食・自然・認知症などに関する講話、音楽講座、軽運動、映画上映会、朗読劇、健康漫談、ギターアンサンブルのコンサートを開催した。	5 月 30 日～ 2 月 27 日	10	692

《宮城野区》

ふくむろ和みサロン	高齢のため市民センターに足が遠のいている方が気軽に参加できるサロンを、地域の集会所などを会場に、出花町内会（2回）、福室中央町内会（2回）、高砂東町内会（1回）、館内（1回）開催した。	4月26日～ 3月3日	6	412
だれでもサロン”まざらいん”	世代を問わず誰でも自由に参加し楽しみながら情報交換や交流ができるサロンとして開催した。①②ダーツを楽しもう！③講話と実技「あま酒づくりと発酵食品のお話し」④実技「ラダーゲッターとディスコンを楽しもう！」⑤「福室縁芸場」福室児童館の有志の特技、津軽三味線、演歌、舞踊、お茶っこ交流会を実施した。	7月13日～ 1月26日	5	163
思いやりネットワーク構築事業	高齢者、障害者等の要支援者の実態把握に努めると同時に、年配者でも活躍できる場面作りに取り組んだ。取組内容は、福室希望園、福室小学校の剪定除草作業、児童館での将棋指導であったが、剪定講座参加者や、市民センターだよりの広報を見て参加してくれた人もあり、ネットワークの広がりを感じた。	4月20日 6月23日 11月10日 2月21日	4	54
第14回福室市民センターまつり	地域住民・団体の交流と親睦を図ることを目的として、地域住民、サークル利用団体、地域の小中学校の日頃の学習成果の発表を行った。	11月3日	1	2,700
地域懇談会	市民センターの事業を紹介しながら、運営方法等について、地域内の町内会や学校・諸団体などと広く意見交換の場を持ち、事業に反映させた。平成30年度は新任の小学校校長と地域の顔合わせという意味も込めて実施した。	4月21日 2月14日	2	27
★ふくむろ防災塾2018	地域の諸団体、学校と連携して、地域全体の防災力の向上と地域防災リーダー等の人材育成のために「福室学区防災訓練」、防災に関する公開講座、親子で作るサバメシ作りなどを行った。	6月3日～ 12月15日	6	235
ふくむろ剪定サロン	地元の園芸会社社長に講師を依頼し、和気あいあいとした雰囲気の中で剪定の学習を進めることができた。講師からの現場での経験を生かしたアドバイスで、思い切って高木を短く剪定することができ、受講生にも参考になった。	6月2日～ 10月6日	5	51
市民企画会～地域の魅力発見～	地域の住民が企画員として、地域の魅力ある物や資源を洗い出して話し合い、事業を企画・運営した。勉強会として公開講座の「いしぶみでわかる郷土のむかし」を実施した。	4月5日～ 3月6日	18	246

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

福室児童館と連携しての地域団体への活動支援

地域が元気になる特効薬は子どもたち。児童館併設の強みを生かし、老人クラブの発表会を市民センターで行ってもらい、そこに将棋や「よさこい」発表といった場面を設け、子どもたちとの交流の場を演出した。また、福室小学校「おやじの会」主催の「ピザ作り」「もちつき」には、児童館の先生たちと市民センターが募集した中学生ボランティアが多数参加し、料理の合間の遊びの時間を盛り上げてくれた。結果として、老人クラブの皆さんが「グラウンドゴルフ」「将棋名人」といった児童館行事に参加してくれたり、デイキャンプという男手が必要な行事に「おやじの会」が参加してくれたり、互いに助け合う関係ができ上がっている。

若林区中央市民センター

〔沿革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日、若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。また平成 29 年には、若林区中央市民センター別棟が、南小泉児童館、社会福祉協議会、子育てふれあいプラザとの複合施設として移転・新築された。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座		
参加者	成人	延参加者	27 人
開催日	全 7 回 9 月 29 日（土）～12 月 1 日（土）		
協力者・協力団体	若林区中央市民センター（区拠点館）		
ねらい	パラリンピックの種目でもある「ボッチャ」は、障害の有無や年齢を問わず、誰でも楽しむことができることから、町内会、老人会への普及、運営の担い手が必要になってきている。平成29年度の講座「ユニバーサルスポーツ・ボッチャで交流」の受講生の方や関心のある方に対し、ルールや競技の進め方などを学ぶ機会を提供し、地域への普及と運営の担い手を育成する。		
概要・成果	ボッチャについての講話とコート作りや審判体験等を実施した。 講座が進むにつれて受講生からはボッチャのゲームを楽しみたいというだけでなく、スタッフとしてゲームに携わっていきたいという意識の変化が感じられた。受講生は少なかったが、そのせいか受講生同士が協力し合ってコートづくりや審判の仕方を学ぼうとしている積極的な姿勢が窺えた。 「ボッチャ若林区民大会」では、たくさんの参加者と大きな大会という緊張もあったが、運営スタッフとして活躍することができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
家庭教育講座	子育て中の保護者に子育てにゆとりを持って取り組んでもらうための機会として、「宮城県版親の学びのプログラム」を託児付きで実施した。	9 月 7 日 9 月 14 日	2	21
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーや世話人としての心構えや、会の運営の仕方についてのグループ発表、ジュニアリーダーによるゲームを体験し、リーダーとして人前に立つイメージをもつことができた。	2 月 2 日	1	50
ジュニアリーダーと遊ぼう	ワカチュウ子どもランドにコーナーを設け、ストラックアウト・輪投げ・紙コップロケットを行った。	9 月 22 日	1	98

《若林区》

若林調査隊	農産物・野草・歴史をテーマに3回開催した。参加児童数を少数に絞り込むことにより、講師との距離が近いものとなり、子どもたちの学習意欲の向上が見られた。	7月29日 3月2日 3月23日	3	22
防災博士に挑戦 2018	子ども達の防災適応能力を育むため年齢に応じて防災クイズ、防災バケツリレー、防災ダック、アツパくん体験等を実施した。繰り返し実施することで防災への意識、関心が高まった。	6月9日 10月20日 10月24日 3月7日	4	359
親子で食育！地域の食材を知ろう	地域で採れる食材を知り、伝統の食文化のお味噌の仕込みや仙台白菜についてなどの体験学習を実施した。	11月9日 11月22日 12月14日	3	31
南小泉老壮大学教養コース	文学・歴史・気象・古典芸能等、教養科目を中心に講座を開催した。年間を通じて出席率が高く学習意欲の向上が見られた。また運営委員会等で自主的な活動も示された。	4月18日～ 2月13日	11	789
南小泉老壮大学健康コース	健康づくり・暮らし・歴史・音楽などをテーマに講話と実技を実施した。軽体操やコンサートが特に好評を得た。毎回7割～9割程度の高い出席率で、学びを通して受講生同士の交流を深めた。	4月25日～ 2月27日	11	636
四季のコンサート	若林区文化センターと連携し、年間を通じて気軽に楽しめるコンサートを年度前半に2回開催した。出演者と聴衆の距離が近い和やかな音楽鑑賞の場を提供できた。	7月19日 8月29日	2	110
仙台七夕に願いを	仙台七夕についての講話と伝統の七つ飾りの作成を行った。また、折紙ボランティアによるワークショップを開催した。	6月7日～ 7月27日	8	71
●出前講座 地域交流講座「げんき倶楽部」	市民センターまでの距離や交通の便の悪さや高齢により来館することが難しい方に気軽に参加できる地域の大和会サロン、卸町ふれあいサロン、三百人三親会の集会所などへ出向き学習の機会を提供することを目的に実施した。	4月13日～ 3月14日	12	233
若林区中央市民センター学習発表フェスタ	実行委員会と連携し、ステージ発表と児童作品展示を実施した。ワカチュウ子どもランドと同時開催し、多くの来場者があった。	9月22日	1	450
若林区中央市民センター事業懇話会	地域住民や利用団体、さらに地域内の企業、各種団体を対象に情報交換を行い、地域課題の把握や情報の共有化を図り、市民センターの事業運営や企画事業に反映するための意見交換を実施した。	10月6日 3月6日	2	11
市民企画会議 食の安全を考える	「食の安全」をテーマに話し合いを行い、食文化や、地域で採れる食材について学ぶことができる講座を実施した。市民企画員は、企画のほか、講座当日の運営についても役割分担して行った。	6月22日～ 3月20日	9	24
ステップアップ！読み聞かせ	区内で読み聞かせを行っているボランティアを対象に、高齢者向けの読み聞かせに関する講座を実施した。個々のボランティアのスキルアップにつながり、最後に受講生による出前講座を行い、成果を発表した。	7月10日～ 10月5日	5	47

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域防災訓練での講師の紹介

地域の防災訓練で生徒対象の防災学習の講師として、防災団体を紹介した。南小泉中学校区防災訓練の中で、女性防災リーダーネットワークのメンバーが、中学生に対し「身近な地域における災害時の対応や注意について」実技や写真をまじえながらお話をした。防災リーダーにとっても次世代を担う中学生に防災・減災について伝えられたことは意義のあることであった。

七郷市民センター

〔沿革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年には「七郷市民センター」と改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、七郷証明発行センターも併設された。

近年、七郷地区は、復興公営住宅や防災集団移転を含め土地区画整理事業が進展し、地下鉄東西線開業も相まって新しいまち並みが形成されており、今後のまちづくりに向けた市民センターが果たす役割は大きくなっている。区役所はじめ諸機関、地域団体との連携を深め、新旧住民がつながりを築き共に支え合うまちづくり、文化づくりを推進できるよう、組織的に事業を推進している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域情報紙作成講座「七郷タウン情報紙をつくろう！」		
参加者	どなたでも	延参加者	70 人
開催日	全 24 回 7 月 19 日(木) ～ 3 月 19 日(火)		
協力者・協力団体	七郷小学校社会学級、若林区中央市民センター		
ねらい	七郷地区はもともと農村地帯で昔から地域の絆の強い地域であったが、土地区画整理事業の進展や東日本大震災からの復興、地下鉄東西線の開業等により地域が大きく変容し、人口も急増、既存の組織に加わらない住民も増えてきている。市民センターでは事業のお知らせとともに七郷の特色や継承してほしい事物、日々移り替わる新しい地域情報も発信しているが、すべてを網羅しているわけではない。また、多くは町内会を通して発信しており、加入していない住民には十分届いていない状況である。さらに、地域ではいろいろな団体が「地域づくり」に取り組んでいるが、その情報も共有されていないところも見られる。そこで、広く地域住民に情報を発信するため情報紙づくりを通し、各団体の持つ情報の共有、新しい情報の収集を図り、地域で主体的に活躍する「人づくり」につなげる。		
概要・成果	平成 30 年度は、地域内の公園情報と講座参加者のおすすめ情報（飲食店・桜の開花・施設等）をマップとしてまとめ、創刊号として平成 31 年 3 月に「七郷おさんぽ MAP—teku×teku」を発行した。編集会議では情報紙の内容について様々な意見が出されたが、講座参加者自らが地域の方々の意見をリサーチするなど、今必要とされている情報は何かをよく考えながら決定できた。また、公園やおすすめ情報の取材方法、さらには表紙やキャラクターのデザイン、情報紙タイトル等についても、編集会議において意見を出し合いながらそれぞれの担当を決め、積極的に作業に取り組むことができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子育て交流講座 「ママ友つくって毎日ハッピー」	母親同士の情報交換、仲間づくりの場を提供した。家庭健康課職員のお話と交流会、ちびっこ運動会、小物づくり、親子ストレッチなど。リピーターが多く子育て講座として定着しつつある。	5 月 22 日～ 2 月 5 日	13	215
「七郷学びの応援隊」 企画講座「荒川知子とファミリーアンサンブル」～表現することは生きること～	講演では、ファミリーアンサンブルを始めたきっかけや表現することの大切さを教えていただいた。参加者に障害や特別支援、インクルーシブへの理解を深める場を提供するとともに、社会学級の活動を支援した。	11 月 3 日	1	38

●七郷子どもクラブ	ペットボトルロケットをつくって飛ばそう、防災キャンプ、スイカ割り、サークル体験会、工場見学、かるた大会。子どもの健やかな育ちを支援するため、授業以外の様々な体験を通して仲間づくりや異年齢交流の機会を提供した。	6月9日～ 1月26日	6	387
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人が、プログラム作り、レクリエーションゲームの進め方等子ども会運営の知識や活動に役立つ技能を学んだ。	2月16日	1	60
楽しくまなぼう！ ぼうさい講座	「気象実験とペットボトル空気砲を作ろう！」と題し、小学生対象の防災講座を開催した。実験やゲームを盛り込むことで、楽しく防災意識を高めることができた。児童館と共催することで、市民センター事業への理解を深めることができた。	8月3日～ 8月9日	3	51
七郷老壮大学	現代的課題を踏まえたテーマの講話や実技、運営委員会企画講座等を実施した。交流・親睦を通して受講者間のつながり・顔の見える関係を深めた。	4月11日～ 3月13日	12	868
七郷学びの応援隊	管内小学校社会学級と連携し、地域住民の視点でニーズを反映させた講座を企画・実施した。ファミリーアンサンブルコンサートの開催、荒浜地区の伝統料理を後世に継承するレシピづくりを行った。	6月21日～ 2月20日	6	49
★◎わたしのまち七郷	歴史や町並み、営まれてきた暮らしをまとめ、記録として継承できるよう小冊子を完成させた。今後も、地域の変化を継続的に記録し、次世代につないでいけるよう、市民センターとしての取り組み方を検討していく。	4月18日～ 2月27日	11	100
七郷市民まつり	新旧住民の交流の場とし、また、市民センターの利用団体や、各種サークル活動をしているグループなどに、学習成果の発表の場を提供した。農産物の即売・模擬店、演芸発表、作品展示、保健センターまつり、児童館まつり等の内容で実施した。	11月18日	1	13,453
交流ひろば	地域住民に気軽に足を運んでもらえる場を提供した。ニュースポーツ教室、将棋大会、健康マージャン、センター利用団体のジョイントコンサート等、住民同士のふれあう場づくりをすることで、新旧住民の顔の見える関係づくりを推進した。	8月3日～ 8月9日	5	309
七郷地域懇話会	市民センター事業の方向性と概要を説明するとともに、地域の動向と各町内会の現況・課題を共有する場として町内会長との懇話会を開催した。また、市民センター利用説明会兼利用者懇話会を開催し、利用についての理解を深めた。	2月1日 2月2日	2	33

〔平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

★七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜（さとま）」の活動支援

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」は、平成 25 年度から 3 年に渡り実施した事業「未来への伝言ー七郷を語り継ぐ」の参加者により平成 27 年 12 月に結成された。活動は 4 年目を迎え、七郷の歴史や伝統・風土、東日本大震災の記憶を後世に語り継ぐボランティアとして、全国各地から荒浜を訪れる方々に震災のことを伝えたり、七郷の見どころを案内したりする活動を行っている。市民センターでは、せんだい 3.11 メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校と連携し、震災学習に訪れた団体に紹介を行うなど、ボランティアの活動を後押ししている。

荒町市民センター

〔沿革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの老舗街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	“こども相撲荒町場所”応援隊		
参加者	地域諸団体および住民	延参加者	244 人
開催日	全 9 回 5 月 31 日（木）～10 月 25 日（木）		
協力者・協力団体	荒町学区民体育振興会、婦人防火クラブ、荒町大好きクラブ、西多賀手話同好会、フェスティバル実行委員会		
ねらい	平成 29 年度に実施した「こども相撲荒町場所」を地域行事として定着させるため、個人や諸団体の連携を強化しつつ体制づくりを構築し実施する。		
概要・成果	地域団体と共に応援隊を組織し、昨年度の開催経験を活かし話し合いを重ねたことで運営体制の基礎が出来上がった。プレ講座や事前学習会「相撲は楽しい！」の開催を通して各協力団体の連携が深まり、より交流が図られスムーズに運ぶようになった。参加の子ども達の様子を間近で見ることで今後も“こども相撲荒町場所”を継続したいという気持ちを、参加者・地域の方々・スタッフで醸成することができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
地域で！みんなで！ 「家族で防災！」	異常気象といわれる風雨に関わる大災害発生メカニズム等についての講話や実験・工作等を行い、そこから防災にどのように活かしていくかを大人も子供も一緒に学んだ。	2 月 16 日	1	22
仙台市子ども会イン リーダー研修会	子ども会の児童と世話人を対象に、それぞれ分かれて研修を行った。子どもはプログラムの作成を行い世話人は、情報交換等を行った。合流後のゲーム研修では、世話人と児童が共に参加した。	2 月 9 日	1	73
男子専科 ～生まれミドル世代	男性の居場所作りのきっかけとなる内容で開催できた。蕎麦打ち講座では、自主サークル化を目指し継続的に活動することが決定した。居場所づくりに発展するよう引き続きサポートしていく。	1 月 19 日 1 月 26 日 2 月 3 日 2 月 17 日	4	32
あらまち町民大学シ ルバーセミナー	高齢者の学習と交流の場として、音楽鑑賞や健康講話等幅広い分野で実施した。受講生からアンケートをとって意見要望を聞き運営委員と検討しながら運営した。	4 月 18 日～ 3 月 6 日	11	720

七夕かざりをつくろう	大竿物 5 本の飾り作りを復活させ、また平成 29 年度同様の小さい飾りも作ったため手間と時間が非常にかかったが、参加者全員がエコについて学びながら協力して素晴らしい作品を作成できた。	6 月 28 日～ 8 月 2 日	6	74
市民企画講座 「夢のパンをつくろう！ベーカリー・くうパン」	企画会議で考えたレシピのパンを、地域の方を講師に迎えて小学生や小学生親子が作った。レシピ作りで工夫した点等を企画員が保護者や地域の方へ発表し参加者同士の交流を図った。	2 月 2 日	1	25
◎地域力創造支援事業「みんなの荒町公園」活性化事業	平成 30 年度は実行委員会を立ち上げ、荒町公園に関連する公園の美化運動・花壇の整備・落ち葉清掃と焼き芋大会他 5 事業を行い、地域の魅力の再発見ができた。次年度も地域課題に対して行動するきっかけとなる事業を実行委員とともに進めていく。	6 月 30 日～ 3 月 26 日	18	263
荒町市民センター・児童館フェスティバル	地域住民及び市民センター利用団体、小・中学校児童生徒によるステージ発表、作品展示発表、こども相撲荒町場所、体験コーナー、荒町商店街出店、児童館催事等を行った。着実に発表の場・交流の場として定着してきている。また、高齢者と若者、利用者同士が直接触れ合える交流の機会になった。	10 月 6 日 10 月 7 日	2	4,600
荒町市民センター地域懇談会	1 回目は平成 29 年度事業の報告や今年度事業の紹介をし、意見要望を伺いながら地域情報の交換をした、2 回目は子どもの安全安心を共通の課題に持つ近隣の市民センターと共催して、情報交換をした。	5 月 31 日 1 月 24 日	2	31
市民企画会議 「やってみよう！こども大作戦」	地域の食材を使つてのパンのレシピを考え、子ども達も大人も楽しんで参加できるパン作りの講座を企画した。広報・試作・反省会も行った。	1 月 8 日～ 2 月 2 日	6	27
図書ボランティア養成講座	利用者が今以上に図書にもっと親しみながら図書室の良さを再認識してもらえるよう、活躍できるボランティアを講話や実技で養成した。	11 月 7 日～ 12 月 12 日	5	26

【平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「みんなで太極拳」サークルの活動支援

「みんなで太極拳」サークルは、地域力創造支援事業「荒町公園活性化事業」の講座から活動を継続したいという受講生で結成された。活動内容は太極拳の実践であるが、地域に深く関心を寄せながら活動を進めており会員数も増えている。市民センターとしては、活動継続に向けての手続き・運営についての支援や、太極拳の練習の場として荒町公園を活用するなど地域への関心を維持できるよう助言した。また、公園愛護協力会にあじさいの剪定ボランティアとして仲介したり、市民センター・児童館フェスティバルにも発表の場を提供したり、活動が地域全体に広まるようコーディネートしている。

六郷市民センター

〔沿革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産等に恵まれていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。また平成 29 年 3 月末には東六郷小学校が六郷小学校と統合し閉校となった。

現在、六郷地区の再スタートということで、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しながら、地域を支えられる人材育成の推進と新たな地域の活性化に努めている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★六郷交流サロン おじゃまします、市民センターです		
参加者	地域住民他どなたでも	延参加者	88 人
開催日	全 6 回 7 月 20 日（金）～1 月 25 日（金）		
協力者・協力団体	六郷市民センター利用サークル等		
ねらい	東日本大震災から 7 年が経過し、被災者の住宅移転もほぼ終了して新しい生活が始まっている。新たな場所での入居者同士の交流や六郷地域の方々との交流を図る場を提供することで、地域住民の孤立化を防ぐ一助とする。		
概要・成果	六郷市民センターを拠点に活動しているサークルの体験会や六郷市民センターの主催事業を、復興公営住宅や集団移転地の集会所に出前開催することで、参加しやすい環境を作った。新しい出会いや被災住民同士が再会する機会になることもあり、どの回も会話や笑顔の絶えないサロンとなった。これをきっかけにサークルに加入した方や、新たなサークル設立への動きも見られた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●わくわく食育クッキング	対象は幼児親子または小学生親子。参加者は主に調理実習を通してバランスの良い食事について学び、家庭での応用への意欲が見られた。民児協に託児や調理補助を依頼し、異世代間交流の場となった。	6 月 27 日 10 月 6 日 12 月 12 日 12 月 20 日	4	65
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる小学生児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割を学んだり、レクリエーションゲーム等の技術を習得する研修会を開催した。	2 月 16 日	1	31
中高生の六郷クラブ	仙台東高校マジック部、英語海外文化部や、六郷中学校バスケットボール部の部活動体験会、「ジュニアリーダーと遊ぼう」を開催し、小学生や地域の方と世代間交流の場になった。	7 月 14 日～ 11 月 4 日	5	178
●六郷あすなろ大学	歴史や健康関連、交通安全などの講話やコンサートの開催、運営委員自主企画の講座を実施し、受講生同士の交流と親睦を深めた。	5 月 17 日～ 3 月 7 日	10	557

六郷お月見会	読み聞かせ会、天体の学習会、工作、茶道のコーナーをグループに分かれて巡る形で開催した。伝統文化を通じた地域交流の場となった。	9月21日	1	27
●六郷地域防災事業	住民主体の地域防災訓練に向け、地区全体で準備を進め、9月1日に実施し、1549名が参加した。研修会では、当地域のハザードマップの見方と避難行動及び雨水処理事業の現状について理解を深めることができた。	6月7日～ 2月15日	6	1,724
社会学級連携会議	休止していた社会学級との連携1年目。地域情報を交換しつつ、お互いの利点を活かしながら地域課題の把握・解決に向けて取り組んだ。事業企画・役割分担もスムーズであった。次年度も継続していきたい。	4月20日 7月6日 9月27日 2月26日	4	16
★ここ・そこ・どこでも六郷ふるさと音頭	六郷ふるさと音頭の踊り・歌唱・歌詞解説を町内会や小学校の授業への出前などで実施した。歌詞を町内会回覧などで発信し、町内会の夏祭りに取り上げられ、多くの人の関心を集めた。	7月7日～ 11月4日	10	497
●★六郷市民まつり	町内会長や地域団体の長を実行委員に、ステージ発表、作品展示、出店、児童館コーナー、保健センターコーナー、防災・交通安全コーナー等を設け、日ごろの学習成果の発表の場とした。	11月4日	1	5,310
★市民企画講座「来てけさいん♪六郷東部夏祭り」	「わたしのふるさとプロジェクト」が実施した。六郷東部地域に関わりのある人々が集い、旧交を温めることができた。祭りの様子はマスコミにも取り上げられるなど、注目が集まった。	8月18日	1	350
★市民企画会「わたしのふるさとプロジェクト」	六郷東部地域の賑わい再生と住民交流の活性化を目指して2つの企画（夏祭り・花火）を実施することができた。町内会への浸透も進んできた。	4月18日～ 3月20日	17	230
「なつかしい昭和昔を語る会」～若林区六郷地区～	昭和20～40年代の六郷地区等の映像視聴、その当時の生活用具に触れる機会や股旅演歌歌謡ショー鑑賞等を通して、参加者は地域への思いを深めることができた。	7月24日 8月29日 9月26日	3	114
うたごえ喫茶 in ROKU・GO! ♪女声コーラスと共に♪	第1部うたごえ喫茶、第2部地域の女声コーラスミニコンサートの組立で実施した。参加者がみな60歳以上であったが、みんなで一緒に歌うことが楽しかったと大好評だった。	1月26日	1	64
★市民企画講座「ふるさにとどう鎮魂の花火」	「わたしのふるさとプロジェクト」が実施した。花火打上げ資金はすべて募金で賄われた。六郷東部地域の人々が再会を喜び合うとともに震災で亡くなった方々への鎮魂の思いを深めた。	1月26日	1	200
市民センター・児童館合同運営懇談会	市民センター運営について町内会や利用団体から忌憚のない意見を伺い、施設設備やサービスの改善に生かした。	6月7日 2月2日	2	25

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

★六郷東部地域の「にぎわい再生」活動支援

市民センターでは、東日本大震災によって甚大な被害を受けた六郷東部地区のにぎわい再生に資するための活動支援に力を入れてきた。具体的には、当地域のかつての美しい風景が歌詞に織り込まれた「六郷ふるさと音頭」を町内会の盆踊りのレパートリーとして取り入れていただくために踊りの講師の紹介や、震災学習及び六郷小との交流を希望する県外の小学校からの依頼に対するコーディネート、NPO法人冒険あそび場との連携を図り、海岸公園での記念植樹などの体験学習の支援を行った。

また、復興公営住宅自治会と行政や地域の諸団体をつなぐ取組みも、年間を通して積極的に行ってきた。

若林市民センター

〔沿革〕

若林市民センターは、平成 3 年 4 月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★●防災講座「みんなで守ろう！若林」		
参加者	若林小学校児童及び地域の諸団体・地域住民	延参加者	201 人
開催日	全 4 回 6 月 26 日（火）、7 月 10 日（火）、7 月 19 日（木）（2 回）		
協力者・協力団体	若林小学校・若林小学校 P T A・若林地区町内連合会・若林西せせらぎ会・若林地区社会福祉協議会・民生委員児童委員連絡協議会・日赤奉仕団・若林消防団南材分団・若林地区婦人防火クラブ連合支部・若林区民生活課・若林区中央市民センター 古城小学校・古城小学校 P T A		
ねらい	当館の担当地域には、長町・利府断層による直下型地震や、広瀬川による洪水、低地の内水浸等の災害被害が懸念される地域がある。本講座は、町内会や小学校、P T A などと連携し、小学生やその保護者を対象に受講者一人一人の防災・減災意識の醸成を図るとともに、自助・共助の必要性を認識し、地域の災害対応力を高めることを目的とする。		
概要・成果	防災講座「みんなで守ろう！若林」では、若林地区町内連合会、若林小学校近隣の各町内会や社会福祉協議会、婦人防火クラブ、若林消防団南材分団などのご協力をいただき、若林小学校 P T A の 5 学年行事として、防災ゲーム（クロスロード）を実施した。地域の方々には、事前研修を受けてもらい、本番では、各班の進行役と書記としてゲームを支えてもらった。 古城小学校では、5 学年の P T A の役員が中心となり、若林小学校と同様に、事前研修の後、各班の進行役と書記として、ゲームを支え、防災ゲーム（クロスロード）を実施した。 防災ゲームに取り組み、自助・共助による防災・減災対策の必要性に気づくとともに、一人ひとりの意見を尊重し考えを述べ合い、参加者同士様々な考えがあるということを理解することができた。市民センターが地域の諸団体の連絡調整を行い、地域全体で防災に取り組む意識の醸成につながった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ママのすっきりタイム	託児付講座。母親たちの育児ストレスの解消や行政、児童館と連携して地域における子育て環境の充実を図った。子育て相談、手作り、軽運動等。	6 月 13 日 6 月 27 日 7 月 11 日	3	28
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会についての知識や技能を研修することで、次年度のリーダーを育成し活動の充実と活性化を図った。	2 月 2 日	1	54
わかばやしチャレンジクラブ	講座に集った他校の子ども達と交流を図りつつ、気象実験、プログラミング、書道、ニュースポーツ等新たな物事にチャレンジすることで、能動的に行動する力を身につける一助となった。	7 月 14 日 12 月 8 日 12 月 22 日 3 月 2 日	4	73

《若林区》

四季を感じる広瀬川	広瀬川で四季それぞれにみられる生物を親子で一緒に観察し、学ぶ機会を提供した。魚・虫・鳥の観察会等。	6月16日 6月23日 9月15日 2月9日	4	77
若林小学校連携事業 「若林地域探検！」	小学生を対象に講話・校外学習・ブックトークを行い、地元の歴史や地理を学習・体験する機会を設け、地域に興味を持ち愛着を深める機会を提供した。	11月13日 11月21日 11月30日	3	132
古城小学校連携事業 「仙台まち再発見」	小学生が体験学習をとおして、地域の歴史や魅力を学ぶ機会を提供した。興味・関心のある場所を訪問し、地域への愛着と理解を深めた。	9月14日 9月21日 10月29日	3	147
わかばやし出前講座	コミュニティ・センター等で、ヨガ、川柳、健康講座等の出前講座を開催した。受講生の中には、サークルに興味を持ち入会し、継続した学びにつながった方もいた。	5月30日 11月28日 12月12日	3	41
若林ウィメンズオープンカフェ～見つけよう！煌めく私のセカンドステージ～	女性を対象にして、各自の生きがいがいづくりと人材の育成を目指して、新たな仲間づくりの場を提供した。ヨガ体験、手作り、アンガーマネジメント、交流会等。	9月29日～ 2月23日	5	28
若林老壮大学	歴史、音楽、健康について等様々な分野の学習プログラムを提供し、高齢者が健康で充実した生活を送ることが出来る環境作りを目指した。	4月13日～ 3月1日	11	748
若林ふれあいまつり	若林地区住民の“ふれあいの場”として、また、若林市民センター利用サークル・団体などの“学習成果発表の場”として作品展示、ステージ発表等を行い、また、出店コーナー、地域安全催事、児童館あそびひろば等を設け、地域住民が楽しみながら交流できる場となった。まつり開催に向けて地域住民が協力し、地域コミュニティの充実が図られた。	9月2日	1	1,200
わかばやし気軽にコンサート	様々なジャンルの音楽を提供することで市民センターに足を運んでもらう機会を増やし、音楽をとおして地域住民が交流を深めるきっかけづくりをした。	6月30日 10月6日 12月16日 3月9日	4	161
地域懇話会	地域で活動している諸団体に市民センターの活動状況等を紹介し、理解を深めていただくとともに、市民センターの事業や講座、施設利用等に関する意見等を把握し、今後の市民センター運営の参考とした。	2月6日 2月14日	2	32
市民参画型講座「仙台的今・むかし」	平成29年度に作成した「若林の50年　そして今」を使い、企画員である「若歴会」を講師として講座を開催した。他2講座の企画運営、定例会、史跡見学会を開催した。	4月26日～ 2月28日	10	120

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ジュニアリーダー「若林にゃくりん」の活動支援

市民センターでは、月1回の定例会を開くなど、ジュニアリーダーの育成に努めている。定例会では、要請確認の他に、空いた時間があればメンバー自身がジュニアリーダーに対してどのような思いを持っているかなどを聞き、活動が円滑に進められるよう心掛けた。また、ジュニアリーダーの活動を子ども会へ紹介し、子ども会行事の一部をジュニアリーダーが担当するなど、相互交流活動を取り入れ、ジュニアリーダー活躍の場を広げている。

ジュニアリーダー自身も積極的に学校で校内放送をしたり、口コミでジュニアリーダー活動の楽しさを伝えたりした結果、新規メンバー加入へとつながった。また、内部研修を開催し、若林にゃくりんメンバー同士、ゲームや調理を通して交流を深めた。

沖野市民センター

〔沿革〕

沖野市民センターは、平成3年4月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、また自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	お父さん出番です！		
参加者	沖野地区の小学生、保護者	延参加者	216人
開催日	全3回 11月18日（日）、12月2日（日）、2月17日（日）		
協力者・協力団体	沖父ちゃん会（沖野東小学校おやじの会）、親兄の会（沖野小学校おやじの会）、若林区中央市民センター		
ねらい	おやじの会と連携し、協働で学校を越えた地域の子ども同士が楽しく交流する講座を企画運営する。違う学校の子ども同士が交流することで中学校へ上がった時にスムーズに学校に馴染めるようになったり、親子間のコミュニケーションの充実のきっかけ作りとして、沖野ならではの恒例行事に育てていく。		
概要・成果	こども相撲、小学校対抗ドッジボール大会、ミニ四駆大会を行った。 2校の小学校の児童が競い合い、交流することができた。勝ち負けがあることで、勝つためには協力することが大切だと学ぶことができた。また、親子が一緒になって楽しむことができ、親子間のコミュニケーションの充実を図ることができた。		

〔平成30年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●笑顔で子育て	沖野児童館と共催し、0歳児とその母親向けに子育てについての講話と育児相談、工作、離乳食講座、ベビー&ママヨガを行った。	8月28日 9月20日 10月23日 11月20日	4	100
インリーダー研修会	次年度子ども会のリーダーとなる小学5年生とその保護者に対して、子ども会活動についての講話、子ども会の世話人の役割についての講話、プログラムの組み方、ゲームの進め方の実習を行った。	2月9日	1	38
ちびっこチャレンジ	小学生とその保護者を対象にマジックショー、エネルギー環境の勉強とセグウェイ試乗、親子クッキングを行った。	8月25日 10月6日 12月8日	3	46

《若林区》

ジュニアリーダーと遊ぶ	沖野東小学校行事の夏祭りにおいてジュニアリーダーコーナーを設け、ジュニアリーダーと地域の住民が交流した。	7月28日	1	80
おきの学園～学びのスクール～	地域の小・中学生を対象に茶道、食育講座、ニュースポーツ、スイーツ作り、オリジナルTシャツ作り、日本舞踊、生け花体験を行った。	7月26日	7	144
伝えよう 仙台伝統七夕	仙台的伝統行事である七夕飾りを子ども達に継承していくために、老人クラブが講師となり、沖野小学校、沖野東小学校で仙台伝統七夕の作り方を指導した。	6月15日 6月22日 7月3日 7月4日	4	209
沖野耕友大学	60歳以上の方を対象に、いきいきとした生活を送ってもらえるよう、合唱、ニュースポーツ「ボッチャ」、歴史講座、科学講座、生きがい講座、公開講座、生活講座、マジックショー、学園祭、映画鑑賞、介護予防講座、演芸ショー他を実施した。	5月～3月	11	868
沖野地区総合防災訓練～若い力で地域を守る～	中学生と地域の大人が力を合わせて、防災無線送受信訓練、心肺蘇生法、AED実技、エコノミークラス症候群予防体操、高齢者疑似体験、車椅子の扱い方について学んだ。	10月12日 10月20日	2	186
社会学級との事業企画検討会	二つの小学校の社会学級の方々と地域の課題について話し合い、講座「沖野の歴史をみんなで歩こう」を企画した。	5月18日 7月10日 8月3日 8月28日	4	16
沖野地区市民まつり	地域のコミュニティの拠点施設として、住民相互の融和、連携を促し、地域の活性化を目的に開催した。ステージ発表、展示発表、模擬店、フリーマーケット、消防コーナー、児童館コーナー、老人福祉センターコーナー、地域包括支援センターコーナー他。	11月2日 11月3日	2	8,300
沖野地区懇話会	地域住民との懸案事項の共有や情報交換、意見交換を行い、市民センターと児童館の事業説明等を行った。	8月31日 12月1日	2	32
市民企画事業 折り紙ボランティア養成講座	折り紙の折り方の基礎編の学習と、デイサービスにてボランティア体験を行った。また、体験後には学びの振り返りと茶話会を行った。	11月～2月	5	76
沖野の歴史をみんなで歩こう	社会学級の企画員との事業検討会で企画した講座。清涼寺、沖野城跡、沖野八幡神社等の地域にある史跡を訪ね歩き、地域講師による講話を実施した。	9月19日	1	16

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

親父の会と老人福祉施設のコーディネートで生まれた地域の駄菓子屋・子ども食堂

おやじの会のメンバーから、地域の子どもの交流の場として駄菓子屋を開きたいという相談があった。また、地域懇話会において老人福祉施設長から子ども達が来館できるようにしたいという構想があるとの発言があった。このことから両者をコーディネートしたところ、老人福祉施設内に駄菓子屋が開店し、子どもと施設入所者が触れ合うようになった。さらにこのことが子ども食堂開設への動きにつながり、現在は地域住民のボランティアにより、月1回子ども食堂も開かれている。

太白区中央市民センター

〔沿革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、長町児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れた立地のため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、さらに復興公営住宅の完成や仙台市立病院の開院等、これまでも増して多くの滞在人口がのぞめる地域となってきた。当市民センターではこうした状況を踏まえて、地域コミュニティの活性化にも積極的に取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★バリアフリーな街 長町		
参加者	成人	延参加者	31 人
開催日	全 2 回 10 月 4 日(木)～10 月 17 日(水)		
協力者・協力団体	C I L たすけっと、長町地域包括支援センター		
ねらい	安全・安心な街づくりを考えることを重視し、防災・減災に主眼を置いて地域で高齢者・障害者といった災害弱者（要支援者）への支援や住民同士の助け合いについて考える。		
概要・成果	災害時における要支援者への対応、防災の備えについてのグループワーク、地域の商業施設で災害時における防災設備の施設見学を行なった。 災害時における要支援者への対応や支援を円滑に行うためには、要支援者が状況に応じ支援する側としても積極的に関わる取組みが大切であることが学べ、各々の防災に対する備えや考えを確認し合い共有することができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割を学び、レクリエーションゲーム等の実践研修を実施した。	2 月 3 日	1	80
ジュニアリーダーと遊ぶ	紙コップを利用した工作、ゲーム・もぐらたたき等を実施し、ジュニアリーダーと触れ合う機会とした。	7 月 26 日 10 月 27 日	2	253
太白区中央老壮大学校いきいき健康コース	健康作りを主とした多種多様な内容について講話や実技を通して学んだ。学習に対する意欲も高く、共に学び合い、健康で心身豊かな生きがいのある生活が送れる一助とした。	5 月 10 日～ 2 月 1 日	9	568

太白区中央老壮大学 校せいかつ教養コース	歴史や健康等を含め、教養が高まる多様な分野について学習した。意欲的に学習に取り組む姿も見られた。受講生からは更なる、生活に活かせる学習内容について望む声も寄せられた。	5月18日～ 2月8日	9	611
太白区中央老壮大学 校ふるさと文化コース	歴史・文学等に特化した老壮大学の1コースとして、既習の知識をさらに深め、学習を通して心身の健康を育むことができた。受講生からは、歴史・文学以外の学習機会も求められている。	5月25日～ 2月15日	9	631
ひと・まち賑わい七夕 づくり	仙台伝統七夕飾り製作を、気軽に参加できるサロン形式で開催した。新規メンバーが加入するなど地域ボランティア活動の活性化に繋がった。完成した七夕飾りは室内に2週間程飾り、多くの方々に鑑賞して頂いた。	6月5日～ 8月9日	9	100
太中ふれあいサロン	タッピングタッチ、折り紙、軽体操等の体験会と茶話会を組み合わせ実施し、地域住民が気軽に参加できる交流の場となった。出前講座も開催し、誰もが参加しやすい環境作りに努めた。	5月17日～ 2月21日	7	105
太白区中央市民セン ターまつりながまち 交流フェスタ 2018	地域サークル、団体による作品展示や舞台発表、地域商店街や中学生による出店、お化け屋敷や各種体験コーナーを開催した。6300人の来館者で賑わった。	10月27日	1	6,305
太白区中央市民セン ター事業懇話会	「学校・商店街・町内会等の関係者」「諸団体・サークル団体等の代表」との懇話会を開催。市民センター事業・運営等に関する要望、地域情報・課題等について意見交換を行った。	6月27日 11月14日	2	26
市民企画会議「きらり ん長町」	高校生・大学生が企画員となり、若者ならではの活発な意見交換が行われた。企画講座にも若者ならではのアイデアが活き、企画員のチームワークの良さが随所に見られた。	8月10日～ 12月8日	8	42
市民企画講座「スマホ でフォトテクニック」	スマホの撮影機能や夜間撮影のテクニックを学んだあと、屋外での撮影会を行った。事前学習と実践学習で丁寧に学び、学習成果をその場で実感できる満足度の高い内容を実施できた。	12月1日	1	9

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「仙台七夕作り応援隊」の活動支援

「仙台七夕作り応援隊」は、仙台七夕まつりの伝統継承と地域活性を目的にボランティア養成講座から立ち上がった団体である。通常の活動日の他、日ごろから自己研鑽に励み、太白区文化センターのミニギャラリーでの作品展示も行っている。

平成30年度は、講座「ひと・まち賑わい七夕づくり」において、受講者の方に「折り紙の折り方」「七つ道具の付け方」などを指導する講座サポーターとして、和気あいあいとした雰囲気づくりに一役買っていた。サークル会員の高齢化により、会員減少・活動範囲の狭小などの課題もあり、市民センターでは、新規メンバーの加入・活動の活性化につながる支援を引き続き行っていく。

生出市民センター

〔沿革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行ってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。

平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	◎ホテルの里・坪沼プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	707 人
開催日	全 14 回 4 月 22 日(日)～3 月 20 日(水)		
協力者・協力団体	ふる里坪沼実行委員会、北町内会、中沖町内会、板橋町内会、根添町内会、生出小学校		
ねらい	自然豊かな坪沼地区においては、以前から「蛸」を地域資源として活用してきた。しかし近年では、道路整備や生活環境の変化、異常気象などの様々な理由により自生の蛸は減少してきている。本事業ではその「蛸」について、地域住民が自ら学び、保全する活動を通して世代間交流を図りながら、環境を守ることの大切さなどを次世代へと継承していくことをねらいとする。		
概要・成果	平成 29 年度に坪沼地区内 4 町内会の会長を中心として発足した「ホテルの里・坪沼プロジェクト実行委員会」を中心として、坪沼地区に 2 ヶ所のホテルハウスを施工するなど、蛸の生息地整備に力を入れた。3 月には、完成したホテルハウスにおいて、総合学習の一環として生出小学校 3 年生児童が放流会に参加し、地域住民との世代間交流を図ることができた。 また、6 月に開催した蛸観察会には、地域内外より約 560 名という多くの参加者が訪れ、ホテルの里・坪沼の魅力を発信することができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おいでわんぱく広場	体育館の自由開放（年 10 回）と、野菜収穫、卓球教室、国際交流、クッキングなどの体験講座を開催。生出地域外の子どもたちの参加も多く、交流の場となった。	4 月 28 日～ 3 月 9 日	15	226
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るために子ども会のリーダーとなる児童、世話人向けに知識やレクリエーションの学習を行った。	2 月 10 日	1	10
生出地区「食文化の伝承」	地域資源や人材を活用して「筍掘りと瓶詰」「みそ作り」「大根掘りと大根料理試食」を実施した。	5 月 10 日～ 11 月 17 日	4	66

《太白区》

秋保電鉄沿線地域歴史巡り	秋保電鉄の当時の沿線を歩きながら地域の歴史や文化を学んだ。太白区以外の参加者も多く、他地域との交流も生まれていた。	6月17日～ 3月3日	3	45
生出朗壮大学	健康、暮らし、介護予防、防犯、芸術、歴史など様々なテーマで楽しく学ぶことができた。朗壮大学懇談会の開催により受講生の意見を企画に反映させることができた。	5月18日～ 2月15日	11	222
出前講座	各地域に出向き地区婦人部と連携して、暮らしや健康作り講話、運動、ミニコンサートを開催した。学びの機会を提供しながら地域活動を活性化させた。	6月3日～ 2月2日	11	210
生出地区災害対応講座	豪雨や地震による頻発する土砂災害について専門家による講話を聴いた。 第2部では災害時に不便な避難所ではなく家で過ごすための工夫について八木山防災連絡会の理事による講話を聴くとともに、非常用携帯トイレの作り方を体験した。50名を超える地域住民が参加し、防災意識向上につながる講演会となった。	2月13日	1	52
● 生出 かかしまつり・コンテスト	町内会・小中学校・各種団体が地域を挙げてかかしを制作し、様々な団体の協力を得てかかし人気コンテストやミニコンサート、模擬店の集うまつりを開催した。	8月29日～ 9月2日	4	350
第30回「蛸と平家琵琶の夕べ」	第30回目として平家琵琶の演奏、坪沼祭り囃子の披露、模擬店や地元の農産物販売、ホテル展示・見学会を開催。多くの来場者で賑わった。	6月30日	1	1,650
第39回 生出コミュニティまつり	小中学生や市民センター利用サークルの発表の場と各団体・サークルの相互の交流の場になった。また地域住民、企業、各団体・サークルの協力を得て運営することによって、住民同士や各団体同士の結びつきを強めることができ、地域コミュニティの醸成が図られた。	10月28日	1	1,650
生出地区「地域活性化懇談会」	生出市民センターの事業内容を地域の方々に知っていただくことと地域課題を共有することを目的に2回開催した。新たな地域課題や今後の地域づくりに有益な話し合いが出来た。	12月11日 2月16日	2	18
「おいで里ネット」企画会議	生出地域の小・中学生対象として子ども達の健全な成長を目的とした2つの講座を企画した。	5月15日～ 3月14日	6	30
わいわいおいで里ネットくらぶ	「動物ふれあい&アウトドアクッキング」「ニュースポーツ&パンケーキ」の2回を開催。小・中学生の学びや体験、異世代間交流、地域資源を知る機会とした。	11月25日 2月23日	2	32

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

図書ボランティア養成・活動支援

生出市民センターには小さいながらも約3,700冊の蔵書を保有する図書室があり、これまでは、職員が図書の貸し出しや蔵書整理等を行っていた。地域からの要望もあったため、平成30年度に「図書ボランティア養成講座」を開催し、5名の方でボランティアグループを立ち上げることができた。

市民センターでは、月1回行っている定例会へ出席し、会員が主体的に行っている活動（古くなった本の修復や、蔵書の整理、新規図書の選書など）のサポートを行いながら、ボランティアグループとともに利用しやすい図書室運営に取り組んでいる。

中田市民センター

〔沿革〕

中田市民センターは、昭和 44 年 10 月、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して仙台市で 5 番目の公民館として開館した。昭和 56 年 3 月に本館を鉄筋コンクリート二階建てとして新築し、平成 2 年 4 月には「中田市民センター」と改称。平成 19 年 7 月からの大規模改修工事を経て、平成 20 年 1 月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成 11 年 6 月までの間は、太白区内市民センター13 館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は地区館として事業を展開している。

また、町内会連合会と地域関係団体とで「中田公民館運営協力委員会」が組織されており、「中田まつり」や「篝火コンサート」など、市民センター活動をはじめとして地域の行事に大きな支援を行っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	第 17 回 なかだ ^{かがりび} 篝火コンサート		
参加者	地域住民	延参加者	400 名
開催日	全 1 回 9 月 1 日（土）		
協力者・協力団体	中田公民館運営協力委員会（町内会連合会含む）・中田神社		
ねらい	地域の中田神社を会場に、中田公民館運営協力委員会と共催し、地域住民の手でコンサートを開催することにより、地域住民同士の交流や繋がり、地域活動への理解を深める機会とし、地域活性化の一助とする。 また、多くの地域団体やサポーターが関わることで、市民センターを中心としたネットワーク機能の強化を図る。		
概要・成果	地域の中田神社神楽殿を舞台に、「なかだ篝火コンサート～ピアノとフルートのタベ～」と題して、篝火、竹灯籠をともした野外コンサートを実施した。全体的に話題性や聞いたことのある曲想のプログラムとしたこともあり、幼児から高齢者まで楽しめる内容のコンサートとなった。 コンサート開催までの準備や広報、当日の運営等は、公民館運営協力委員会をはじめとするたくさんの地域の方々の力を結集して行われた。各町内会から協力員を出す形で毎年行っているため、この行事が各地域団体と町内会とのさらなる交流の場となり、地域の結びつきを強めるのに役立っている。また、恒例行事として幅広い世代の地域の方が楽しみにされているコンサートとなっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわくどきどき親子体験教室	季節の郷土食について、地域で採れた旬の野菜などを食材に使った料理づくりと天体観望、防災キャンプなどの体験活動、講話および交流。	9 月 8 日 11 月 30 日 12 月 15 日 3 月 9 日	4	116
インリーダー研修会	子ども会活動について、児童リーダーや世話人の役割、行事作成やレクリエーション・ゲームの進め方の講話と実技、情報交換等。	2 月 17 日	1	43

ジュニアリーダーとあそぼう 2018	小学生を対象としたジュニアリーダーが企画・運営のレクリエーションゲームや、行事のサポート等。	7月25日 2月23日	2	40
中田老壮大学	入学式、コンサート、食育・歴史講話・国宝建築物・介護予防・防火講話、館外学習、学生会主催新春演芸会等	5月17日～ 3月7日	10	627
気軽に取り組む中田の防災	マンションへの出前講座。乾物による循環備蓄の勧めについての講話、サバ飯の実演、クロスロードゲームの体験	5月12日	1	30
伝えよう！伝統の仙台七夕	オリエンテーション、七夕制作、中田小学校放課後クラブ、中田中学校部活、町内会への出前講座。飾りつけと交流会。	6月28日～ 8月5日	9	98
中田まつり	市民センターの利用サークル、地域団体及び小・中学校などによる作品展示やステージ発表、ジュニアリーダー、関連団体の模擬店やイベントコーナー、町内対抗大会、図書サービススポット紹介、市民センター事業紹介等。	10月28日	1	3,900
中田市民センター「気軽に話し合う会」	事業運営や地域課題についての提案や要望等の意見交換、次年度の各教育機関・地域団体の年間行事日程のすり合わせ及び調整を行った。	12月8日 2月27日	2	15
市民企画会議 中学生が考える「中田クリーンアップ作戦」	中田地区のイメージについて、ゴミのポイ捨て実態について考える企画会議	1月30日～ 3月14日	5	133
「中田の魅力つたえ隊！」養成講座	基調講話「中田地区の歴史の特色と魅力」と東中田・西中田でお宝マップを基に活動している方々の活動事例の紹介。お宝マップ中田と中田の魅力探訪ができた経緯とまち歩き。今後の学習内容と活動についての話し合い。	1月26日～ 3月2日	5	46
読み聞かせボランティアブラッシュアップ講座	読み聞かせを行うための心得、年齢に合わせた本の選び方、紙芝居の演じ方等の講話と実技。実際に学んだことの実践と交流会。	11月22日 11月29日 12月6日 12月13日	4	63

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「中田公民館運営協力委員会」の活動支援

中田市民センターには、中田公民館時代から中田公民館運営協力委員会（構成団体：町内会連合会・各種地域団体・小中学校・市民センター等）がある。町内会や町内会連合会、各種団体との連携のもと、「中田まつり」や「篝火コンサート」、「広報なかだ」発行事業を行っており、地域住民の親睦と交流の場を作っている。

なかでも、「広報なかだ」の発行事業は、編集会議、広報の印刷手配、そしてその全戸配布を年3回の発行にあわせて行っている。「広報なかだ」の前身である中田村の広報誌は大正15年発行、「広報なかだ」は昭和46年からの発行であり、中田地域の情報を発信するものとして長くその役割を担っている。

市民センターでは事務局として、年1回の総会や新年祝賀会、9回の役員会、5回の実行委員会の実施等、その活動全般をサポートしている。

西多賀市民センター

〔沿革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年仙台市として 5 番目の福祉会館として開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館機能が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。

平成 3 年に児童館が併設され、平成 30 年 11 月には新館が開館した。現在は、子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★手をつないで考えよう 減災・防災		
参加者	地域住民	延参加者	764 人
開催日	全 4 回 7 月 21 日(土)、8 月 23 日(木)、9 月 22 日(土)、2 月 7 日(木)		
協力者・協力団体	女性防災リーダーネットワーク太白・西多賀地区連合町内会・西多賀地区社会福祉協議会・西多賀地区民生委員児童委員協議会、西多賀・金剛沢 S B L 会		
ねらい	西多賀地区連合町内会は、避難所開設準備等に積極的に着手し防災に関する意識が高く避難所運営マニュアルを利用した勉強会も実施している。しかし、学校区が重なった地域等があり、広域的な連携が難しいという課題がある。 そこで、日頃から顔の見える関係で連携・協働できる地域防災ネットワークを作り、地域の防災団体の減災・防災活動の底上げ・充実を図ることを目的とする。		
概要・成果	「聴覚障害者と震災」というテーマで座談会を行い、聴覚障害者の方と受講生が東日本大震災で直面した問題について、手話を交えて共有することができた。 また、地域の小学生を対象にして、災害時に必要となる簡易トイレをダンボールで作製、コンテストを行った。停電時に使用できるペットボトルランタンも作成し、身近なものを活用して災害時に役立てることを学んだ。 事業を通して、大雨等自然災害への備えについて学習し、減災・防災に対する情報共有の大切さを実感することで、地域全体における防災意識の向上へとつながった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ジュニアリーダーと遊ぼう！	ジュニアリーダーが企画・運営・広報を自主的に進め、日頃の研修で学んだ成果を大いに活用できた。	9 月 15 日 10 月 13 日 12 月 26 日	3	192
インリーダー研修会	子ども会を充実させるため、子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会についての知識や活動について学び、なかでも情報交換の時間は有意義な活動であった。	3 月 3 日	1	74

エフエムたいはくキッズ情報局 2018 西多賀	子どもたちが自分達の住む地域のいいところ好きなところ取材して番組を作成し「エフエムたいはく」のラジオで情報発信できた。	6月～12月	7	86
企画会「中学生が考える地域交流会」	中学生が地域の課題と対策について考える企画会議を行い、講座の開催に向け準備をして講座を実施した。実施する中で異世代の人々の立場に立って考えた。	9月12日	1	4
西多賀寿大学	歴史や健康に関する講話や、歌や体操で介護予防を学んだ。運営委員による自主企画としてNHKの新館の見学、新春交流会を開催し受講生同士の親睦を深めた。公開講座として、「クリスマスコンサート」を開催した。	5月16日～ 2月20日	9	502
西多賀今昔かるた大会	西多賀検定委員会の方が作成した「西多賀今昔かるた」を利用して地域を知るための講座を開催。児童館利用の子どもたちが交流しながら地域を学んだ。	1月8日	1	52
広げよう福祉の輪	地域内の弱者の実態調査と地域でできる支援体制の在り方を地域内にある福祉関連団体と考えてきた。また、地域での福祉の輪を広げるための交流会を企画実践することができた。	6月1日～ 1月30日	5	472
●天沼公園から地域環境を知ろう	地域資源である天沼公園で、ホタルの幼虫の放流、観察、地域の方との清掃活動等を行い、中学校で活動報告会を行った。様々な施設、団体、地域の方が協力することで地域交流のよい機会となった。	4月18日 6月9日 8月22日 12月11日	4	226
●市民企画講座「美しい三神峯公園にしよう＆クイズで交流！昔の西多賀を知る」	講座を通して地域資源、三神峯公園の環境美化を行い、地域の様々な歴史や知識についてクイズを通して学ぶことで地域再考を促した。講座を通して、地域団体、中学校等が連携することができた。	11月10日	1	80
西多賀地域懇談会	市民センターの運営及び地域課題（高齢化・福祉等）について、地域の各種団体の参加を得て、意見・情報の交換を行った。	6月15日 1月24日	2	54

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「にしたがつつまん」の活動支援

西多賀市民センターを拠点として活動するジュニアリーダーのサークル「にしたがつつまん」は、地域の町内会や子ども会・児童館などから要請を受け、子どもたちが集団の中で元気に遊べる場を提供し、楽しく交流できるようにお手伝いをするボランティア活動を行っている。市民センター主催講座「ジュニアリーダーと遊ぼう！」では、ジュニアリーダーが自ら広報活動のためのポスター作成や、子どもたちの年齢に合わせたプログラムの作成など自主的な企画運営を行うことができた。

市民センターでは、ジュニアリーダーの活動を広げるために定例会を開催し、仙台市や区の研修に積極的な参加を促すことで工作やゲームのスキルアップを図れるようにする等、日頃から活動を支援している。

八本松市民センター

〔沿革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★八本松防災リーダー養成講座		
参加者	地域住民	延参加者	70 人
開催日	全 4 回 7 月 14 日（土）、8 月 25 日（土）、9 月 15 日（土）、10 月 13 日（土）		
協力者・協力団体	八本松連合町内会、太白消防署、仙台市障害企画課		
ねらい	東日本大震災後「八本松地域防災サミット」（平成 27 年度より「八本松地域合同防災会議」と名称を変更）を立ち上げ、会議や合同防災訓練等を、7 年間継続してきたが、避難所のリーダー的役割を担う人材の高齢化への懸念をふまえ、次世代層のリーダー養成を図る。		
概要・成果	第 1 回目は気象予報士の方から「大雨災害について」「東北地方の気象の変化」について学び、第 2 回目では仙台版防災ワークショップ「みんなのための避難所づくり」を、第 3 回目では太白消防署の方から防災用品等の使用方法について学んだ。 近年の気象の変化や大雨災害時に設置される弱者目線から見た避難所の運営等についての学びを通して、次世代の防災リーダー育成への一助となった。 また、第 4 回目として実施された「八本松地域合同防災訓練」に参加することで、それまでの学びの成果を確認し、今後に活かすための良い体験ができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
キッズの元気時間	小学生が交流しながら体験学習する機会として、①オオムラサキの観察会、②ステンドグラス風ペイント作成、③大判かるた大会を開催した。	7 月 7 日 10 月 20 日 12 月 22 日	3	27
ディスカバーAKH	地域の中学生在が地域の特徴を捉え、地域の新たな魅力を作品にした。地域への愛郷心を育み、創作活動の成果を地域に発信し還元する。	6 月 5 日～ 11 月 16 日	6	51
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーと世話人を対象に、講話やゲーム体験を通して各々の役割を学び子ども会の企画運営に必要な知識や技術を習得する学習機会を提供した。	2 月 24 日	1	77

市民企画会議 地域の達人に学ぶ「和の魅力」	地域人材を講師として①日本そばの魅力②邦楽の魅力③着物の魅力を開催した。企画員が役割を十分果たし、参加者が学び、集い交流が図られた。	12月16日 1月19日 2月16日	3	63
八本松寿大学	高齢者の居場所づくりや仲間づくりを支援し、現代的課題を踏まえたテーマや歴史を学習した。また、地域の支援学校との交流学习も行った。	5月24日～ 2月28日	10	499
社会学級共催事業「気軽に楽しく健康づくり～元気アップ体操」	地域住民の交流と健康増進を図ることを目的に「3B体操」を行った。参加者同士性別や年代を越えて交流が図られた。	12月7日	1	12
複数年事業 「郡山で会いましょう～八本松市民センター出前講座」	郡山コミュニティセンターと東郡山コミュニティセンターでの出前講座を開催した。事前に郡山の町内会や地域包括支援センターと準備会議を6回開催し、その結果、「歌と軽体操から青春の宴」「安心して暮らせる地域を目指して」等の3回講座を開催することができた。	6月8日～ 12月18日	10	138
八本松スマイルコンサート	近隣の住民が生活者の視点で気軽に参加できるコンサートを開催した。第1回目は隣接する八本松児童館・コスモス木保育園と共催してバイオリンとソプラノのコンサートを開催した。第2回目はブラスアンサンブル「ブリタニア」のコンサートを開催した。	6月30日 1月12日	2	196
平成30年度郡山・八本松地区市民まつり第22回うぶすなフェスティバル	八本松・郡山地域の住民同士の交流の場として市民まつり「郡山・八本松うぶすなフェスティバル」を開催した。	11月4日	1	2,050
八本松市民センター懇話会	地域の住民や市民センターを利用して活動している団体の代表の方々から、八本松地域の課題や地域特性、市民センターの運営等についてご意見を伺い、センター運営に活かすことを目的に開催した。	6月19日 2月14日	2	29
市民企画会議	地域人材の育成と地域交流を目的に企画会を行い「地域の達人に学ぶ和の魅力」全3回を企画開催した。	5月15日～ 3月10日	14	42
社会学級共催事業企画会	地域住民の交流と健康増進を図ることを目的に「気軽に楽しく健康づくり元気アップ体操」を企画開催した。	6月13日～ 12月7日	5	10

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

八本松地域合同防災会議への活動支援

八本松地域では、地域の防災・震災対策の基盤となる八本松地域合同の防災サミット立ち上げ後、防災に関する住民意識が向上しノウハウも蓄積されてきており、より実効的な防災会議を実施してきた。平成30年度も八本松連合町内会が主体となり、10月13日（土）に開催された八本松地域合同防災訓練に向けて、管轄地域のハザードマップ（地震）を取り寄せ、地域の危険度の見直しを行い、市民センターが中心となって八本松小学校及び地域の諸団体との準備会議やふりかえりの会を開催した。

また、市民センターでは防災会議の事務局として、準備会議の日程や各参加団体の要望等について仲介・調整・連携を担っている。

八木山市民センター

〔沿革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、野草園、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年 12 月に開業した地下鉄東西線の西の起点駅（八木山動物公園駅）となったことから、地域の生活環境も大きく変貌しつつある。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★第 7 回 地域防災シンポジウムin八木山		
参加者	どなたでも	延参加者	117 人
開催日	全 1 回 12 月 8 日(土)		
協力者・協力団体	仙台八木山防災連絡会（八木山・八木山南連合町内会、八木山・八木山南小学校及び P T A、八木山中学校及び P T A、仙台城南高校、仙台西高校、東北工業大学、仙台赤十字病院、八木山地区老人クラブ連合会、八木山地域包括支援センター 他）		
ねらい	八木山地区は学校・地域団体等が連携しての防災への取り組みが盛んだが、子どもから大人までが一堂に会するのは総合防災訓練程度である。 そこで、震災での体験等を継続して伝承することを目指し、市民センターを会場に防災についてのシンポジウムを開催する。各世代が互いの体験や防災について学んだことを伝え合うことで、防災意識の向上と幅広い世代間交流を図る。		
概要・成果	平成 24 年度から「わたしたちにできること」をテーマに小中学生、高校生、大学生などの若い世代から防災への取り組みを発表してもらい、子どもから高齢者まで各世代が防災をテーマに交流を図ることを目的に開催している。 第 7 回となった平成 30 年度は仙台西高校による研究発表の後に、災害時に自宅で過ごす事を考え、少量の水で作れる水づけパスタづくり、非常用携帯トイレの作成を小学生から大人までの各世代混合グループに分かれて行った。パスタづくりは大人が見守る中で小学生が主体となって進め、トイレ作成の際はグループの中で経験者が自然と指導する形となる等、様々な世代が活躍する場としても効果的な体験型シンポジウムとなった。 シンポジウム全体を通して、地域の老若男女が世代混合グループの中で楽しみながら、改めて日頃の防災について話し合い、幅広い情報交換を行う良い機会となった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童及び世話人が、子ども会について学習し交流を図ることで、児童はリーダーとしての役割や心構え、活動に必要な知識を身につけ、世話人は子ども会活動支援の方法を学んでいた。	2 月 10 日	1	77
子どものための囲碁教室	地域の高齢者が子どもに囲碁だけでなく挨拶や礼儀などを教え、子どもたちは他学年や他校の児童と交流し、囲碁のレベルの向上、異世代間交流、地域高齢者の人材活用の活性化を図る事が出来た。	4 月～3 月	40	681

広げよう！「八木山防災の輪」	八木山南小学校、八木山中学校で防災授業を実施。保育園への出前やイベント出演で小中学生が「ぼうさいダンス」を実演した。	6月12日～ 11月3日	5	267
地域の絆プロジェクト「ブロック塀に絵を描こう」	八木山ベニーランドのブロック塀の大壁画を、地域の連携を更に深めるため動物公園の協力で向かい側に広げることとしたが、雨天のため下絵を描くのみとなった。	8月2日 8月9日 8月10日	3	76
在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	外国人を対象に日本での生活に必要な日常会話等を教師ボランティアが指導し、またボランティアによる託児も行った。市民センターまつりでは無料カフェと活動展示により、地域住民との交流も図られた。	4月13日～ 3月15日	69	727
やぎやまシニア大学	歌唱、防災、文学、自然、情報社会、健康、歴史、音楽などをテーマに開催した。学習内容に満足している受講者が多数だが、館外学習の自然史博物館への評価が割れた。	5月10日～ 2月14日	9	713
恐竜山・金剛沢「遊・歩・導」	地域の小学生とその保護者を対象に、クイズ形式による学びを体験しながら、地域の自然の魅力を感じてもらうウォークラリーを開催。八木山おやじの会他各種団体と連携し実施。	4月14日 3月10日	2	56
第30回八木山市民センターまつり	八木山市民センターや地域で活動している諸団体、学校、サークル等のステージ発表と制作作品の展示。八木山防災連絡会による介護予防講座やボランティアによる子ども遊びやバザー等を実施した。	10月13日 10月14日	2	3,500
第13回秋の八木山フェスタ～こどもにやさしい八木山～	八木山ベニーランド、八木山動物公園、東北工業大学および市民センターが中心となって開催される八木山の一大イベント。またポスターコンクールを開催し、小学生の参画を図っている。	11月3日	1	20,000
八木山気軽に懇話会	地域の町内会、センター利用サークル・団体、地域の学校関係・連合町内会を対象に、春に2回、秋に1回、意見・改善提案等の提言を頂く懇談会を開催した。	6月28日 6月30日 11月30日	3	41
市民企画会議「オトナ女子の倶楽部活動」企画会	アラフォー世代の女性企画員が、センターの講座に参加したことのない30～50代女性を対象に、この世代の人が興味を持ちそうな、気軽に参加できる講座を考え開催した。	5月19日 6月23日 2月9日	3	10
オトナ女子の倶楽部活動	上記の女性企画員による企画会を経て、4講座実施した。①乳がん講座②日本茶講座③サバメシ講座④マナー講座を開催し好評だった。	7月7日 9月8日 11月17日 1月26日	4	54

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

仙台八木山防災連絡会の活動支援

「仙台八木山防災連絡会」は八木山地区の町内会・社会福祉協議会のような地域団体や小中学校、高校、大学、病院、福祉施設、警察、消防署、娯楽施設、市民センターなどの44団体が加入している組織で、「助けてくれる」「助けてあげる」を基本的な支援の考え方として平成20年以前から活動してきている。

市民センターを事務局として、定期的に連絡会議を開催しながら、団体の枠組みを超えた自由な連携や、地域オリジナルの防災教育、世代を越えた地域の語らいの場づくりなど様々な取り組みをしてきたことで、平成30年9月に「平成30年度防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞。活動の功績は全国にも知れ渡り、地域防災組織のモデルとして注目を浴びている。

山田市民センター

〔沿革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鉤取郵便局、鉤取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。

こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業「楽元の森プロジェクト」		
参加者	どなたでも	延参加者	205 人
開催日	全 9 回 5 月 19 日（土）～ 3 月 10 日（日）		
協力者・協力団体	山田鉤取地域町内会連合会、上野山小学校、楽元の森自由開放運営委員会、太白区中央市民センター		
ねらい	平成 28・29 年度の 2 年間上野山小学校隣接の「楽元の森」の整備と地域住民の交流・町内会を担う人材の発掘・育成を目的に地域力創造支援事業を展開してきた。地域資源である楽元の森の整備・活用を通しての交流・人材発掘に成果をあげている。今後は、更なる交流・人材発掘・育成を支援し、地域の活性化に繋げる。また、森の整備等に係る自主運営委員会の立ち上げを支援する。		
概要・成果	5 月、第 1 回目のプロジェクト会議を開催し今年度の予定について検討すると共に、協力を仰いだ。6 月からは地域資源である楽元の森を会場に、森から採掘した粘土を使い土づくりから器づくり、素焼き、本焼きと地域の方々の協力を得ながら陶芸に取り組み、世界に一つだけの器を作成することができた。また、11 月にはデイキャンプを開催し、参加の小学生は家庭や学校では体験できない内容に興奮していた。12 月は和風作り、3 月は森の整備などを地域の方々の支援のもとで開催した。 楽元の森を会場に事業を展開してきて平成 30 年度で 3 年となった。楽元の森の魅力を広く周知でき地域団体等との繋がりも年々強く深まってきている。多様なイベントを開催し幅広い年代の世代間交流ができたことで人材発掘にも繋がった。次年度は、発掘した人材を育成し地域の活性化に向け取り組んでいく。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
サマースクール山田	マジック、卓球、茶道、ドッジビー、ずんだ白玉作りなど日替わりの内容で、地域の方やセンター利用サークルなど、大人たちが見守る中楽しく学び合う事ができた。	7 月 24 日～ 8 月 1 日	6	108
インリーダー研修会	児童向け、世話人向けにそれぞれ講話と演習。ジュニアリーダーによるゲームの説明後、グループ毎にゲームの演習を行った。ジュニアリーダーのようになりたい、と子ども会のリーダーとしての自覚が芽生えた児童もいた。	3 月 3 日	1	68

山田かがやき隊	「おくずかけ」の調理、ハーバリウムの制作、地域人材を活用した植栽剪定、UVレジンアクセサリー作りを開催した。	7月4日 9月6日 9月20日 1月23日	4	65
山田豊齢大学	高齢者にとって必要なテーマや、受講生同士が交流を図りながら楽しく参加できる内容で開催。〈講話〉健康・歴史・暮らし〈実技〉体操〈鑑賞〉音楽・映写。お世話人会は、講座の企画・運営に主体的に携わっている。	5月10日～ 3月14日	9	621
●福祉フォーラム	地域団体と共催し、健康講話・アトラクション・コンサート・身体機能測定・パネル展示によるサロン活動の紹介・健康体操を行なった。	5月25日～ 2月16日	6	423
山田・鉤取まち巡り	「山田・鉤取まち物語」を製作しそれをまちづくりに活用している団体と共催して、仙台市博物館協力委員の松浦順一氏による講話と、地域の見どころを訪ね歩くまち歩き講座を開催した。	5月16日 5月24日 9月1日 10月3日	4	128
●山田鉤取地域総合防災訓練	小・中学校や地域諸団体と合同で防災訓練を計画し実施した。各地域から避難誘導の後、指定避難所である各学校で避難用テント設置・応急処置・炊き出し等の防災訓練を行い地域の防災力向上を目指した。	4月25日～ 11月21日	5	1569
第21回 山田ふれあいまつり	舞台発表・作品展示・こどものひろば・復興支援・フリーマーケット・防災等のコーナーを設け、地域住民やセンター利用者が活動の成果を発表し、幅広い世代が参加交流した。また、中学生ボランティアの活躍も目立った。	11月3日	1	2500
山田スマイルコンサート	改修工事後の再開を祝いオープン記念コンサートや、皆が気軽に集い交流できるコンサートを開催した。バイオリン、フルート、ソプラノ、ピアノの演奏。ビッグバンドによるジャズ演奏。ピアノの弾き語り。和太鼓と篠笛演奏。	4月21日 6月4日 11月10日 2月2日	4	491
地域懇話会	1回目は、学校、保育所、児童館など教育関係者を対象に開催し、地域課題や情報の共有化をはかり、連携事業について検討した。2回目はセンター利用サークルを対象に開催し、センターへの要望等について何うとともに理解を得た。	4月24日 12月8日	2	23

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

花壇ボランティア「ふれあいの花プロジェクト」の活動支援

平成28年度に植栽管理ボランティア養成講座として「ふれあいの花プロジェクト」を開催したが、受講生によるサークルとしての成立には至らなかった。しかしながら、「今後も花壇の整備・管理を継続していきたい。」という受講生の思いもあり、現在は市民センターが管理している花壇の整備活動を行なっている。整備している花壇はバス停脇にあるため、地域の方がかけてくださるねぎらいの言葉が活動の励みにもなっている。

市民センターでは、花壇に植える花の種まきから苗の植え替え、草取りなどをボランティアの方とともに、多くの人々の目を楽しませることができるよう魅力ある花壇づくりに取り組んでいる。

茂庭台市民センター

〔沿革〕

茂庭台地区は仙台市西部に位置し、市内中心部から約 20 分の距離にあり、古くからの梨野地区と住宅が多く建ち並ぶ茂庭台地区からなっており、豊かな自然環境に恵まれている。

茂庭台市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始した。平成 2 年には児童館が併設された。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年 4 月に再開した。

近隣には市営住宅や多くの福祉施設があり、高齢者、子ども、福祉施設の方々や外国人居住者の利用も多く、当市民センターは地域コミュニティの交流の場となっている。また、コミュニティ活性化に向けて連合町内会による地域活動が積極的に進められている。地域ニーズ、課題解決を図るため「市民本位の生涯学習拠点」「市民が主役の交流拠点」「市民参画による地域づくりの拠点」として、より多くの利用者に気軽に足を運んでもらえる様な事業を実施するとともに、地域課題解決のもとに集まれるネットワーク拠点としての機能が持てるようなセンター運営を行っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★復興公営住宅出前事業 茂庭台市民センターがおじゃまします		
参加者	どなたでも	延参加者	60 人
開催日	全 3 回 7 月 7 日（土）、8 月 25 日（土）、9 月 15 日（土）		
ねらい	茂庭第二市営住宅は当初復興公営住宅として建設された。平成 29 年度にはめぶき町内会が立ち上がり、入居者同士の連帯が強まりつつある。一方、支援者連絡会が活動を終了することもあり、今後も地域との繋がりを強化する必要性が認められる。そのため、めぶき町内会と地域住民との関係強化と、めぶき町内会住人同士の交流活性化を目的に出前事業を実施した。めぶき町内会と連携し、入居者のニーズに即した事業を企画した。		
概要・成果	民話の語り、コンサート、映画会と計 3 回実施した。めぶき町内会と連携したことで、ねらい通りに町内会の要望に応えた内容を提供できた。また、他県や県内の様々な地域から入居している方々に、市民センターの役割や事業について知ってもらうきっかけとなった。主に茂庭台在住の方が出演し、中でもコンサートでは新しい地域人材が出演。地域人材の発掘、人材活用にも繋がった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
もに輪っ子体験クラブ	地域における子どもの養育を目的としたキーホルダーづくりやこま回しの体験学習を実施し、伝統文化や造形に触れる貴重な機会となった。	5 月 2 日 6 月 13 日	2	48
ジュニアリーダーとあそぼう	小学生がジュニアリーダーからレクリエーションなどを通して、協力することの大切さ、集団活動時のルールを学ぶことを目的に開催した。第 1 回はレクとドッジボール、第 2 回はレクとゲームで行った。	7 月 21 日 12 月 1 日	2	72
インリーダー研修会	茂庭台・生出地区の小学 5 年生と子ども会世話人を対象とし、子ども会の運営方法や行事の進め方について学び、次年度 6 年生になった際に子ども会のリーダーとして活動できるように研修会を実施した。	2 月 10 日	1	30

地域をつなぐ課外授業	茂庭台地区は、昔からの住民と復興公営住宅の住民が混在して生活している。そこで、ニュースポーツ体験、料理教室を通して、地域の住民同士が交流を深めることを目的に実施した。	6月8日 6月28日	2	28
備えよう！シニアライフのための学び塾	現代、「平均寿命」が延びる傾向にあり、「健康寿命」は、男女ともに「平均寿命」より短い。そこで、口腔機能についてや軽体操等の内容を取り入れ、健康寿命を延ばすための講座を茂庭地域包括支援センターと共催で実施した。	11月14日 11月21日	2	18
茂庭台短期大学	茂庭台地区は、団地造成から30年以上が経ち、高齢者の多い地域でもある。そこで、文学や軽体操等の様々なテーマを取り上げ市民がともに学び合う場を設定し、生涯学習の機会や交流の場を提供した。	4月20日 5月18日 6月15日	3	111
地域懇談会	学校関係者、町内会関係者、地域団体と地域課題の発掘、把握、解決に向け意見交換を行った。	6月22日 1月25日	2	43
地域防災講座	地域住民対象に、防災への備えについて意識の共有、高揚を図ることにより「減災」に取り組むことを目的に実施した。	2月25日	1	51
もにわだいを楽しく歩こう	団地造成から30年余りになるが、地域の魅力にきづかない住民も多く、新規住民なども地域の魅力を知る機会が無い。そこで、茂庭台の歴史や地理、自然について実際に歩き、地域の住民にわが町を知る機会として実施した。	9月22日 9月29日 10月13日 10月20日	4	50
住民参画型事業・複数年事業「みんなの広場」プロジェクト	広場活用を通して地域活性化に繋げることを目的に実施している。地域人材の発掘・育成、地域資源の有効活用などを基に、地域団体を取り込み、関係団体を拡大していくように取り組んだ。	5月～3月	11	193
住民参画型事業「天空の広場」盛り上げ隊	企画員が声がけて企画員が増加し、広場活用のアイデアを多く出して企画・運営した。閉館中にも屋外コンサート・屋外映画会、凧づくり・凧あげを行った。凧づくりでは近隣の施設と関係を深めた。	7月14日 7月21日 10月6日 2月9日	4	136

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

水道山整備ボランティアの活動支援

団地内にある茂庭台緑地は、地域住民から「水道山」と呼ばれている。以前は草木が鬱蒼と生い茂り倒木が多く、危険な場所とされていた。植生が豊かだった頃の姿に戻したいとの声が市民センターに寄せられ、平成21年度に市民センターが企画講座を実施し、水道山整備に取り組んだ。その時の企画員6名が中心となり、水道山整備ボランティアを結成。平成23年度から自主的に活動し、平成29年度には太白区まちづくり活動賞を受賞した。

平成26年度にボランティアの方から大規模なナラ枯れがあったとの情報提供を受けた際は、区役所への報告を速やかに行うことで、計100本以上を伐採してもらう迅速な対応につながった。

市民センターでは、整備活動にあたる上で必要な各種手続きや活動記録作成を行うほか、ボランティアからの相談受付や情報提供等、広くサポートを行っている。

東中田市民センター

〔沿革〕

東中田市民センターは、平成元年４月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、素晴らしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ほっこりサロンボランティア養成講座		
参加者	地域住民	延参加者	93 人
開催日	全 8 回 4 月 10 日(火)～3 月 19 日 (火)		
協力者・協力団体	太白区中央市民センター（太白区内地域連携ネットワーク）、ほっこの会		
ねらい	震災の影響や農地の宅地化により、転入者が増加している東中田地区で、住民同士が気軽に集い、交流できる「ほっこりサロン」を運営するボランティアを養成する。中学校をボランティア養成講座の会場とすることで、中学生の保護者等を巻き込み、ボランティアの裾野を広げることを目指し、講座を開催する。また、サロンを運営する「ほっこの会」が主体的に活動していくよう、企画会を含めて講座にも全面的に参加する。		
概要・成果	ほっこりサロンボランティア養成講座は、講師を迎えてタッピングタッチやハンドマッサージのスキルを学ぶ回と学んだスキルの定着を図る練習の回を交互に行う組立てで実施した。練習の回では、既にボランティアとして活動を行っている「ほっこの会」メンバーに講師役を務めてもらうことで、新たなボランティアの育成とともに「ほっこの会」の主体的活動にもつなげることができた。 また、受講生にとっては懐かしさと新鮮さが入り混じった中学校の教室を会場に、講座は常に和気あいあいとした雰囲気の中で進められ、受講生は通常の「ほっこりサロン」運営の様子や「ほっこの会」のメンバーの様子をうかがい知ることができる良い機会となった。 本講座は、ほっこりサロンで活動してもらうボランティアメンバーの裾野を広げるための養成講座であるが、「ほっこの会」にとっても、この講座の企画会から参加をして講師役まで務めることがさらなる自主性を育む機会となっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会についての知識や活動に必要な技能を、児童や世話人が学ぶ機会を提供した。	2 月 3 日	1	37
東中田わくわくタイム	小学生を対象に、夏には紙ヒコーキ（作成と飛ばして記録を競う）とスライム作り、秋にはニュースポーツの講座を開催し、いずれも募集定員を超える申込みがあった。後半は地域の将棋サークルと将棋大会を開催し、世代間交流も進んだ。	7 月 14 日～ 1 月 19 日	6	133

東中田いきいきタイム	体験学習の機会を提供することで、主体的な学習活動への意欲を高める一助となった。	7月5日 7月6日 2月13日	3	43
東中田老壮大学	平成30年度も新規受講生が多く、自主的に運営委員会の役員となり、自主企画の運営に積極的に参加するという成果が見られた。	5月～2月	10	579
みんなのコンサート	身近な施設である市民センターでのコンサートとして、親しみやすく多彩な内容のコンサートの開催に努めた。市民センター利用の合唱サークル出演により、企画・準備を一緒にいき、来場者増にもつながった。	6月2日 8月4日 12月8日 2月9日	4	312
防災減災学びの学校	地域課題となっている水害等について学習し、防災に対する意識を高める機会とした。また若い世代が多く住む地域であることから、幅広い世代も巻き込んだ防災・減災講座を開催した。	9月22日	1	150
●東中田市民まつり	町内会や学校、地域団体、地域サークル、地域内各施設等と連携し、学習成果発表と地域住民の交流の場を提供し、地域の活性化を図ることができた。	10月7日	1	3,500
東中田地域コミュニティ懇話会	市民センターと児童館の事業や活動等を多くの方に紹介し、センターの機能を知っていただいた。各団体からは活動紹介や現状報告をしてもらい、情報交換の場とした。	5月31日 2月21日	2	47
自分のまちをあるいてみよう	地域力創造支援事業で作成した「お宝マップ」を使い、地域住民による案内とともに、地域内の名所旧跡を巡る「まち歩き」を実施した。6月に中田中部地域、12月に東中田地域で開催した。	6月16日 12月1日	2	56
語り手ボランティア「かにっこ語りの会」スキルアップ講座	語り手ボランティア「かにっこ語りの会」のスキルアップを図ることを目的に、地域の歴史等を学ぶ機会や自立して活動していくための基盤づくりに取り組んだ。地域を紹介する学習の講師としての要請も増加している。	4月～3月	12	60

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

語り手ボランティア「かにっこ語りの会」の活動支援

平成26年度の「東中田の語り部ボランティア養成講座」から立ち上がった「かにっこ語りの会」は、地域に伝わる「かに伝説」の伝承を軸に、市民センター主催講座「自分のまちを歩いてみよう」等で地域の名所・旧跡等の解説や、小学校の総合学習での講師など、地域を紹介する役割を担う重要なサークルとなっている。市民センターでは、主催講座の講師を依頼することで講座への協力をいただくとともに活動機会の提供を図るほか、サークルの学習会への講師の紹介や、小学校とのコーディネート面を行う等の支援に努めている。

柳生市民センター

〔沿革〕

柳生市民センターは、平成 9 年 4 月に、市内 52 番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

こうした地域の特性と施設の機能を活かしながら、住民の多様化に対応した生涯学習の地域拠点として各種事業を展開し、地域のコミュニティ・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	柳生キッズたいけん隊		
参加者	小学生と保護者	延参加者	159 人
開催日	全 7 回 6 月 17 日(日)～12 月 26 日(水)		
協力者・協力団体	柳生小学校、柳生中学校、柳生児童館		
ねらい	核家族の占める割合が高い地域において、小学生が学校外での多様な体験活動を通して地域や子ども同士の交流を促進するとともに、将来の仕事への興味・関心を高める。		
概要・成果	春と秋で 2 回実施したまち歩きでは、ガイドボランティアの方の説明を聞きながら、旧跡等を訪ねて地域のお宝を再発見。まち歩き後は、ゴール地点とした中田神社で昼食を囲み、参加者同士の交流を図った。 柳生小学校と共催したクッキング講座では、野菜ソムリエの方を講師に迎え、野菜を使用したおいしいデザートを親子で作ることで、食育の大切さを考えるきっかけとした。 また、柳生中学校科学部との科学実験教室では、科学への関心を高めるだけでなく、中学生と小学生の異学年交流にもつながった。 さまざまな体験学習を通して、子どもたちの幅広い分野への好奇心を育てる一助となった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●柳生子育てサロン	太白区の保健師講話、交通安全教室、リズム遊びやヨガ体験、児童劇団公演、クリスマス会、布のおもちゃ作り、子育て相談実施。終了後も部屋を開放して親子同士が交流を図れるようにした。	7 月 27 日～ 2 月 15 日	6	85
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、来年度リーダーとなる 5 年生と世話人を対象に子ども会活動の意義や目的、ゲームの進め方など必要な知識を提供した。	2 月 10 日	1	39
柳生いきいき健康サポート	心身両面から健康について幅広く学んだ。音楽療法、介護予防のヨーガ、口腔ケアについて、栄養食事学、ボッチャ、ウォーキング、タッピングタッチ、交流会、補助薬について。	6 月 7 日～ 11 月 22 日	10	185

柳生シニアスクール	一人一人が外に出て人と関わり、趣味や会話を通して人とつながること、受講生同士が学び合う楽しさを見出し日常生活を充実させることを目標に1年間10回の講座を実施した。	5月～2月	10	690
柳生防災講座	アイマスク装着で全盲状態を疑似体験し災害弱者（視覚障害者）へ理解を深めるきっかけを提供。補助避難所の役割の一端を知ってもらえた。	8月21日	1	14
第14回柳生市民センター・児童館まつり	オープニングセレモニー（柳生子ども塾すずめ踊り）、オータムコンサートの部（サークル・小中学校吹奏楽・児童館）、おまつりの部（サークル・個人作品展示、地域出店、児童館コーナー）。	9月29日 9月30日	2	1,600
柳生季節のコンサート～春・夏・秋・冬～	音楽を通じて人と人とが繋がりを深め交流を図ることを目的として開催。四季折々に生の演奏にふれる機会を提供することで、少しでも生活の張りになるようなコンサートを目指して、春の「和ロック」、夏の夜間コンサート「津軽三味線・手踊り、ボサノバ・ジャズ」、秋の「火曜コンサート」、シニアスクール共催・一般公開の「冬の陽だまりコンサート」を実施した。	4月～12月	4	476
柳生・西中田地域懇話会	地域諸団体や小・中学校等との懇談を通して児童館、併設市民センター事業等の取り組みや地域等の課題を把握、共通理解を通じて、相互の事業に反映しながら課題解決に向けての講座を展開した。	7月13日 2月15日	2	32
市民企画会議「柳生おとなの学校」	「夏の風物詩～柳生の蛍に会えるかな？」講座で地域資源の蛍を再発見。柳生いきいき健康サポート講座とタイアップし「ボッチャ」の講座運営を担当。「今年も開店うたごえ喫茶」では小学生も参加した。	4月20日～ 3月16日	14	196

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「柳生キャンドルナイト」への支援

「柳生キャンドルナイト」は、地域全体で子どもの健やかな育ちを支えるための学びの環境づくりを推進する「太白区内地域連携ネットワーク事業」の1事業として実施された。地域の方々が紙コップに絵や文字を書き、光のアートを作るイベントを企画・実施し、一つの物事に対して、地域の方々が一緒に取り組むという楽しさの体験と異世代間交流により、魅力ある地域コミュニティの構築に取り組んだ。市民センターは事業運営に係る助言や活動の場の提供、広報、団体間の連絡調整等の支援を行った。

その結果、学校をはじめとした多数の地域団体が参加し、枠組みを超えた連携や協力体制を築き上げることができた。また、この支援により、次年度へ向けての活動定着や他の地域活動への広がりを見せている。

富沢市民センター

〔沿革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、名取川・JR 東北本線・国道 286 号線に囲まれた地域で、中央部を筑川が流れ、かつては富沢・大野田遺跡のある田園地帯であった。地下鉄開業以来、交通の利便性から宅地化が急速に進み、高層マンションと昔ながらの農地が混在する地域に変貌した。当地区は、単身・核家族世帯が多く、住民の転出入の頻度も高い。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、生涯学習の拠点として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	◎パワフルとみざわネットワーク		
参加者	各町内会、地域諸団体、地域住民	延参加者	3,129 人
開催日	全 9 回 4 月 7 日（土）～2 月 2 日（土）		
協力者・協力団体	町内会（南大野田・富沢南・富沢・富沢中央・西大野田）、富沢・長町地区親父の会ネットワーク通称 TNO（富沢中学校親父の会・富沢小学校親父の会・西多賀小学校親父の会・長町南小学校親父サークル）、社会学級（富沢・西多賀・大野田）		
ねらい	各小中学校で活躍している若い子育て世代と現在の地域リーダーである町内会長がそれぞれに持っているノウハウを生かし、協働して地域コミュニティづくりのためのイベントを開催することによって、これからの地域を担う人材である若い世代の力を地域へ還元する仕組みづくりを目指す。		
概要・成果	協力者・協力団体と筑川を会場としたイベント「第 3 回ざる川フェスティバル」の開催に向け、ざる川フェスティバル実行委員会を開催した。実行委員会では、ざる川フェスティバルの企画会議を複数回行い、フェスティバル開催へとつながった。企画・運営では各団体が協働活動し、それぞれが持っているノウハウの共有ができる場となった。 また、「第 3 回ざる川フェスティバル」は、ステージでは地域の小中学校の生徒たちも多く出演し、屋台や異世代交流ニュースポーツでは、各小中学校のおやじの会や社会学級が各ブースを運営し、若い世代の力を活かしたイベントとなった。 町内会等の高齢者世代と、おやじの会や社会学級とが、一つの目標に向かって取り組みイベントを継続して開催することにより、団体間の連携が十分に深まり、地域で独自の組織づくりを目指すきっかけとなっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おはなしの部屋	乳幼児親子を対象に、ボランティアサークル「おはなし・はらっぱ」「グループ K2」による絵本の読み聞かせや紙芝居・人形劇・手遊びなどのおはなし会。	5 月 9 日～ 3 月 13 日	10	531
●つながる子育て「ホッと in とみざわ」	地域の子育て支援関連団体と連携し、地域の子育て情報の発信や情報交換、そして各団体の特色を生かしたブース（親子リズム体操、手形スタンプ等）を企画しイベントを実施。	6 月 13 日 12 月 4 日	2	390
親子で防災クッキング	親子でクリスマス料理を作りながら、災害時に役立つ調理法や簡単アイディアを楽しく学ぶとともに、防災についての知識を深める学習を行った。	12 月 15 日	1	32

とみざわ子どもの広場	学校休日の主に土曜日を活用し、自然観察、工作、セグウェイ講話と試乗、調理、科学実験を実施し、子ども達の体験・学習・交流の場を提供した。	6月2日～ 2月2日	5	141
インリーダー研修会	児童向けには、子ども会活動の意義とインリーダーの役割 歓送迎会プログラムの立案と発表。世話人向けには、子ども会活動の意義と世話人の役割、情報交換。	2月17日	1	62
富沢小学校連携講座 「地域を知って富沢博士になろう！」	「富沢たんけんたい～富沢の昔・今・これから」と題し、地域ボランティアがサポーターとなり地域探訪を行った。また、富沢地域に関心を持ち、「まちづくり」活動等「これから」について学習した。	7月6日 9月5日	2	218
きらやか女性サロン	地域の女性たちの仲間づくりを目的に、実技（ヨガ、発声、ストレッチ）とカラーコーディネート講話、調理実習と交流会を行った。	7月7日～ 11月1日	5	114
富沢シニアクラブ	健康で豊かな生き甲斐のある生活を送れるよう、学習と交流の場を提供した。交流会や館外学習では受講生同士協力し交流場となった。運営委員会を開催し自主的な活動を促し、充実した生活に繋げている。	5月17日～ 2月21日	11	547
富沢市民センターまつり	学習成果発表として、町内会や学校、利用団体等による舞台発表や展示発表、出店等各種催しを行った。	9月30日	1	2,300
富沢市民センター懇話会	地域ニーズや課題を把握し、市民センターの事業運営に反映させることを目的に、地域住民との懇談会を開催した。1回目は地域内の町内会長、2回目は当市民センターを利用しているサークルを対象に情報交換を行った。	7月7日 3月6日	2	24
伝えよう 七夕に願いをこめて	折り紙ボランティアの発足と、地域で活躍する人材育成講座の複数年事業1年目は、折り紙に親しむ仲間づくりに重きを置き実施した。	7月13日～ 2月22日	6	52

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「富沢市民センター図書ボランティアの会」の活動支援

富沢市民センターの講座を経て結成された「富沢市民センター図書ボランティアの会」は、15年以上の活動実績があり、週2回の貸出や、市民センターまつりでの古本バザー、蔵書点検、季節毎のディスプレイ等、多岐にわたり活発に図書室の運営に携わっている。

市民センターでは、毎年、公共図書館等と連携してボランティアの要望に沿った研修会を実施したり、定例会や各種活動の円滑な運営のための情報提供等、更なるボランティア活動の活性化を図るための支援を行っている。

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置されたのが始まりで、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称された。平成 25 年 5 月には移転改築の上、現在の施設がオープンした。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称された。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	秋保自然紀行「里山トレッキング」		
参加者	成人	延参加者	78 人
開催日	全 4 回 5 月 23 日（水）、6 月 6 日（水）、10 月 16 日（火）、11 月 7 日（水）		
ねらい	秋保地域には気軽に登れて植物観察ができる里山が多くあり、植生や秋保地域との歴史的関わり、里山の現状を学ぶ上でとても貴重な地域資源である。しかしながら、登山口や道順はわかりにくいことが多く、地域内外の魅力を伝えきれない部分がある。そこで、里山の魅力を伝えるとともに、安全なトレッキングや楽しみ方について学ぶ機会を提供する。		
概要・成果	楯山、戸神山など 4 ヶ所でのトレッキングを実施した。 かつて楯山城があった楯山では、この地域を治めていた秋保氏との深い関係を知る機会になった。 戸神山では、田んぼの水源としての重要な役割があったことを知るとともに、環境変化により各地で生息数を減らしていると言われるモリアオガエルの卵を観察することができた。 それぞれの場所ごと季節ごとの自然を堪能しながら、里山の歴史的・地域的な関わりを学ぶトレッキングとなった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●あきう子育て広場	未就学児親子を対象に「心を育てる読み聞かせ」「親子でフラダンス」「親子工作」などを開催し、参加者同士の交流を促進し仲間作りができた。	5 月 10 日～ 7 月 12 日	5	54
秋保ファミリー体験講座「あきう遊々クラブ」	「自然観察会、燻製づくり」と「水辺の生き物の観察」を行った。普段の生活ではなかなか体験できない、秋保の豊かな自然を活かした内容で、参加者からも好評だった。	6 月 9 日 7 月 21 日	2	23
馬場小サマースクール	「ドローンフライト体験会」と「おもしろサイエンスショー」を実施した。普段の授業では体験できない内容に参加した児童は興味津々だった。	8 月 23 日 8 月 24 日	2	41
がんばれ秋保っ子スポーツ大会	「秋の大運動会」をテーマに秋保地区の小中学生が集まり、協力して競技に取り組んだ。	10 月 14 日	1	52

山の恵みクラフト	里山で採れる自然素材を使い「大きめの一輪ざし」や「ブドウ樹皮のブローチ」、「クリスマスリース」を作成した。参加者同士で教え合うなど、交流を深める様子も見られた。	10月12日 10月26日 12月7日	3	30
冬の手づくりクラブ	農閑期である冬の期間に、地域住民を対象にクラフトや味噌作りをした。	2月1日 2月15日 3月1日	3	36
市民企画講座 子育てママのリフレッシュ講座	普段リフレッシュすることが少ない子育て中の母親を中心に、リース作り、ハーバリウム作り、寄せ植えやパステルシャインアートなどを行った。	9月5日 10月5日 11月28日 12月12日	4	30
あきう熟年のひろば	魅知国定席花座についての講話や健康・介護予防についての講話、音楽コンサートや植物の寄せ植え体験、音楽療法など、様々なジャンルの講話や実技の講座を実施した。	5月17日～ 2月21日	9	324
秋保郷土かるた大会	秋保の歴史や風土を綴った「秋保郷土かるた」を用いたかるた大会を実施した。かるたを通じて地域について再認識する機会になった。	1月12日	1	75
秋保地域出前講座	各町内会と連携し「ケーキ作り」「パステルアート体験」「いきいき脳活」など開催し、地域活性化につながった。	5月26日～ 12月16日	5	130
●地域防災力の向上 及び防災・減災講座	隣接する秋保中学校及び馬場小学校において、連合町内会・避難所運営委員会・各学校と連携して、避難訓練を兼ねた講習会を実施した。	6月10日 6月24日 11月18日	3	327
秋保ふるさと文化祭	地域住民のほか小中学校や児童館も参加し、舞台発表や作品展示を行った。イベント広場では、フリーマーケットやお茶席、子どもコーナー等を設けた。	9月29日 9月30日	2	550
秋保ふるさと展示会	秋保・里センターを会場に活動の成果を発表する場として作品展示会を行った。観光客など多くの方に作品を見ていただく機会となった。	10月12日 10月13日 10月14日	3	533
地域懇談会	秋保市民センターから遠方となる地区において実施した出前講座の終了後に懇談会を開催し、町内会役員及び地域住民と地域課題等に関する意見交換を行った。	8月2日 10月21日 1月27日	3	153
子育てママの市民企画会議	子育て中の母親が企画委員となり、自分たちがどのようなことを学びたいか検討をしながら、企画をし、講座の準備や運営をした。	7月18日 8月2日	2	15
秋保マイスター検定	地域住民を対象とした模擬検定会を2回実施した。引き続き本番に向けて問題の作成や検定会に向けた準備に取り組む。	6月16日～ 3月2日	10	250

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

いってみっぺ秋保（地域資源活用委員会）の活動支援

平成24年度の講座より立ち上がった「いってみっぺ秋保」では、地域資源を活かしたパンフレット作成を中心にガイドボランティアや地元ツアーの企画など秋保の魅力を発信する活動に積極的に取り組んでいる。パンフレットは平成30年度までで25コースが完成し、地域情報を発信している媒体として地域に広く浸透し始めている。

市民センターでは、活動の活性化を目指し、秋保総合支所と連携しながら定期的に情報交換を行っている。また、市民センターの主催講座において積極的にパンフレットを活用するほか、地域ガイドを依頼するなどして、活動の支援に努めている。

泉区中央市民センター

〔沿革〕

泉区中央市民センターは、昭和 22 年 9 月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和 43 年 7 月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成 16 年 1 月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	集まれ！元気な泉中央キッズ		
参加者	小学生または小学生親子	延参加者	202 人
開催日	全 9 回 7 月 21 日(土)、7 月 27 日(金)、10 月 13 日(土)、12 月 15 日(土)、1 月 25 日(金)、2 月 2 日(土)、2 月 9 日(土)、2 月 19 日(火)、2 月 23 日(土)		
協力者・協力団体	七北田味の歳時記、仙台商業高校、いずみ食文化友の会、仙台市天文台、野村小学校、七北田JLサークルありす		
ねらい	泉区中央市民センター管内には 3 つの小学校があり、比較的若い世代が多い。共働き世帯も多く、放課後や長期休みの子どもの居場所づくりが求められている。そこで、放課後や長期休みに安心して学び、遊べる居場所と多様な体験の機会を提供し、地域ぐるみで子どもの健全育成を図ることを目的とする。 また、近隣の小学校、高校などと連携し、地域における子育て支援ネットワークの充実を図ることを目的とする。		
概要・成果	泉区中央市民センターで活動しているサークルや地域の方々を講師として、小学生または小学生親子を対象に調理実習や高校の部活体験、お話し会等、様々なプログラムを実施した。子ども達にとっては、学校や学年を越えた交流が図られ、共に活動することを通して仲間意識を育むことができ、子ども達と地域の方々と顔の見える関係づくりもできた。 平成 30 年度は初めての試みとして、仙台商業高校での文化部体験を行った。生徒会が中心になって各文化部で小学生親子に部活動の体験をさせてもらい、参加した子ども達からは中学校の部活動が楽しみなになったなどの感想が聞かれた。また、仙台商業高校からは生徒が小学生と関わることは、とても貴重な体験となったというお話をいただき、次年度も継続実施することになった。市民センターから遠い野村小学校でも放課後に学校の図書室でお話会を実施することができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
● 泉区中央ルンルン子育て	地域の子育て支援団体との連携で「ふあんふあんフェスタ」、子育て中の保護者が気軽に参加できる「ズンバ」(託児付)「親子ピクス」「ベビーマッサージ」等を実施。和やかに子育て中の親子が交流した。	7 月 5 日 9 月 11 日 10 月 5 日 11 月 16 日	4	176
歴史講座「七北田今昔物語」	地元の様々な地域の史実を学習した後、実際にまち歩きをすることで、住民の地域への理解と愛着を深めることができた。	7 月 7 日～ 10 月 6 日	4	97

大人の自分みがき講座	何かを始めたい方が気軽に参加し、交流を図ることを目的に地域活動・地域貢献・仲間づくりにつなげることを目標に講座を実施。「軽体操で身体メンテナンス」を夜間開催で、「ブックトーク・ストーリーテリング」を泉図書館連携で実施、「折り紙リース作り」では作品を老人福祉施設に作品を届け、入所者と一緒に作品作りをした。	9月14日～ 12月6日	8	97
心も身体もリフレッシュ	「日常気軽にできる運動」を習慣にして、健康意識の向上を目標に9回シリーズで実施した。健康意識の向上とともに仲間意識も高まり、効果を上げた。	6月20日～ 2月20日	9	334
老壮大学「泉シニア塾」	年2回の館外学習、もの作り、ゲームの実技の他、社会貢献や文学の楽しみ方の講話など多様な学びを提供。講座を通して交流が深まり仲間づくりに繋がっていった。	5月9日～ 2月13日	9	765
★泉中央減災講座	1回目は、家庭における防災対策についての講話とグループワーク、2回目は仙台管区気象台職員による出前講座を実施し、大雨の場合の避難の仕方について学んだ。	9月7日 9月14日	2	23
まつりだよ！泉区中央！	3回の実行委員会を経て開催。平成30年度よりステージ7団体・展示2団体が新しく参加し、実行委員会構成団体も昨年を上回った。地域内の高校・大学からボランティア協力を受け、多くの団体、人々が交流する機会となった。	10月28日	1	856
泉区中央市民センター地域懇話会	地域団体対象と施設利用団体対象に2回実施した。それぞれから館運営や事業に関して直接意見や要望を聞くことができた。	11月2日 11月30日	2	32
市民企画会議	泉中央地域は学生や転勤族などの転出入が多く、諸団体と新旧地域住民とのコミュニケーションの希薄化が課題となっていた。平成30年度は、各団体・地域の課題を見つけるための情報収集に重点を置き、地域課題として、高齢化・子育ての孤立化などが浮上した。高齢になっても地域で元気に過ごしたいということから、最近耳にするようになったロコモティブシンドロームについて、運動と食事の面から学習することにし、ロコモ健康セミナーを企画した。	5月16日～ 3月23日	10	52

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

泉区中央市民センターの利用団体、サークルの活動支援

地域や市民センターで活動している音楽サークルやダンスサークルなどを募集し、市民センターのロビーや福祉施設、センターから離れている町内会のコミュニティセンターなどに仲介して施設や町内会の方々に音楽やダンスを鑑賞する機会を提供した。老人福祉施設望岳荘は芸能サークルの有志で民謡・舞踊の提供、天神沢町内会敬老会でフラダンスサークルによるダンス披露、市民センターロビーでの大正琴演奏と体験会、音楽室では、音楽サークル「あんだんてカノン」によるスプリングコンサートを実施。サークル等には発表する場を提供して活動の活性化の支援をしている。

根白石市民センター

〔沿革〕

根白石市民センターは、昭和21年11月、根白石小学校内に設置され、昭和23年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和28年に公民館新築促進が決議されてから10年の経過を経て、和38年7月、待望の公民館が移転新築された。以来20年余、根白石唯一の社会教育施設として活動が続けてきたが、老朽化により昭和63年4月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

平成28年度に大規模修繕工事を行い、建物の耐久性の向上とともに内外装の一新、各部屋の照明LED化や空調機の更新による省エネ化、トイレの洋式化や外靴のままで入館できるようになった等、利便性が向上した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「かむりの里いきいきプロジェクト」		
参加者	地域団体、地域住民	延参加者	133人
開催日	全10回 6月6日(水)～1月30日(水)		
協力者・協力団体	泉西部地区連合町内会、ふるさと創生会、根白石商店会、仙台風の会、昔遊びボランティア、根白石小学校、福岡小学校、実沢小学校、根白石中学校、根白石児童館、館児童センター、住吉台児童センター、根白石温水プール、泉西部地区老連、地域内各小学校区子ども会育成会、各小学校PTA		
ねらい	「地域資源の蓄積力」「地域への関心力」を高めていく取り組みとして、若い世代を取り込んで豊かな歴史資源・自然資源・コミュニティ資源を活かした、人々が共に生きる活気のある「まち」づくりを目指す。地域の良さを再認識し、その良さを発信し、地域で活躍する人材の養成を目的とする。		
概要・成果	地域住民と地域団体代表7人のメンバーで地域課題について話し合い、地域資源の発信のきっかけづくりとして取り組めるものを検討し、「わら馬をつくろう」「坐禅・茶席体験」は毎年行うことにした。「地元産大豆を使った豆腐づくり」と「するめ天旗の制作と販売」にも取り組んでいるが、豆腐は技術的な課題が残っている。また、するめ天旗は数件の店や施設に展示してもらっており、外国人の伝統文化体験活動に展開できるかどうか検討中である。まだ、課題は多いが、地元にこだわることで、何かができそうだという雰囲気になってきている。「風揚げフェスタ」に対しても、地域団体が積極的に関わるようになってきた。		

〔平成30年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
根白石の正月行事 ～いっしょに作ろう～	地域の伝統行事や文化を伝えていくために、「藁で作るクリスマスリース」や「いっしょに作ろうだんごさし」の講座を実施した。	11月25日 1月13日	2	36
虫の声を楽しむ会	虫の声を頼りに虫探しをして、先人の環境への関わり方を知り、地域の環境に親しんだ。	9月7日	1	20
あつまれ！元気キッズ	福岡と実沢の両小学校で「キラキラしゃぼん玉」「キラキラスノードーム」を作った。高学年が低学年の面倒を見たり、細かい作業を工夫して仕上げたりと、学年を越えて取り組んだ。	6月27日 7月18日 10月24日 10月31日	4	43

4 校区合同インリーダー研修会	「ゲーム・レクリエーション演習」(児童・世話人対象)、講話「子ども会のリーダーとは」・実習「プログラム立案」(児童対象)、講話「子ども会と世話人の役割」・座談会(世話人対象)を実施し、インリーダーのスキルや役割を学んだ。	7 月 21 日	1	43
ジュニアリーダーと遊ぼう！	市民センターまつりを子どもにも楽しんでもらえるようパルーンアートの体験コーナーを実施した。昨年度の経験者から未経験者にノウハウが伝講され、ジュニアリーダーの資質の向上にもつながった。	11 月 17 日	1	100
凧作り教室	子どもたちに伝統凧に親しんでもらうため、住吉台児童センター、根白石児童館、館児童センター、福岡小学校、実沢小学校、町内会(根白石・西田中)、根白石小学校等でボランティアの指導による凧作り教室を開催した。	9 月 15 日～ 11 月 21 日	8	128
小学校社会学級連携事業 「かむりの里の魅力探訪」	あまり知られていない地域資源である肉牛の畜産とりんごの生産に着目し、畜産牧場とりんご園を見学し、地域の新たな発見につながった。社会学級と連携したことで、若い世代も参加した。	10 月 4 日	1	25
さわやか大学	シルバー世代を対象に、笑って学ぶ健康雑学・せんくらの楽しみ方・かむりの里コンサート・年中行事の話・気軽にアート体験・転倒予防・ヨーグルトで健康・ふるさと仙台の歴史等、様々な学びの場を提供した。	5 月 17 日～ 2 月 21 日	10	654
出前講座	市民センターへ来館できない高齢者のために地域の集会所やコミュニティセンター等へ出前講座を行った。音楽鑑賞「オカリナ演奏で歌いましょう」、民話方言学習「民話を楽しもう」、演芸鑑賞「人生いろいろ、笑いがいちばん！！」(3 回)等を実施。	5 月 30 日～ 1 月 14 日	8	178
冠のふるさと伝承まつり	各地区に伝わる郷土芸能(アセ踊り、大正踊り、鹿踊り、剣舞、しの笛)の伝承のため発表会を行った。また、併せて地域ぐるみ健全育成標語の表彰や東北大学留学生との交流会も行った。	10 月 20 日	1	425
●ふれあいウォーキング～共助のまち・根白石～	地域住民の健康維持と防災意識の向上、交流を図ることを目的に徒歩避難訓練(各集会所→小学校)、エコノミークラス症候群予防体操、簡易トイレ組み立て訓練、防災すごろくゲームを行った。	11 月 3 日	1	121
根白石市民センターまつり	舞台発表・展示・体験コーナーともに、日頃の学習や練習の成果を発揮した。根白石おもしろ市との同日開催として実施し、地域住民や利用者の交流の場となった。	11 月 17 日	1	500
地域懇話会	第 1 回を「泉西部地区連合町内会・泉区ふるさと支援担当課の懇談」、第 2 回を「センターまつり実行委員会反省会」に合わせて開催し、地域住民のご意見を伺った。	4 月 17 日 11 月 29 日	2	41
根白石ガイドボランティア実践講座	地域の史跡や歴史の情報発信を行うボランティア養成のための講座を開催した。コースや時間配分の計画、資料作りを自分達で行い、下見も含め検討を重ね、4 コースのガイドプランを作り、「根白石ガイドボランティアと歩く根白石の史跡」4 回と反省会を実施した。	5 月 9 日～ 7 月 4 日	5	64
市民企画講座「かむりの里いきいきプロジェクト」	かむりの里いきいきプロジェクト企画会議で企画した「わら馬(七夕馬)づくり」、「かむりの里凧揚げフェスタ」を開催した。	6 月 6 日～ 1 月 30 日	10	133

【平成 30 年度(地区館)活動支援・コーディネート等の成果例】

「根白石ガイドボランティア」の活動支援

定期的に学習会を実施するとともに、様々な依頼に応じた根白石のガイド実践を行いながら、新規メンバーの獲得や育成を図っている。また、歴史について知識を深めるだけでなく、活動のさらなる自立や活性化を目指すために、サークル運営のノウハウについても学びたいと考えようになった。

そこで、市民センターでは泉区中央市民センターの支援も受けながら、ボランティアガイド活動の実績のある団体から、実際のガイドの仕方やサークル運営の仕方等について学ぶ機会を設け、岩切と秋保のボランティア団体を訪ね情報交換会を実施した。

南光台市民センター

〔沿革〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が全壊したが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが新築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開館した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型事業「南光台シアター」		
参加者	小学生	延参加者	257名
開催日	全 12 回 7 月 21 日（土）～3 月 2 日（土）		
協力者・協力団体	南光台小学校、南光台中学校、南光台東小学校、南光台東中学校、南光台校区子ども会育成会、なんでもクラブ、南光台おやじの会		
ねらい	地域社会の要請として青少年が参画する事業の開設への期待が背景としてある。そこで、児童生徒の思いや考えを活動で実現し、企画運営することの楽しさ、大変さ、さらには、地域での活動の大切さ、喜びを実感してもらい、そこから、参画することへの意義も感じ、地域の力となる人材育成へとつなげていく。		
概要・成果	市民センターの募集に応募した地域の小学生 4 名を企画委員に、9 回の話し合いで考えをまとめ、9 月と 2 月の 2 回「南光台シアター」を開催した。1 回目は 3 本の映画上映と後半はドッジビー大会、2 回目には 4 本の映画上映とクイズ大会、だるまさんがころんだ、王様じゃんけんで盛り上がった。結果、延べ 300 人近い小学生が参加する映画会を開催することができた。この企画・運営を通して企画委員一人ひとりが確実に成長したことも大きな成果であり、今後、地域への貢献が期待できる。加えて、以下のような成果があった。 ・委員の発想を生かすことで、大人が考えない活動内容が実施できた。 ・映画会そのものを企画委員が進めることで、委員の自覚と実行力が育ち、参加した小学生との一体感が増し、1 回目より 2 回目の運営の方がスムーズにいくなど、成長が見られた。 ・入場整理券を二つの小学校でそれぞれ配ったことで、参加人数の予想、参加者の内訳等の把握ができ、概ね準備した範囲での対応ができた。 ・南光台校区子ども会育成会、南光台おやじの会、泉区中央市民センター等、外部の支援を手厚くいただき、企画委員が考えた内容を実現することができた。 ・企画委員 4 名が友達同士で仲がよく、事前に意見調整をしてくるなど、スムーズに話し合いを行うことができ、少人数の利点を生かして進めることができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●南光台スマイルひろば	「読み聞かせ」「昔あそび」「折り紙」「ハーモニカ演奏」「育児相談」等を開催し、親子同士の交流とボランティア団体との世代間交流を図った。	6 月 13 日～ 3 月 1 日	19	202
ちびっこフェスタ 南光台 6 館合同事業	近隣の児童館と 6 館合同で乳幼児親子向けの事業を行うことで、地域課題を共有し、地域課題の解決に取り組み、更には、児童館、児童センター、市民センターの事業について知ってもらう機会となった。	11 月 7 日	1	296

ジュニアリーダーとあそぼう！	ジュニアリーダーが地域の児童館や地域の昔あそびサークルなど地域の幅広い年齢の方と関わりながら企画・運営し、地域の子ども同士の交流、ジュニアリーダーとの交流を図った。また、二つの小学校の交流も図ることができた。	8月3日～ 3月21日	4	266
ワケルくんと学ぼう	南光台小学校、南光台東小学校の4年生対象に環境問題について、「地球温暖化の講話」や「ゴミ分別方法」を学習し、家庭でも実施できるよう意識づけを行った。	6月26日 8月31日	2	159
～ミドルエイジからの地域デビュー～	地域のみドルエイジ世代を対象に講座を実施し、この講座から地域ボランティア「南光台おやじの会」が結成され、市民センター事業や小学校のサポーターとして活動開始した。	7月21日～ 3月16日	18	43
南光台学院	地域の高齢者を対象に、コンサート、医療講話、陶芸、館外学習ではNHK仙台放送局の見学を実施。運営委員自主企画では移動学習と「新春の会」を実施した。	5月18日～ 2月15日	10	808
市民センターがやってくる！	地域の三つの連合町内会と各々共催し、コミュニティセンターや集会所で出前コンサート、寄席、イベントを開催。他に児童館との共催でも開催した。	7月20日～ 2月23日	6	550
南光台市民センターまつり	サークル、小中学校、町内会、地域団体が舞台・展示・バザーなどを行った。又、地元の中学生に運営に関わってもらうことでまつりの参加者や来館した大人たちとの間に新たな交流が生まれた。	10月13日 10月14日	2	1,600
●南光台地域防災講座	南光台のそれぞれの地域で小中学校や地域住民が中心となり、合同で防災訓練を行った。参加型の訓練を行うことによって、いざという時に積極的に自らの頭で考える訓練が出来た。	6月4日～ 11月3日	4	1,209
南光台市民企画会議	『地域問題の解決』と『地域での交流』をテーマに企画を立案し「親子でチャレンジ」を実施した。	6月27日～ 12月23日	5	15
親子でチャレンジ	地域の小学生親子を対象に、「日本の伝統行事」をテーマにした調理実習「おせち」と門松作りを実施。	11月23日 12月23日	2	43
南光台市民センター懇談会	町内会や地域団体、学校、市民センター利用サークルとの話合いの場を設け、更に地域に根ざした市民センターを目指し、地域課題や地域ニーズを把握した。	10月17日 10月19日	2	34

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「南光台おやじの会」の活動支援

「南光台おやじの会」は、平成30年度の複数年事業「ミドルエイジからの地域デビュー」から発足した南光台地域を対象としたボランティア団体である。初年度の活動は、実質は10月の市民センターまつりでの駐車場整理・誘導、出店のお手伝いからスタートした。その時点でのメンバーは3名であったが、一人ひとりが地域へ何か貢献したいという強い思いがあり、その後も、市民センターが間に入りながら、要請のある活動を紹介し、繋げ、支援を行ってきた。お揃いのロゴ入りTシャツを身につけて、商店街振興組合主催の「ふれあい市」での清掃活動、小学校の昔あそびのサポート等、積極的に取り組んできている。

複数年事業でもあり、今後もボランティア活動の後押しをしながら、メンバーや活動範囲の拡大を進めていきたいと考えている。

黒松市民センター

〔沿革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄南北線黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	わんぱく親子農園		
参加者	黒松小学校・八乙女小学校児童と保護者	延参加者	184 人
開催日	全 8 回 5 月 6 日（日）～11 月 10 日（土）		
協力者・協力団体	黒松寿会（老人会）、黒松地区社会福祉協議会、宮城大学食産業学群		
ねらい	黒松寿会が管理している老人憩の家に農園を作り、小学生親子が地域内の高齢者と交流しながら農作業を通して、食の大切さについて学ぶ食育の場、世代間交流の場、高齢者への労わりの気持ちを育む場として定着することを目指す。 黒松寿会が主体的に関わっていくことは、今後地域内で積極的に子ども達と関わっていく団体へとつながっていくことにもつながる。		
概要・成果	小学生親子が、畝づくり、種まき、苗植え、草取りなどの栽培管理、収穫、調理と一連の農園活動の体験を通して作物の成長の一部始終を知ること、自然や食について学ぶことができた。親子はもとより、他校の児童と協力したり、高学年が低学年を手助けしたり、児童同士の交流も図られた。また、子ども達と黒松寿会（老人会）とは、講座の中で昔遊びや収穫祭・食事交流会でも交流し、その後も道で挨拶を交わすなど交流が続いている。夏休みの作品づくりの呼び掛けにも多くの児童が応え、センターまつりで作品を発表した。その際に寿会から習った折り紙で作品を作るなど学んだ成果が出ている。 講座後、寿会の有志と受講生の有志で自主サークル「黒松やさいガーデン」を立ち上げ、野菜づくりを通じた交流をしていくこととなった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママのほっとカフェ	子育て中の母親の孤立や悩みの解決を目的に、第 1 回で子育て中の母親から講座への要望を聴取し、以降の内容を決定した。ゴスペル体験、怒鳴らない子育て講習、託児付のパンづくり、交流会を行った。	5 月 24 日～ 2 月 22 日	6	42
わくわく子どもの時間	学校や家庭外での体験学習の機会が少なくなっている小学生に向けて、ジュニアリーダーとレクゲームや黒松卓球愛好会と卓球、種子の観察や氷と砂糖を使つての実験、パーティーメニュー作りを行った。	7 月 31 日 8 月 22 日 12 月 22 日	3	77
★●防災プロジェクト 2018 —その時わたし達にできる事—	地域防災力の向上と中学生の地域貢献のために、中学校区の小中学校 3 校と 2 連合町内会等が連携し、検討会や全体会を開催し、中学生と地域の大人と一緒に防災訓練を行った。	4 月 17 日～ 11 月 21 日	7	2, 213

メンズクラブ～男たちの集い～	男性の地域での仲間づくりのために、とんぼ玉づくり、男の家庭料理、お茶の入れ方を学んだ。第4回は、料理のおさらいなど受講生が学んだことを活かした交流会を行った。	11月24日 12月8日 1月12日 2月23日	4	24
いろどり工房	地域住民が工芸・手芸を通して交流し地域とかかわりを持つことを目標に、ポップアップカードづくり、ちぎり絵風の挨拶状づくり、指編み、編組み細工を行った。	7月7日～ 2月2日	6	52
黒松寿大学	高齢者の生きがいづくりのために、開講式、閉講式、演奏会、館外学習、懇親会、健康体操、文学・音楽・防犯・歴史の講話などを行った。後半の講座は運営委員会で話し合い内容を決めた。	5月17日～ 2月21日	9	603
元気アップ生活～ボッチャで健康～	高齢者の介護予防と地域での仲間づくりのために、申込不要でお茶を飲みながら気軽にボッチャの練習ができるボッチャカフェと、3人1組のチームがトーナメント式で競うボッチャ大会を行った。	6月28日 8月30日 10月25日	3	82
真美沢公園元気プロジェクト	地域資源を活用した人の交流によるまちづくりを目標に、真美沢公園を美しくする会と連携してPRイベント（桜まつり、自然観察会、コンサート、植樹祭）環境整備（草刈、花植え）活動報告会、定例会を実施した。	4月14日～ 3月16日	16	568
黒松市民センター・黒松児童館まつり	地域住民の交流と日頃の学習の成果の発表の場として、黒松市民センターや黒松児童館を拠点に活動している団体や地域住民が、ステージ発表、作品展示、あそびのコーナー、お化け屋敷、炊き出し訓練等を行った。	9月22日	1	1,269
地域懇話会	地域の意見が反映されたより良い市民センター事業のために、青少年健全育成と地域防災訓練をテーマに、地域関係団体等との意見交換、情報交換の場を設けた。	11月16日 11月21日	2	33
学びの広場企画会	社会の動きに対する学びの要望に応えるために、地域に居ながらにして現代的課題について学べる場を、住民自ら企画し実施運営する企画会を開催し、「おらほのワインづくり～秋保ワイナリーが考える未来の地域像」を企画・実施した。	6月20～ 3月6日	11	26
市民企画講座「おらほのワインづくり～秋保ワイナリーの考える未来の地域像」	地域課題への取り組み方の事例を学び地域での活動へ活かすため、秋保と南三陸の地元産ワインづくりが導く新たな地域おこしについて講話、トークセッション、見学を行った。進行などの運営は市民企画員が行った。	1月23日 1月30日 2月6日	3	65

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「防災プロジェクト2018」「元気アップ生活～ボッチャで健康」でのコーディネート

「防災プロジェクト2018」では市民センターと地域内の連合町内会、単位町内会、マンション、小中学校が連携し、同日開催の総合防災訓練を行った。中学生が自分の町内会での訓練に円滑に参加できるよう、中学校と町内会・小学校を繋いだ。訓練当日以外に検討会などをコーディネートしたことで、各団体が顔を合わせる機会が増え、地域の防災についての認識を共有することができた。町内会の無いマンションともつながりが生まれた。

「元気アップ生活～ボッチャで健康」は市民センターがコーディネートし、黒松地区社会福祉協議会、八乙女地区会福祉協議会、八乙女地域包括支援センターと話し合いを持ち開催している。話し合いの場では地域の高齢者福祉について情報交換・共有が行われた。また、講師と地域を繋ぐことでサロン活動などの新しい動きに反映された。

将監市民センター

〔沿革〕

将監市民センターは、昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月には「将監市民センター」と改称された。

平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月に再開し現在に至っている。当市民センターは、軽スポーツ活動が可能な多目的ホールを有し、多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	将監「ふるさと」づくりプロジェクト～将監沼を楽しもう～		
参加者	小学生親子	延参加者	203 人
開催日	全 5 回 5 月 19 日(土)、6 月 2 日(土)、7 月 21 日(土)、9 月 15 日(土)、11 月 17 日(土)		
協力者・協力団体	連携:将監沼育林ボランティア、「将監沼の自然」とふれあいを育む会、将監こども楽校、将監中央小学校おやじの会		
ねらい	地域資源である将監沼を次世代に引き継ぐため、将監沼を活用した事業を行い、子どもから大人まで幅広い世代に将監沼の利用を促進することにより「ふるさと」将監への愛着を醸成する。 また、市民センターで養成した「将監沼育林ボランティア」が、学校の授業や地域行事等で活動できる環境づくりを目指す。		
概要・成果	将監沼の自然の中でカブトムシを育てる試みや平成 29 年度に作成した将監沼散策マップを活用したウォークラリーを実施した。地域の子どもや親世代からも関心が高く、幅広い世代の方々が興味を持って毎回楽しみに参加し、地域資源にふれる機会を提供することができた。 この事業を通して、「将監沼育林ボランティア」のメンバーも積極的に事業に関わるなど、活動の場が広がっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子どもチャレンジ	小学生を対象に「うきうきクッキング」「カメラであそぼう」「光のマジック体験をしてみよう」「秋の将監沼探検」「冬休みスポーツ」などを実施。	6 月 27 日～ 12 月 27 日	5	85
将監地域防災講座 ～みんなで防災～	将監地区社会福祉協議会、将監中央小学校おやじの会、将監 S B L 会との共催及び地域諸団体の協力を受けて小学生向け防災キャンプ及び住民向けの講義と体験の講座を実施。	8 月 4 日 8 月 5 日 2 月 23 日	3	232
将監寿大学	コンサート、歴史講話、ひざ痛・腰痛予防の講話と実技、館外学習、公開講座「六華亭遊花」独演会、受講生企画「認知症の方の接し方を学ぶ」、運営委員会企画「お楽しみ会」を実施。	5 月～2 月	9	535
みんななかよくグラ ウンドゴルフ大会	地域の児童館 3 館と共催し子どもから高齢者まで世代間交流が図れるよう企画会議を経て実施。毎年行うグラウンドゴルフ大会は地域住民にも根付いている。	6 月 8 日 8 月 30 日 9 月 8 日 9 月 20 日	4	72

将監和みサロン	地域内集会所を会場に大正琴やトーンチャイムのミニコンサート及び交流会を出前で実施。	5月29日 6月21日 7月11日 11月21日	4	228
みんなの居場所をつくろう	20人の企画員が「夏のつどい」「居場所カフェ・元気っ子広場」「冬の居場所カフェ」「早春の居場所カフェ」など地域交流イベントやカフェの企画運営を行った。	5月～2月	11	692
将監市民センターまつり	センター利用団体、サークル、地域の諸団体等で実行委員会を編成し、日頃の学習成果を発表。	9月29日 9月30日	2	2,300
将監ふれあいコンサート	「将監沼の自然」とふれあいを育む会と将監地区社会福祉協議会との共催。今年度はジャズオーケストラによる演奏。毎年、地域全体で取り組み活性化につながっている。	11月11日	1	400
将監地域懇談会	将監地区のまちづくり・人づくりに関わる団体や学校関係者が一堂に会し、相互の活動や現状の課題について話し合い・情報交換を実施した。	12月12日 2月16日	2	16

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「将監沼育林ボランティア」の活動支援

平成29年度複数年事業「将監沼育林ボランティア養成講座」から立ち上がった「将監沼育林ボランティア」は、地域活動の一環として市民センター事業への協力や地域の子どものために「将監沼」や「カブトムシの養殖床」の整備を行っている。

市民センターは、地域の小学校へメンバーが作成した「将監沼散策マップ」を配付し、教材として活用してもらったり、ボランティアとして人材紹介を行ったりするなど、「将監沼育林ボランティア」が地域で活動を広げる支援を行った。

加茂市民センター

〔沿革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ヶ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ヶ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	まるごとチャレンジキッズ		
参加者	小学生	延参加者	84 人
開催日	全 5 回 7 月 14 日（土）、8 月 21 日（火）、12 月 8 日（土）、1 月 12 日（土）、2 月 23 日（土）		
協力者・協力団体	食育ボランティアサークルエプロンの会		
ねらい	学区エリアの広い加茂地域では、地域内にある加茂小学校と虹の丘小学校が日常交流する機会は少ない。そこで、学校や学年の異なる子どもたちに様々な体験や交流する機会を提供し、コミュニケーション力や社会性を育むとともに、中学校入学前の児童の仲間づくりの機会とする。		
概要・成果	加茂児童センター・虹の丘児童センターと連携し、小学生を対象に液体窒素を使った科学実験、地下鉄荒井車両基地見学、フラワーアレンジメント、カラーリング、調理実習の計 5 回の講座を実施し、子どもたちに様々な体験と交流の場を提供した。 地下鉄荒井車両基地見学では、加茂地域と虹の丘地域の 2 つの異なる小学校区から加茂中学校へ入学する子どもたちが、お互いに触れ合い、交流することによりコミュニケーションを図る機会となるよう取り組んだ。 また、カラーリングでは地域の大人と合同チームを作りチーム対抗戦を行ったところ、参加した子どもたちからは「地域の人たちといっぱい話ができて楽しかった」という声も聞かれるなど、世代間交流が図られた。 これらの様々な体験や交流を通し、子どもたちの社会性やコミュニケーション力を育むことができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子でエンジョイ	親子の触れ合いを深めることを目的に、親子リトミック（加茂児童センター連携）・寄せ植え作り・親子ピクス（虹の丘児童センター連携）を実施した。	7 月 3 日 9 月 22 日 12 月 4 日	3	90
歌声ひびくまち	誰でも気軽に参加できる歌うことを学ぶ講座を開催した。発声・発音等の歌唱の基礎を学習したのち、地域のデイサービスセンターの敬老会に参加し、歌を通じた地域交流を図った。	7 月 13 日～ 11 月 2 日	8	211

ワイワイ若がえり塾	高齢者が健康で心豊かに過ごせるよう、健康講話（嚥下体操）・シナプソロジー・朗読鑑賞・歌の実技・NHK仙台放送局への館外学習・公開講座コンサート・交流ゲーム・笑いがもたらす健康・歴史講座などを年間通して実施した。	5月17日～ 2月21日	9	508
ハロウィンがやってきた	地域の高齢者と小学生の交流を目的として、高齢者宅を訪問しながら町内を歩くハロウィンパレードを実施。訪問先では子ども達手作りのプレゼントとお菓子を交換しながら交流を図った。また、後日講座の様子の写真をセンターロビーにて紹介した。	9月22日 10月6日	2	50
寄り道サロン	地理的条件等により普段市民センターに来館できない地域住民にも生涯学習の機会を提供するため出前講座を行った。そば打ち体験（連続2回）、ベビーヨガ、篠笛と和太鼓のコンサートを行った。	9月5日 9月19日 11月27日 3月2日	4	94
加茂サロンコンサート	地域住民の方に市民センターを身近に感じ交流してもらえるように高齢者施設の交流ホールでピアノ弾き語りとフラのコラボ演奏会を実施した。また市民センターを会場にギターコンサートを開催した。	9月26日 2月7日	2	180
加茂市民センターまつり	地域住民の交流と地域の活性化を目的とし、学習成果の発表として作品展示・ステージ発表を行い、交流として子どものひろば・体験コーナー・イベントコーナー・お楽しみ抽選会などを実施した。	10月20日 10月21日	2	1,050
災害から身を守るために	災害への対応力の向上と共助意識の醸成を図るため、加茂中学校3年生を対象に簡易トイレ組立・担架搬送の訓練と地域の方を対象に救急救命・応急手当法の講習会や防災講話「昨今の異常気象について」を実施した。	5月30日 6月24日 11月18日	3	228
地域懇談会	市民センター運営や地域づくりに活かしていくために市民センター利用サークルや加茂・上谷刈地区各種団体、虹の丘・みずほ台地区各種団体と地域の課題・問題等について情報・意見の交換を行った。	7月7日 1月25日 2月2日	3	58
市民企画会議「加茂みんなの散策倶楽部」	地域の魅力を楽しみながら再発見するにはどうすれば良いかということをテーマに市民企画員が集まり、企画会議を重ねた。会議を経て散策2回、調理実習1回の計3回の講座を企画・実施した。	5月24日～ 2月28日	10	40
市民企画講座「エンジョイ加茂」	鮭の遡上ポイントなど、まだあまり知られていない地域の魅力を紹介するため、散策講座を2回実施した。また、散策講座に関連付けた調理実習を1回実施した。	10月25日 11月29日 3月9日	3	38

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「泉中央南・上谷刈地区連絡会」の活動支援

加茂市民センターが参加している「泉中央南・上谷刈連絡会」は、泉区家庭健康課ならびに近隣福祉施設等の職員が集まり、地域課題の共有と情報交換を目的としている。この連絡会の中で泉中央南市営住宅の男性入居者の地域行事への参加率が低く、地域との関わりが希薄であることが地域課題として挙げられた。この課題解決のため泉中央南市営住宅男性入居者を対象に、地域と関わるきっかけづくりを目的とした講座を企画・実施する「男性向け講座ワーキンググループ」が立ち上がった。加茂市民センターでは、当センターを中心に活動している「青葉手打ちそば加茂同好会」のメンバーを講師として紹介し、「そば打ち体験会～俺のそば（蕎麦）に来ないか～」(9月に2回実施)の開催を支援した。今まで地域行事に参加したことのない方々の参加も得られ、住民間の良い交流を図ることができた。また、この男性向け企画の総称を「男の手習い」と名付けシリーズ化し、この企画は次年度以降も継続し、地域住民間の交流促進支援活動につなげていく。

高森市民センター

〔沿革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年４月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。

高森地区は、昭和 40 年代後期から、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園など豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体を中心となり、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	高森野鳥の森を育てよう		
参加者	高森小学校、高森東小学校児童	延参加者	334 人
開催日	全 7 回 8 月 8 日（水）、9 月 7 日（金）（※高森小 1 回、高森東小 1 回） 10 月 31 日（水）、11 月 7 日（水）、12 月 5 日（水）、12 月 11 日（火）		
協力者・協力団体	高森東ふるさとづくりの会、高森中学校、日本野鳥の会宮城県支部		
ねらい	高森地域は、泉パークタウンの中心部に位置し、自然豊かな公園や堤などが整備された住宅地である。高森の自然環境保護の必要性を子どもたちに伝えるため、自分たちのふるさとにある公園や堤に生息する野鳥観察等とおし、自然の素晴らしさを再認識する機会を提供していく。また、地域ボランティア団体と小中学校が共催することにより地域に根差した事業展開を図る。		
概要・成果	高森小学校、高森東小学校の 3 年生児童を対象に、春と冬の季節ごとの野鳥観察会、巣箱作り、設置、営巣観察を行った。 9 月に行った巣箱づくりでは、高森中学校 2 年生 50 名が高森小学校、高森東小学校の 2 校へ出向き、小学生の巣箱づくりを手伝い、異年齢交流が図られた。また、中学生は自分が小学生のときに教えてもらった巣箱づくりを今度は小学生へと教える立場となったことも良い経験となった。 10 月には各小学校に新しい巣箱を設置し、取り外した昨年の巣箱から営巣の観察を行い、12 月には高森緑地公園、高森東公園で野鳥観察会を実施した。 これらの活動を通して、子どもたちが高森の自然の素晴らしさや、自然環境を守る地域ボランティアの存在を知る機会となった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
高森地域子育て支援講座	高森地域で子育てをしている保護者が、リフレッシュして前向きに子育てできることを目標に、託児付で「ママのデコ弁作り」、親子一緒に「ちいさいにんぎょうげきまるぺと」による人形劇の鑑賞を行った。	11 月 9 日 11 月 27 日	2	56
インリーダー研修会	次年度の子ども会リーダーを育成するために、小学生を対象にインリーダーについての講話および、行事プログラムの作成演習、保護者を対象とした「子ども会活動と地域コミュニケーションについて」の講話、ジュニアリーダーによる、児童・保護者合同のレクリエーション演習などを行った。	11 月 17 日	1	47

高森きつずチャレンジ	高森地域の2つの小学校の児童達を対象に、高森地区の児童館と連携し、地域や学区を越えた交流を通して、子ども達の視野を広げるきっかけづくりを目標に、実験「カルメ焼きを科学しよう」、実技「トライ!TRY!ソフトラクロス!」を行った。	5月12日 10月24日	2	39
高森塾（老壮大学）	地域の高齢者の生きがいづくりと交流の場の提供のため、講話「我ら笑楽生。花の十代」「遺跡等から学ぶ災害の歴史」「高森周辺ため池と土地改良区の役割について」「チョコレートの世界へようこそ」、実技「ディスコン体験」「コミュニケーション麻雀」、演奏会「うたごえ喫茶でらららコンサート」「クラヴィコードの響き」、施設見学「NHK仙台放送局」を開催した。	5月25日～ 2月22日	9	499
ウェルカム世代間交流	地域全体の世代間交流を目標に、第一部「地域の小学生による和太鼓演奏・合唱」、第二部「来場者参加型のカントリーラインダンス体験」、第三部「全員参加のクイズ大会」などを行った。	10月20日	1	164
★●みんなで学ぶ地域防災	地域防災への意識と課題対応力を深めるために、2つの連合町内会および、地域の小中学校連携による防災訓練の実施、小学6年生を対象とした「クロスロードゲーム」などを行った。	10月13日 12月20日	4	822
高森市民センターまつり	地域住民に交流の場を提供し、住民同士のコミュニケーションを図ることを目標に、センター利用団体や地域活動団体の生涯学習発表の場として開催。オープニングセレモニー、作品展示、ステージ発表、子どもの広場、出店、ダンスパーティー、抽選会などを行った。	9月22日 9月23日	2	1,950
高森絆コンサート	住民同士の交流を深めることを目標に、地域の幼稚園や保育園、小中学生、サークルなどが出演するコンサート。1、2回目は高森東公園「音楽広場」で開催。3回目は、市民センターホールにてジャズコンサートを開催した。	7月5日 11月7日 12月1日	3	702
高森地域懇談会	地域の課題やニーズを把握し、市民センターの運営に生かすことを目的に、町内会をはじめ地域の諸団体や市民センター利用団体等と懇談会を行った。	6月22日 10月6日 12月11日	3	36
市民企画講座「知っておきたい介護のいろは～いざという時のために～」	高森地域は高齢化が進み、今後介護が必要になった時に備え、講話「介護サービスの仕組みとポイントについて」「認知症の理解とコミュニケーションの取り方について」、講話と実技「車椅子操作の体験と介助の仕方について」等の、介護に関する講座を開催した。	2月2日 2月16日 2月23日	3	66
複数年度事業 市民企画会議「魅力あふれる高森をめざして」	地元で暮らすことに対する愛着を深め、次世代を担う人材の発掘や育成を目標に、情報交換を行った。その中で見つけた課題をもとに取り組むべきテーマを決め、講座を企画・運営した。	6月13日～ 2月23日	8	33

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「高森学童農園支援ボランティア」の活動支援

管内の小学校、保育園では教育の一環として学童農園での学習を取り入れている。高森市民センターでは数年にわたり、「畑の先生」として自らの知識や技術を子ども達や教員に指導する、学童農園支援ボランティアを養成する講座を行ってきた。この講座から立ち上がったボランティアのメンバーは野菜の植え付けや田植え指導など、農作業をとおして地域の子どもの学びを支える活動を行っている。市民センターは、学校等との連絡調整やボランティアのスキルアップのための座学などを開催し、活動を支援している。

松陵市民センター

〔沿革〕

松陵市民センターは、平成 2 年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の 6 つの町を担当エリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。子どもの減少により、松陵地区では平成 25 年度から 2 つの小学校が統合されるなど一般的に少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	第 27 回松陵ふれあいコンサート		
参加者	地域住民	延参加者	400 人
開催日	全 1 回 10 月 28 日(日)		
協力者・協力団体	松陵中学校、泉松陵小学校、向陽台中学校、向陽台小学校、泉松陵高校、東北学院榴ヶ岡高校、松陵中学校区地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会、松陵中学校 PTA、泉松陵小学校 PTA、向陽台中学校吹奏楽部親の会、向陽台小学校ひまわり吹奏楽団保護者会、泉地区交通安全協会泉支部松陵分会		
ねらい	小学生から大人までが演奏や運営に参加することで、異世代間交流や地域団体との交流を図り、さらに地域の方々に音楽の素晴らしさを知っていただく機会を提供するとともに、地域活性化の一助とする。 また、6 つの学校の生徒たちがコンサートを通して交流することで、心身の健やかな成長を育む機会とする。		
概要・成果	松陵ふれあいコンサートは 3 部構成で、第 1 部(中・高校生から社会人までの小合同演奏)、第 2 部(小学生から高齢者までによる合唱)第 3 部(小学生から社会人までの総勢約 200 人以上による大合同演奏と合唱)の内容で実施し、小学生から大人までの演奏者が演奏することが特徴のコンサートで、平成 30 年度で 27 回目を迎えた。松陵ふれあいコンサートは、参加者だけでなく多くの協力団体に支えられて地域の文化的行事として長く続いてきた。この事業をきっかけに出演団体が小学校に合唱の指導に向いたり、吹奏楽の合同練習では直接小中学生の指導をしたりすることで、地域の子どもの演奏技術の向上にもつながり、音楽教育にも貢献している。 また、地域の住民が気軽に足を運べるコンサートとして地域交流の場となり、地域活性化へと繋がっている。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわく元気広場	向陽台児童館・松陵児童センター・鶴が丘児童センター・松陵市民センターの 4 館が連携し、乳幼児親子対象の「ひろがれ！スマイルん」を実施した。	10 月 17 日	1	181
子どもゼミナール	地域で活動している団体と連携し、陶芸教室、クリニカルアート体験、オリエンテーリングとデイキャンプ、クリスマスリース作り、クリスマスケーキ作り等、小学生の体験学習の場を提供した。	7 月 31 日～ 12 月 22 日	5	198
ゆったり学びカフェ	地域住民が気軽に参加・交流し、仲間づくりの場を提供した。「おもてなしの飾り巻き寿司」、「夏をハーブで健やかに」、「バルーンアーティストから学ぶバルーンアート」、「ドリップカレンダー作り」、「冬におすすめのハーブ」、「フルートとオーボエの音色を楽しむ」等を実施。8 回のうち 2 回は山の寺地区と明石南地区へ出前講座を行った。	6 月 23 日～ 2 月 23 日	8	118

みんなで創る紙芝居講座	受講生が地域住民と交流しながら、講師による創作紙芝居実演会を通して創作紙芝居を学び、創作活動が続けた。3月には地域住民に向けて受講生の創作紙芝居の成果発表会を開催した。	7月26日～ 3月14日	8	50
いきいき健康講座	全9回の高齢者向けの講座で、主に健康に関する内容の座学や軽体操を実施した。レクリエーションを通し、受講生同士が積極的に交流し、楽しみながら健康寿命について考える機会となった。	5月18日～ 2月15日	9	254
らくらく教養講座	高齢者対象の教養講座として、気象、牡蠣、アート、遺跡、漢方等の文化的教養を学習した。また、いきいき健康講座と合同で健康講話や音楽鑑賞、実技や体験学習も取り入れることにより受講生の学びと交流を促した。	5月18日～ 2月15日	9	280
松陵ふれあい合唱	「松陵ふれあいコンサート」第2部への出演という目的で実施した。練習は小学生から成人まで交流を図りながら行ない、東北学院榴ヶ岡高校音楽部の小学校への出前指導を実施する事で、異世代交流を深める一助となった。	9月29日～ 10月27日	6	252
●みんなの力で地域防災・減災	防災専門家によるK I T IIを通じた避難所運営疑似体験学習及び避難所運営のあり方などについての講義を行い、避難所や避難者の在り方を理解し、もう一度考え直す機会とした。また、行政、学校等関係機関と地域との顔の見える関係づくりの一助となった。	8月25日	1	38
★泉松陵小学校社会学級共催事業「私たちの防災講座」	NHKの東日本大震災展示コーナーへの移動学習や、減災推進課職員による「おうち防災」の講話及び社会学級生によるサバメシ体験実習など、地域住民の交流が深まる講座を社会学級と共に企画開催した。	11月27日 1月17日	2	38
第29回松陵市民センターまつり	地域団体や住民、センター利用者の発表と交流の場として、展示発表、ステージ発表の開催及び町内会等による出店等多くの人々が来場した。また、中学高校生がボランティアや演奏演技などで活躍した。	11月11日	1	1,800
地域懇談会	担当エリアの町内会をはじめ地域諸団体等関係者の方と地域の課題・要望等についての情報交換を行った。また、松陵市民センターの事業や施設運営について改めて理解をいただき、今後の市民センター運営の資を得た。	6月2日 1月6日	2	52
市民企画会議「長く元気で！～健康寿命をのばそう！」	企画員が主体的に地域課題に取り組み、市民センターと協議しながら、健康をテーマとした市民企画講座「みんなでのばそう！健康寿命～元気で長生き」を企画・実施した。	6月7日～ 2月22日	11	35
市民企画講座「みんなでのばそう！健康寿命～元気で長生き」	市民企画会議「長く元気で！～健康寿命をのばそう！」にて会議を重ね「こころ」と「からだ」の健康向上を目的に「音楽」と「運動」の視点から講座を実施した。参加した地域の方々の仲間づくりと「健康寿命の延伸」の一助となった。	1月24日 2月14日	2	36

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

小学生「未来の松陵物語」発表会の開催支援

泉松陵小学校の先生から、4年生65名が総合的な学習の時間で「松陵地域を知る、残す、伝える」をテーマに何度も地域の中に足を運んで学んだ結果を、グループ毎に様々な発表形式でまとめて地域で発表させたいという相談を受けた。そこで多くの地域住民が受講している老壮大学の閉講式に合わせて発表会を開催することをコーディネートした。タブレット端末や紙芝居、模造紙、本など様々な媒体で未来の松陵に向けた子ども達の熱い思いの発表に、地域の方々は熱心に耳を傾けていた。また、子ども達も大人の質問に一生懸命答えていた。

発表会后、子ども達が作成した成果物を市民センターに数週間展示し、来館者へも披露した。

寺岡市民センター

〔沿革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山地区を受け持っている。

寺岡地区は、昭和 50 年代後半から急速に発展し、団地としては成熟しており、高齢化も進んでいる。一方、新しく造成された紫山地区は、若い世代を中心に住民も年々増加しており、寺岡地区とは対照的な年齢構成になっている。団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。また、紫山地域の開発が更に進み住宅地が広がっていることから、今後もますます発展と活性化が期待される地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	寺岡地域包括支援センター共催事業 ふるさとカフェ		
参加者	各回のテーマの県の出身者および興味のある方	延参加者	75 人
開催日	全 5 回 5 月 26 日（土）～11 月 24 日（土）		
協力者・協力団体	寺岡地域包括支援センター		
ねらい	県内外からの移住者が多い寺岡・紫山地区は、他地区と比較すると、住民同士の結びつきが強くはない。そこで、地域住民が気軽に集い、情報交換ができる場を提供し、地域コミュニティの活性化を目指す。寺岡地域包括支援センターと共同で開催することで、お互いの持つ地域の情報を共有・交換する。		
概要・成果	宮城県以外の東北 5 県をテーマにした交流会を行った。 故郷という共通のテーマを通じて参加者同士の心の距離が近くなり、仲間づくりの支援をすることができた。 地域包括支援センターを日頃利用しているが、市民センターの利用は初めて（もしくはその逆）の参加者も複数名おり、受講をきっかけに新たな居場所や情報を提供する機会を作ることができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子の広場	親子のふれあいや親のストレス解消に繋がる 3 B 体操・ヨガ・人形劇・サッカーなどの学びの場を提供した。	6 月 26 日 6 月 28 日 9 月 13 日 2 月 14 日	4	165
★親子で学ぶ防災『そなえよ！つねに！』	家庭における防災意識の向上を目指し、親子を対象に、講話と身の周りの物を使って、災害時に役立つ物を作る体験学習を行った。	9 月 30 日	1	12
子ども体験塾	小学生を対象に、おもしろ科学実験や森のどんぐりや木材で工作、調理実習などの体験学習の場を提供した。	7 月 25 日 9 月 1 日 10 月 10 日 1 月 26 日	4	72
ジュニアリーダーとあそぼう	ジュニアリーダーが主体となり、幼児・児童向けの工作講座の企画・運営を行った。	10 月 28 日	1	37

いずみふるさと歴史探訪会～いずみの歴史遺産を訪ねる～	ふるさと泉への愛着を深めることを目的に、地域ボランティアの案内で泉区内の史跡を巡り、地域の歴史を学習した。	6月6日～ 11月14日	6	107
老壮大学「多聞塾」	高齢者同士の交流と親睦を深め、仲間づくりにつながるよう、年間を通じ健康、歴史、社会問題などの様々な分野の学習を提供した。	5月10日～ 2月7日	10	398
寺岡・紫山地域魅力づくりプロジェクト『めざせ！みんなが集まる街づくり！2018』	「みんなが集まる街づくり・街づくりにつながる人づくり」を目指して、地域諸団体と連携しながらウォーキング、オリエンテーリング、歴史講座、作品展(3日間)を開催し、地域交流の場を提供した。	5月13日～ 12月11日	6	434
★防災講座「非常時にもパンが食べられる『フライパンで作れるパン』&『家庭における防災対策』	地域の防災力の底上げのため、防災時にも応用可能な調理方法と防災対策についての学習を行った。社会学級と共催したことで、社会学級の活動も地域住民へ周知することができた。	9月4日	1	18
寺岡・紫山市民文化祭	地域団体やサークルの日頃の活動の成果を作品展示やステージ等で発表した。各団体が協力し合い、自分達でつくる文化祭という意識が高まった結果、活気あふれる文化祭になった。	10月27日 10月28日	2	1、200
寺岡・紫山地域懇談会	地域住民や利用者と地域情報や地域課題について情報交換を行い、顔が見える関係づくりが進んだ。	7月7日 9月2日 3月9日	3	35
市民企画会議「市民センターの講座を企画しよう！」	市民から企画員を募り、共に地域の課題やニーズを検討し、地域課題改善のための講座を企画・運営するための会議を行った。	5月8日～ 1月16日	5	12
市民企画講座 探求、自分。～もう一歩 踏み出そう～	気軽に話せる場を設け、今の自分から一歩踏み出す一助となるような講座を開催した。耳つぼトリートメントや腹話術ショー、コミュニケーションゲーム等を行い、心をほぐし、コミュニケーションを円滑にする考え方について、交流しながら体験した。	9月11日～ 1月16日	5	46

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

寺岡小児童・寺岡中学生の職場訪問・職場体験を受入れ

寺岡小学校2年生・3年生の合計約60名がまちたんけんや地域調べの学習で来館した。市民センターで働いている人やその役割、バリアフリー、補助避難所としての備蓄についてなどを学習した。また、寺岡中学校2年生6名を4日間、1年生3名を1日間、職場体験で受入れ、職員との共働をとおして勤労の意義や大切さを、地域住民のサークル活動などの見学をとおして社会教育の重要性などを学習した。2年生は講座を自ら企画し、寺岡・紫山市民文化祭で紙面発表することができた。今後も小学校や中学校と連携し、児童や生徒を受け入れ、市民センター職員や地域住民との交流などの体験を通じて、地域社会の一員としての自覚を持ち、正しい職業観や職業倫理観が醸成されるよう支援していく。

〔 浴 革 〕

長命ヶ丘市民センターは、平成 5 年 4 月に泉区 10 番目の市民センターとして開館した。その周囲は昭和 50 年代初めに造成された長命ヶ丘団地で形成されている。利用者の約6割が長命ヶ丘地区、約2割が近隣地区、残り1割が他地区の利用者となっており、地域に密着した市民センターといえる。地域利用団体の 34 サークルをはじめ、月に約 50 以上のサークルが活動している。

当市民センターは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の支持を得ながら、サークル活動はもとより、地域の生涯学習活動の拠点として定着しており、その役割と機能は重要性を増している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「長命ヶ丘五魂祭に向けてピーアール作戦」		
参加者	地域住民	延参加者	1,032 人
開催日	全 3 回 7 月 28 日(土)、9 月 30 日(日)、11 月 25 日(日)		
ねらい	長命ヶ丘地域にある地域資源（長命太鼓、長命音頭、長命ヶ丘劇団「愛の鐘」、ゆるキャラの歌「みんなずっと」、万灯神輿）は、住民が力を結集して作り上げて来た地域の財産であり、今後も引き継がれていくべき、重要な地域資源である。しかし近年、高齢化等が進み、存続が難しい状況になっている。そこで、地域資源の継承に向け、5 つの団体の P R 活動を行い、地域住民に興味・関心を持ってもらうことを目指す。		
概要・成果	地域団体の活性化に向けて、5 つの団体の方々が企画員となり、地域行事で各団体の P R 活動を行った。スポーツフェスタでは、各団体が活動を紹介した。また、もちつき大会では、長命ヶ丘劇団「愛の鐘」が朗読劇を行い、もちつき大会に参加した子どもたちや地域の方々に活動を披露した。これらの取り組みにより、地域住民に各団体のことを知ってもらう機会となり、活動への興味・関心を持ってもらうことができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●長命ヶ丘保育所・児童センター・市民センター3 館共催「子育て講座」	3 館が協働して子育てに関する事業を実施した。児童センター・保育所と共催することで、より多くの方に参加してもらうことができた。	6 月 14 日～ 12 月 13 日	5	227
フレンドスクール	地域の中で学びを通じて自分づくりや異世代交流によるコミュニケーション力向上を目指して、地域の小学生が泉館山高校家庭部の指導でパンケーキ作り、地域住民の指導で水彩画、ラージボール卓球、書初めを行った。	8 月 1 日 8 月 17 日 9 月 28 日 12 月 24 日	4	51
★小学生の防災講座「減災を考えよう！」	3 年生児童を対象に、自然災害についての講話と防災・減災スタンプラリーを行った。災害について自分で考え、学び合い、判断する力を養うことで、防災・減災のみならず助け合いや人づくりの土台を築ききっかけとなった。	9 月 28 日	1	56
長命大学	歴史や健康、心理学、健康体操、館外学習、音楽鑑賞など様々な事を学び、1 月は演芸を鑑賞し食事を催して、参加者間の交流を図った。運営委員会と各班の方々の協力を得て 1 0 回の講座を開催した。	5 月 17 日～ 2 月 21 日	10	678
食えることから見直そう！ 「シニアのかんたん・たのしい・おいしい料理」	高齢者でも簡単に作れるレシピを教えていただき、実生活に活かせる内容となった。また、受講生同士の交流の機会となった。	11 月 16 日 11 月 30 日 12 月 7 日 12 月 14 日	4	38

みんなでアップ！健康寿命	仙台リハビリテーション専門学校と連携して、介護予防のための軽体操や脳トレーニング、肩のストレッチや歩行バランス向上エクササイズ、ロコモ体操などを行った。地域の高齢者が介護予防に関して学び、実践し地域住民の健康づくりに役立った。	8月24日 8月31日 9月21日 10月5日	4	134
長命コンサート	第1回目は、地域在住の三味線奏者をお招きしてコンサートを開催した。第2回目は地域にある高校の卒業生が多く在籍するビッグバンドのジャズコンサートを開催した。	6月16日 12月11日	2	285
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画検討会	地域の各団体が連携し、「学校に泊まろう」や「もちつき大会」などの企画・検討を進めることで、子どもの健やかな育ちを目指す事業を実施することが出来た。	4月7日～ 11月25日	7	473
★◎地域力創造支援事業 目指そう！災害に強い長命ヶ丘	連合町内会を中心に小学校や中学校と連携し、長命ヶ丘地域が一体となった災害に強いまちづくりを目指して、地域住民が話し合いを重ね、地域防災訓練と防災研修会を実施した。	4月～2月	12	1,309
市民企画会議 地域資源まるごとイベント企画しませんか	長命ヶ丘にある地域資源「長命音頭」「長命太鼓」「ゆるキャラの歌」「劇団愛の鐘」「万灯神輿」の五つの団体が企画員となり、これらを一堂に披露するイベントを企画した。	4月～2月	15	148
長命ヶ丘市民センターまつり	市民センターで活動しているサークル団体の学習成果を発表する場として、また地域の幅広い世代の住民が楽しく交流する場として開催した。	10月13日 10月14日	2	2,500
長命ヶ丘市民センター地域懇談会	地域の諸団体が抱える問題などを把握することで、市民センターとして取り組むべき課題を見つけ、解決策を講じることができた。	8月28日 12月20日	2	31
読み聞かせボランティアフォローアップ研修	昨年読み聞かせボランティア養成講座を受講し、基本的な知識や技術を習得した参加者を対象に、実践に向けた内容の講座を行った。新たな活動希望者には会員が減少気味の地域と近隣のサークルを紹介した。	6月2日 6月9日 6月23日 6月29日	4	45
ロングライフヒルコミュニティ協議会連携事業「学校に泊まろう」	子どもたちが学校に泊まり、サバメシづくり等通し防災を学びながら、同世代や地域の大人、中高生等と交流した。	7月21日 7月22日	2	276
ロングライフヒルコミュニティ協議会連携事業「もちつき大会」	子どもたちが、臼と杵を使った餅つきを体験し、伝統文化に触れるとともに、地域の大人や同世代との交流を楽しんだ。	11月25日	1	132

【平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」の活動支援

おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」は、平成29年度に実施した講座「おもちゃドクターボランティアフォローアップ研修」から立ち上がった団体である。

市民センターでは、毎月のセンターだよりやチラシで活動に関する広報をしたり、修理したおもちゃを持ち主に返す際の窓口になったりする形で活動支援を行っている。また、センターまつりにも参加してもらうことで、地域の方々にサークルを知ってもらい、活動の幅を広げられるようにサポートした。これらの取り組みにより、徐々に修理の依頼も増え、活動が活発になってきている。

松森市民センター

〔沿革〕

松森市民センターは平成 12 年 1 月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内 11 番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和 40 年代から 50 年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室などを備えている。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	松森・鶴が丘ウィンターブックフェスタ		
参加者	①成人 ②幼児親子 ③どなたでも	延参加者	198 人
開催日	全 6 回 ①11 月 30 日（金）②12 月 1 日（土）③11 月 28 日（水）～12 月 1 日（土）		
協力者・協力団体	松森図書室図書ボランティア		
ねらい	「本」をテーマに幼児から高齢者まで幅広い年齢層の住民が図書に触れ、親しむことが出来る機会を提供し、読書推進につなげる。また、地域住民同士が気軽に交流できる場となるよう、当市民センターの図書室の利用者拡大を図る。		
概要・成果	地域の方から譲って頂いた本を利用した古本の無料譲渡会の開催中に、文学講話や親子向けのおはなし会、ワークショップや図書室の紹介等を行うことで様々な年代の方々に気軽に本に親しんでもらう機会となった。また、松森市民センターの図書室の周知や利用者拡大にもつなげることができた。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン「こどもの杜」	鶴が丘保育所、鶴が丘児童センターと共催し子育て支援のための情報共有や親子で交流できる講座①親子サッカー教室②親子でパン作りと絵本の読み聞かせ③育児講話を実施した。	6 月 12 日 9 月 13 日 11 月 10 日	3	121
ジュニアちゃれんじ！	児童の異世代間交流を促し、ものづくりや体験を通して創造性を育むために、①泉松陵高校科学部と科学実験の体験②ペットボトル空気砲の作成とゲーム③トマトを使った調理体験④将棋体験を実施した。	7 月 27 日 8 月 22 日 11 月 17 日 12 月 8 日	4	58
命をつなぐ防災講座	大規模災害時に発生する事態に対し、どのように判断し行動するか考えられる力を身に付けることが大切である。子ども達への防災学習を通して、防災への意識を高める機会とした。	6 月 26 日 7 月 4 日	2	87
松森ほっとサロン	学習や社会参加の機会が少ないという方を対象に、気軽に参加できる学びの機会を提供した。①漢方講話②大人の食育③土人形の絵付け体験④手拭いで作る巾着とあずま袋	7 月 6 日 8 月 3 日 9 月 28 日 11 月 9 日	4	59

シニアのための健康アップ教室	地域の高齢者を対象に、脳トレゲームや軽運動の方法を学び、認知症予防や健康づくりに役立てた。脳トレゲーム・ストレッチ・リズム体操・バランスボールエクササイズ	11月1日～ 12月6日	5	72
城前大学	地域の高齢者に学習の場を提供するために①歴史講話②環境施設見学会③軽体操④スポーツドリンク作り⑤雅楽の演奏会⑥指ヨガ⑦軽体操⑧歴史講話⑨コンサートと閉講式を実施した。	4月～2月	9	479
松森・鶴が丘あったかサロン～みんなで一緒に介護予防	地域によっては住居が市民センターから遠く、歩いてくることが困難な高齢者も多いため、気軽に参加できる介護予防に関する出前講座を開催し、松森・鶴が丘地域全体の交流の促進を図った。	9月21日～ 1月31日	5	140
松森ハートフルコンサート	気軽に楽しめるコンサートなどを開催して地域の方々の来館を促し、住民同士の交流の機会を提供した。①ビッグバンドによるジャズコンサート②雅楽の演奏会③素話④吹奏楽コンサート	6月16日 9月20日 11月28日 12月16日	4	293
松森市民センターまつり	地域住民の交流と地域活性化を目的に、市民センターを利用するサークルによる展示、舞台発表、出店等を行った。	10月21日	1	1,500
松森・鶴が丘地域懇談会	地域内の団体や関係機関の集まる機会を通して活動状況や課題などについて意見交換を行い、情報共有を図るとともに必要に応じて開催事業へ反映させた。	5月25日 12月2日	2	38
市民企画会議「本」をテーマに講座を考えてみませんか？」	「本」をテーマに企画員を募集し、松森市民センターが管轄する図書室が、気軽に交流できる場となるような講座を企画・実施した。	5月23日～ 12月1日	7	28

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

松森市民センター図書室ボランティアの活動支援

松森市民センター図書室ボランティアは、松森市民センター内の図書室における本の貸出しや整理などを主な活動として行っている。平成30年度は図書室の周知や利用増加を目標に活動しており、特に子育て世代の利用が少ないことから、幼児親子対象講座の中に図書室の利用について説明、PRの時間を設けた。また、講座内容に沿った本の説明や幼児への折り紙配布などで興味を持った多数の親子が利用登録を行い、利用者の増加へとつながった。

これらの図書ボランティアの活動や市民センターだよりでの募集記事によりボランティアへの関心を持つ利用者也出ていることから、今後も市民センターでは、講座の講師等をお願いしたり、定例会に参加し課題を共有したりするなどし、活動の支援を継続していきたい。

桂市民センター

〔沿革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅と高層マンションで構成される新興住宅団地で、緑が多く高齢化率も比較的低い街である。一方、将監地区は昭和 40 年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館であり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者まで幅広い。平成 13 年 12 月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座 クリスマスリースを作ろう		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	32 人
開催日	全 2 回 12 月 1 日(土)～12 月 8 日(土)		
協力者・協力団体	桂児童センター・桂島緑地未来プロジェクト		
ねらい	桂島緑地内を散策し、緑地に自生する植物を使ってクリスマスリースを作成する。リース作りを通して、身近な自然環境の大切さへの理解を深めるとともに、自然に親しむ機会とする。また子どもから高齢者まで様々な世代の交流の場とする。		
概要・成果	地域の賛同者が集まって発足したボランティア団体「桂島緑地未来プロジェクト」のメンバーが講師となり、桂島緑地の植生を紹介してもらいながら緑地を散策し、リースの材料となる藤やどんぐりなどの収集作業を行った。集めた素材を使ってクリスマスリースを製作し、桂市民センター、桂小学校、桂島緑地に展示し地域の魅力を発信した。対象年齢を制限しなかったことで、小学生親子から高齢者まで幅広い年代の地域住民が集まり、交流することができた。「家ではなかなか出来ない体験ができ、親子で楽しい時間を過ごすことができた。」「身近な場所にこんなに豊かな自然があることがわかった、楽しかった。」などの声が多く寄せられた。また、地域で活動していボランティア団体の活動を地域の方に知ってもらう良い機会ともなった。 講座終了後、企画員からは次年度以降も別の角度で身近な自然を楽しみ、地域の良さを発信する講座作りをしたいという意見があった。地域への愛着を育む活動への支援の継続を目指していく。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
桂の森のキッズランド	地域の子育て支援に関わる 4 団体が共催し、乳幼児親子がともに楽しめる参加型のミュージカルを上演した。	9 月 20 日	1	80
桂ジュニアカレッジ	小学生を対象に、学校では体験できない様々な体験学習の場を提供した。ウォーターカーニバル（水遊び）、虫の観察会、焼き芋、工作を実施。	7 月 31 日 9 月 22 日 11 月 15 日 2 月 13 日	4	149
運動の科学～目指せ！貯筋力アップ～	地域の高齢化が進む中、地域住民が自立した生活を維持する取組みとして、健康寿命の延伸に必要な筋力アップを目指し、①ウォーミングアップの仕方、②ストレッチの基本、③正しいウォーキングとジョギング、④筋力アップに必要な食など、「運動と食」について正しく効果的な方法を学習した。	1 月 12 日 1 月 19 日 2 月 2 日 2 月 9 日	4	75

《泉区》

桂友くらぶ（老壮大学）	高齢者が自分達を取り巻く様々な事柄に関心を持ち、豊かで充実した生活を送るための一助とすることを目的に開催。健康や、歴史、音楽など多様なテーマで定期的に学びの時間を楽しむことができた。平成 30 年度は運動・歴史・音楽の三つを公開講座として広く呼び掛け、参加を促した。	5 月 10 日～ 2 月 14 日	9	350
防災・減災を学ぼう！	地域や個人の防災力向上を目指し、自然災害に関する講話、自助・共助のための実践的なマニュアルの紹介、防災クイズを実施した。震災未経験の小学生を含めた地域住民が楽しみながら実践的な知識を身につけることができた。	9 月 8 日 3 月 10 日	3	106
桂小学校地域交流室 DE ちょこっと寺子屋	学校や地域ぐるみで子ども達を見守る意識を高めることを目標に、桂地域住民を講師に迎え健康講話・キャンドル、簡単おもちゃ、バルーンアート、ひな人形作りを実施し、地域の方と児童との交流の場を提供した。	11 月 30 日～ 2 月 15 日	5	56
かつら情報局	地域住民の地域活動への参画を促す情報発信事業を目指し、各団体から情報収集を行った。情報伝達の現状を共有し、地域情報のホームページ発信について話し合った。	5 月 8 日～ 1 月 26 日	5	15
桂ロビーコンサート	フォークグループによる「フォークコンサート」や地域諸団体と共催の「クラシックコンサート」を開催し、地域住民が気軽に音楽を鑑賞し、芸術に親しむ機会となった。また、児童センターと共催して実施した「クリスマスコンサート」では、児童センターハンドベルクラブの子どもたちの発表を楽しみ、マリンバ演奏やボディパーカッション体験で打楽器の楽しさを知ることができた。	7 月 14 日 11 月 18 日 12 月 15 日	3	276
桂文化祭	桂連合町内会とセンター利用団体を中心とした実行委員会で企画し開催した。市民センター利用団体や近隣の小中高生の日頃の学習成果発表の場、地域住民同士の交流の場となった。	10 月 20 日	1	855
桂地域懇談会	地域課題として、地域団体の事業を推進する新しい担い手不足や、少子化に伴う地域と子どもとのつながりを作ることの難しさ等について意見交換を行った。	7 月 24 日 2 月 26 日	2	22
桂小学校区社会学級連携事業大人の健康講座～知っ得豆知識～	少子高齢化が進む桂地域の現状をふまえ、家庭ですぐに実践できる食に関する健康法を学んだ。チーズの効用などを学びながら、日々の食生活の見直し改善へのきっかけを作るとともに、参加者同士の交流が図られた。	11 月 27 日	1	32
子どもが喜ぶ人形劇の人形づくりボランティアスキルアップ講座	子どものための人形劇の人形作りを担う人材育成を目指して実施した。ボランティア活動についての学習、布パネルシアター作りを行い、児童センターの行事でお話し会を開催し、子ども達に披露することができた。	9 月 6 日 9 月 13 日 9 月 27 日 10 月 4 日	4	25
桂小学校区社会学級連携事業企画会	社会学級の開講式から参加したことで、企画員と良好な関係を築き、円滑に話し合いを進めることができた。次年度も、企画員との交流を深めながら積極的な意見交換ができるよう努めたい。	6 月 6 日～ 11 月 27 日	5	20
市民企画会	地域の自然資産、桂島緑地の魅力を知ってもらう講座を企画、実施した。人数は少なかったが、講師との打合せを通して桂地域の魅力を再発見し、今後の活動のアイディアを得るなど充実した活動となった。	8 月 30 日～ 2 月 2 日	14	30

〔平成 30 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「100 まで元気・かつら歩食塾」の活動支援

「100 まで元気・かつら歩食塾」は、平成 30 年 5 月に結成されたサークル団体であり、平成 29 年度主催事業「運動の科学～健康アップのワンポイント効果！」と平成 30 年度主催事業「運動の科学～目指せ！貯筋力アップ～」の受講者がメンバーとなっている。講座で学んだ筋力アップにつながる「運動と食」についての正しく効果的な方法を基本に、健康寿命を延ばすための活動を継続して行うことを目指している。市民センターでは、自立した生活を維持することができる健康な地域住民が増えることに役立つよう、市民センター便りで新しいサークルの紹介をしたり、サークル体験講座に参加を促したりするなど、団体の活動を支援している。

南中山市民センター

〔沿革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター（サンライフ泉）」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 連合町内会傘下 16 町内会で、地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	まなびねっと「いずみ中山」交流事業		
参加者	南中山・北中山小学校の児童と保護者	延参加者	116 人
開催日	全 3 回 7 月 16 日（月）、12 月 22 日（土）、2 月 11 日（月）		
協力者・協力団体	南中山小学校おやじの会、南中山小学校区体育振興会、南中山地区社会福祉協議会 北中山小学校おやじの会、北中山小学校区体育振興会		
ねらい	いずみ中山地域の親子を対象に、地域団体と連携し、自然体験や伝統文化に触れる機会を提供することで、子どもたちの感性を磨き、創造力を養う。また、地域の人々が交流事業に共に取り組むことで人と人とのつながりを深め、子どもたちの健全育成の一助とする。		
概要・成果	まなびねっと「いずみ中山」推進委員会で企画した事業で、7 月に広瀬川で川遊び、12 月は門松作り、2 月は雪山であそぼうと体験学習を基にした小学生の交流事業を展開した。専門家の指導のもと、7 月の川遊びでは普段体験できないカヌーこぎや生物観察などを楽しんだ。12 月はお正月飾り（ミニ門松）を作り、併せてお正月飾りの謂れを学んだ。竹や松などの材料は、推進委員やボランティアが地域の方の好意でいただいて集め、土台となる缶は給食センターの不要品を利用した。竹を切ることや、土台となる缶にこもを巻き縄を結ぶという作業もなかなか難しかったが、時間内に立派なミニ門松が出来上がった。2 月の雪山で遊ぶうでは、スノーシューを履いて雪山を散策し、冬の泉ヶ岳の自然を観察した。南中山・北中山両小学校の先生も参加するなど、学校の協力や情報共有を図ることができ、推進委員会と学校との繋がりがより強化された。また、地域の団体と連携・共催することにより、地域全体で子育てをするという意識が高まってきた。さらに、親子で参加する事業のため、子どもたちの交流や成長を目的にするだけでなく、地域間の交流にもつながり、家庭の中でのコミュニケーションを深める一助にもなった。		

〔平成 30 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	子育て世代へ向けた学習機会の提供と地域の子育て環境の充実を図るため、2 つの児童センターとの連携し、託児付きで①アクセサリ作り②タイ式ヨガ③おやつクッキング④食育コンサートを開催した。	6 月 27 日 7 月 4 日 9 月 13 日 9 月 27 日	4	103
こどもワンダークラブ	小学生向けの体験学習を通して、心身の健やかな成長を図ることを目的に①「スポーツ吹き矢に挑戦しよう!」、②「楽しい! プログラミング体験」、③「水の万華鏡を作ってみよう!」を開催した。	12 月 15 日 12 月 27 日 1 月 12 日	3	38
インリーダー研修会	南中山・北中山小学校区子ども会育成会と共催でインリーダー研修会を開催した。次年度の子ども会活動の中心となる児童が活動に必要な知識やスキルを学び、また、その保護者も子ども会活動の意義や世話人の役割を学んだ。	12 月 1 日	1	55

ほがらかシニア塾	地域の高齢者を対象に、心身共に健康で豊かな生活が送れるよう様々な分野で講座を開催した。	5月～2月	9	464
市民企画講座 いずみ中山にぎわいプロジェクト ちょこつと脳活しませんか？	高齢者が住み慣れた地域で元気に自立した生活を送ることができるよう「健康」に関する講座と普段参加しない人たちが気軽に足を運べるような講座（脳活性化プログラム体験、ちぎり絵体験、ハンドベルコンサート）を開催し、参加者が楽しく学び、参加者同士が交流する機会を設けることができた。	11月9日 11月30日 12月20日	3	108
まなびねっと「いずみ中山」推進委員会	地域の子どもたちの交流や健やかな成長を促すために、『まなびねっと「いずみ中山」交流事業』を企画した。また、事業実施のための助成金申請検討や情報交換、実施後の反省会を行った。	4月21日～ 3月9日	7	31
地域防災講座	南中山地区各单位町内会より役員が参加して避難所運営ゲーム（HUG-S）を体験した。災害時を想定しての避難所の運営について話し合い、活発に意見を交わした。	8月19日	1	28
◎地域力創造支援事業 クリーン&グリーンアップ西中山	広報の基礎を学ぶ講座と「地域の旗」を製作するワークショップを開催し、地域の旗とのぼり旗をつくった。また、記念式典に向け実行委員会を5回開催した。新しい住居表示図を作成し、町内会全戸および関係各機関に配付した。7月22日（日）に記念式典を開催し120人が参加した。	4月25日～ 11月8日	9	227
いずみ中山フェスタ	地域諸団体、学校、個人や南中山市民センターを拠点に活動するサークルが、舞台発表、展示発表、模擬店、子ども向け催事などで日頃の学習成果を発表し、地域のさまざまな世代が交流した。	10月20日	1	850
地域懇談会	市民センターが「学びを通じた人づくり」「地域づくりにつながる人づくり」を進められるよう、地域町内会や子どもに関わる各主体と意見交換を行った。	5月11日 11月14日	2	14
図書ボランティア養成講座	ボランティアや図書に関する基礎知識、本の装備や修理などのスキルを学んだ。講座を経て図書ボランティアサークルが立ち上がり、学びを通じた人づくりの第一歩となった。	11月22日～ 1月24日	5	45
いずみ中山市民企画会議	地域課題について積極的に話し合われ、地域の現状を共有し把握することができた。市民センターの講座についてや企画から実施までの流れなどを理解してもらう良い機会となった。	6月13日～ 1月23日	5	25

〔平成30年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っふ」への活動支援

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っふ」に所属する中学生から高校生の16名のメンバーが地域の子ども会や町内会の行事で様々なボランティア活動を行っている。当市民センターでは月に一回行われる定例会の準備や、地域団体からの活動要請の連絡や参加者の調整、事務手続き、ジュニアリーダー向けの研修の案内など、サークル活動の取りまとめ役を担い、活動の支援を行っている。

また、市民センターは、子ども会や地域のまつりなどで行うゲームの進め方やバルーンアートなどの製作の練習にも使われており、サークルの話し合いや情報交換の場となっている。